

春日市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
調査結果報告書

令和5年4月

春日市

目 次

第1部 調査の概要	1
第2部 調査の結果	3
1 回答者の基本属性等	3
2 設問ごとの回答結果について	7
第3部 調査結果の分析	67
1 リスクの発生状況	67

第 1 部
調査の概要

1 調査の目的

春日市に在住する高齢者の日常生活の状況や健康状態等を把握し、今後の高齢者保健福祉行政及び介護保険事業に活かすとともに、「春日市高齢者福祉計画 2024・第9期介護保険事業計画」策定の基礎資料とするため。

2 調査の対象

令和5年2月1日現在、春日市在住の65歳以上の高齢者のうち要介護認定を受けていない方の中から無作為抽出した1,200人。

3 調査の方法

郵送による配布・回収

4 調査の期間

令和5年2月16日（木）から令和5年3月10日（金）まで。
ただし、集計は令和5年3月20日（月）までに回収されたものを含んでいる。

5 回収結果

発送数	有効回収数	有効回収率
1,200 通	737 通	61.4%

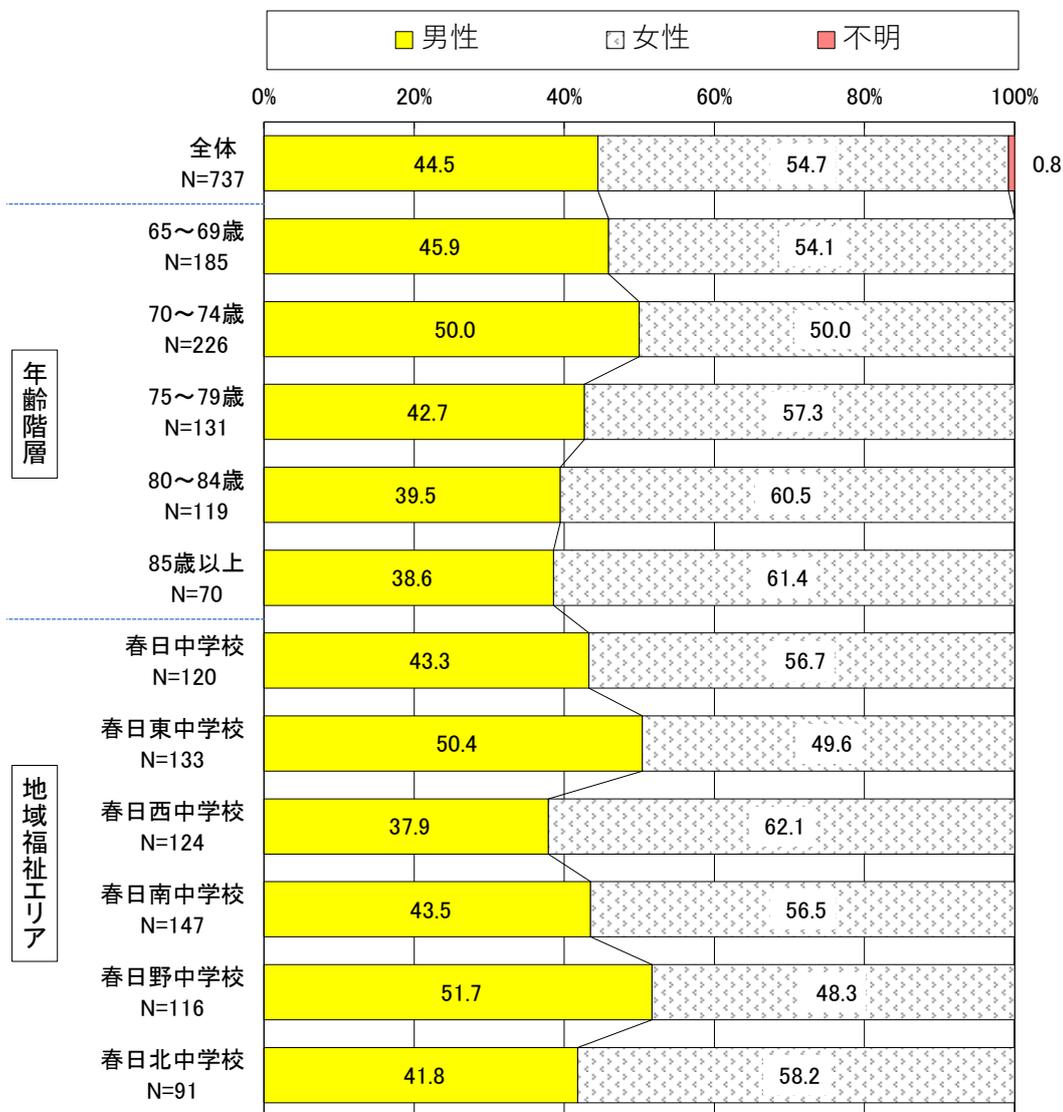
6 報告書の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- (2) 複数回答を許した質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることになります。
- (3) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合があります。
- (4) 図表には、属性（性別、年齢階層など）別のクロス集計結果を盛り込んでいますが、便宜上、要支援1と要支援2の認定を受けている人を「要支援1・2」、認定を受けていない人を「一般高齢者」と表記しています。

第 2 部
調査の結果

1 回答者の基本属性等

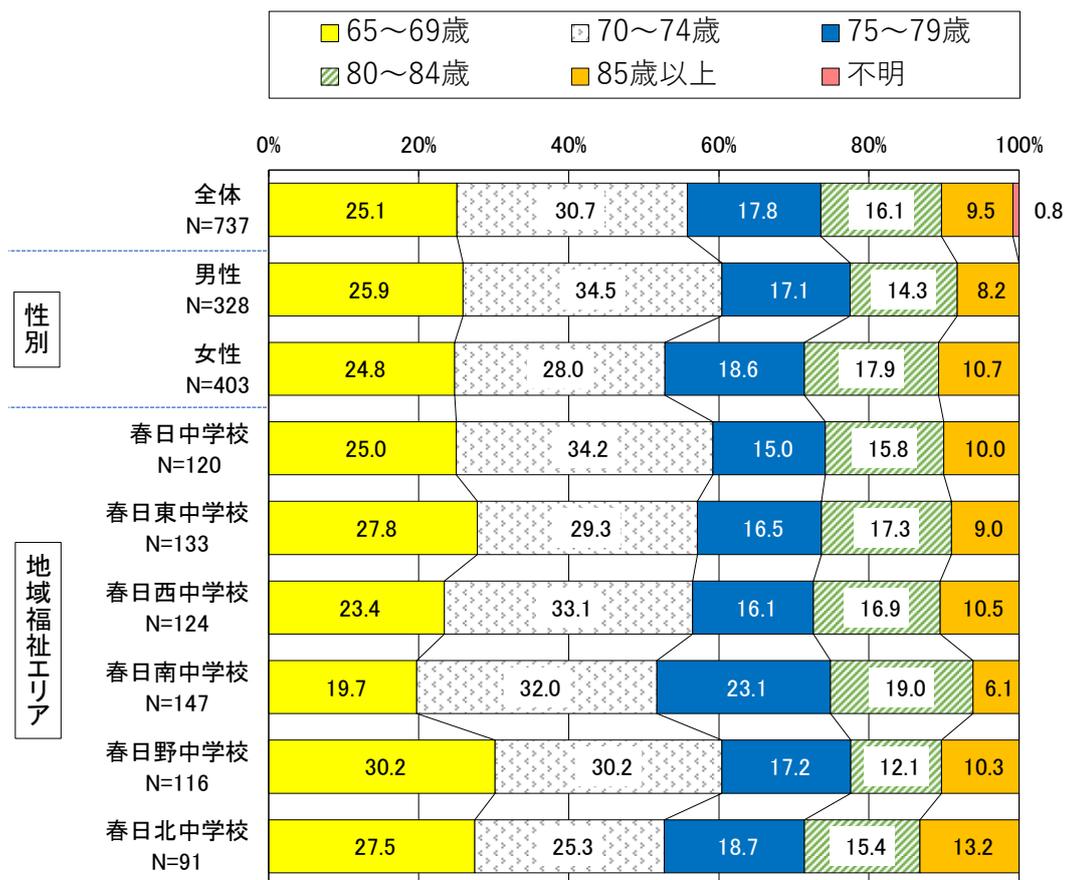
性別



※全体の基数(N)には、属性不明者が含まれるため、内訳の基数(N)の和とは一致しない(以下同じ)。

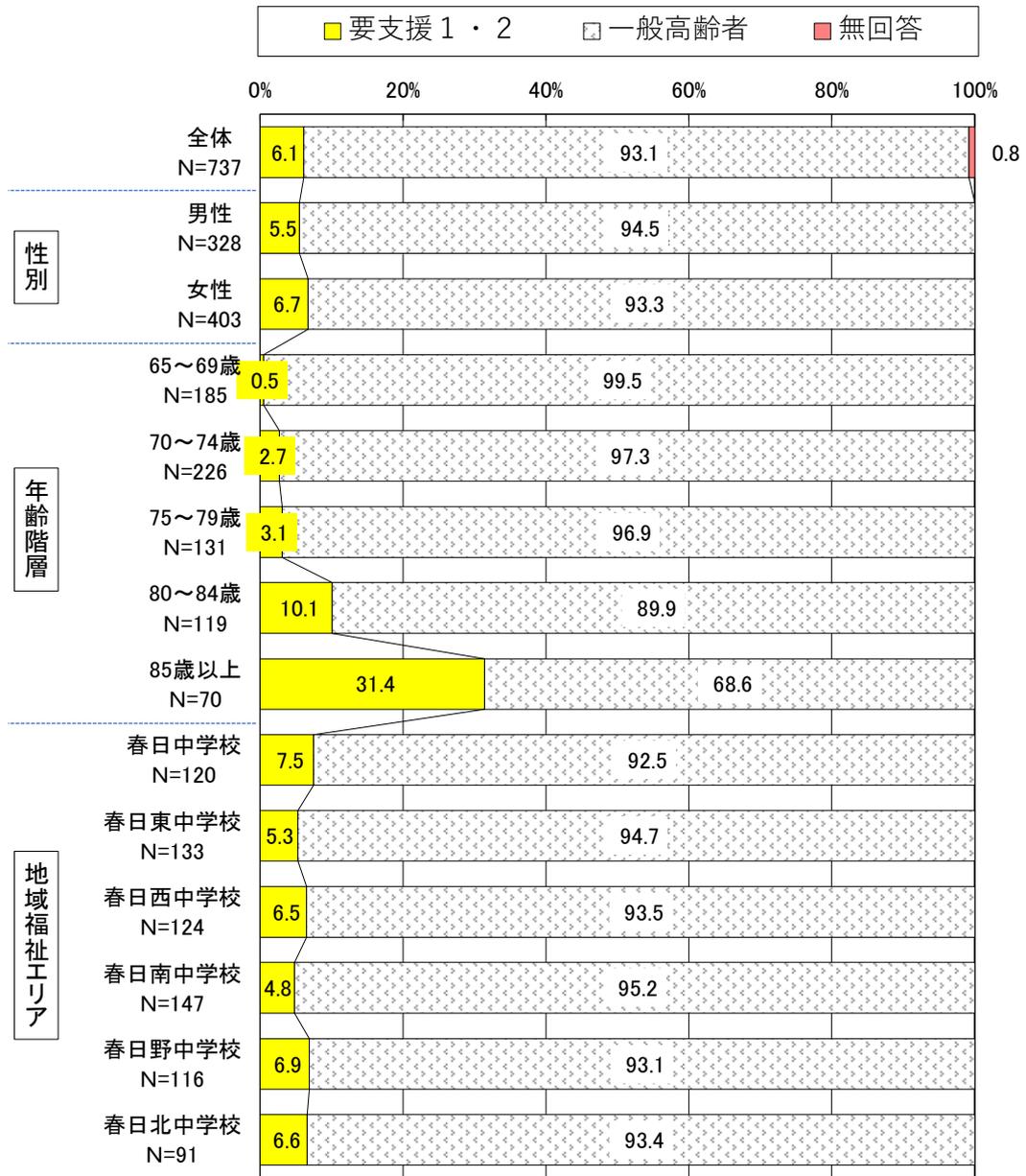
- 回答者に占める「男性」の割合は44.5%、「女性」の割合は54.7%となっています。

年齢



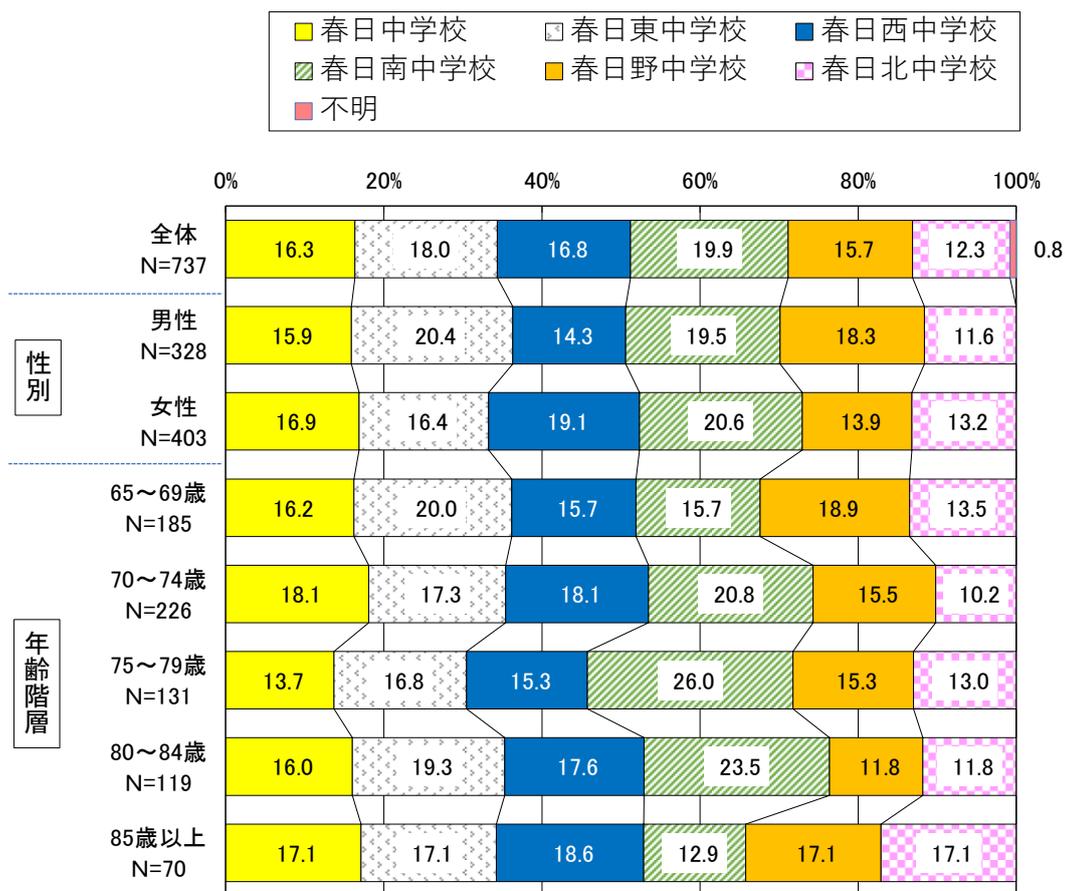
- 回答者の年齢階層割合は上のおりで、75歳未満の前期高齢者が55.8%を占めています。
- 男性に比べ、女性の方が75歳以上の割合が高くなっています。

要支援認定状況



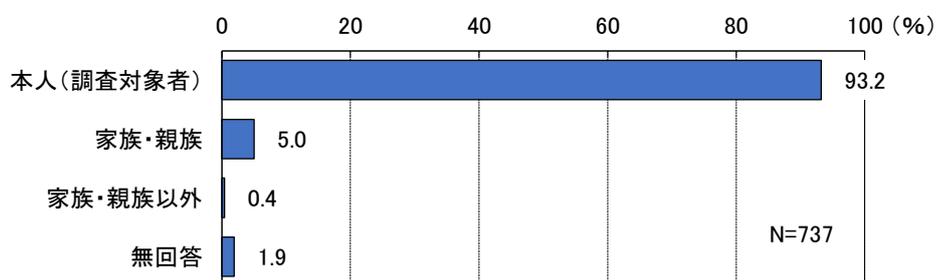
- 回答者のうち、要支援の認定を受けている人の割合は6.1%となっており、80歳以上でその割合が高くなっています。

居住している地域福祉エリア



● 回答者が居住している地域福祉エリアは上のおりで、「春日南中学校」エリアが最も多くなっています。

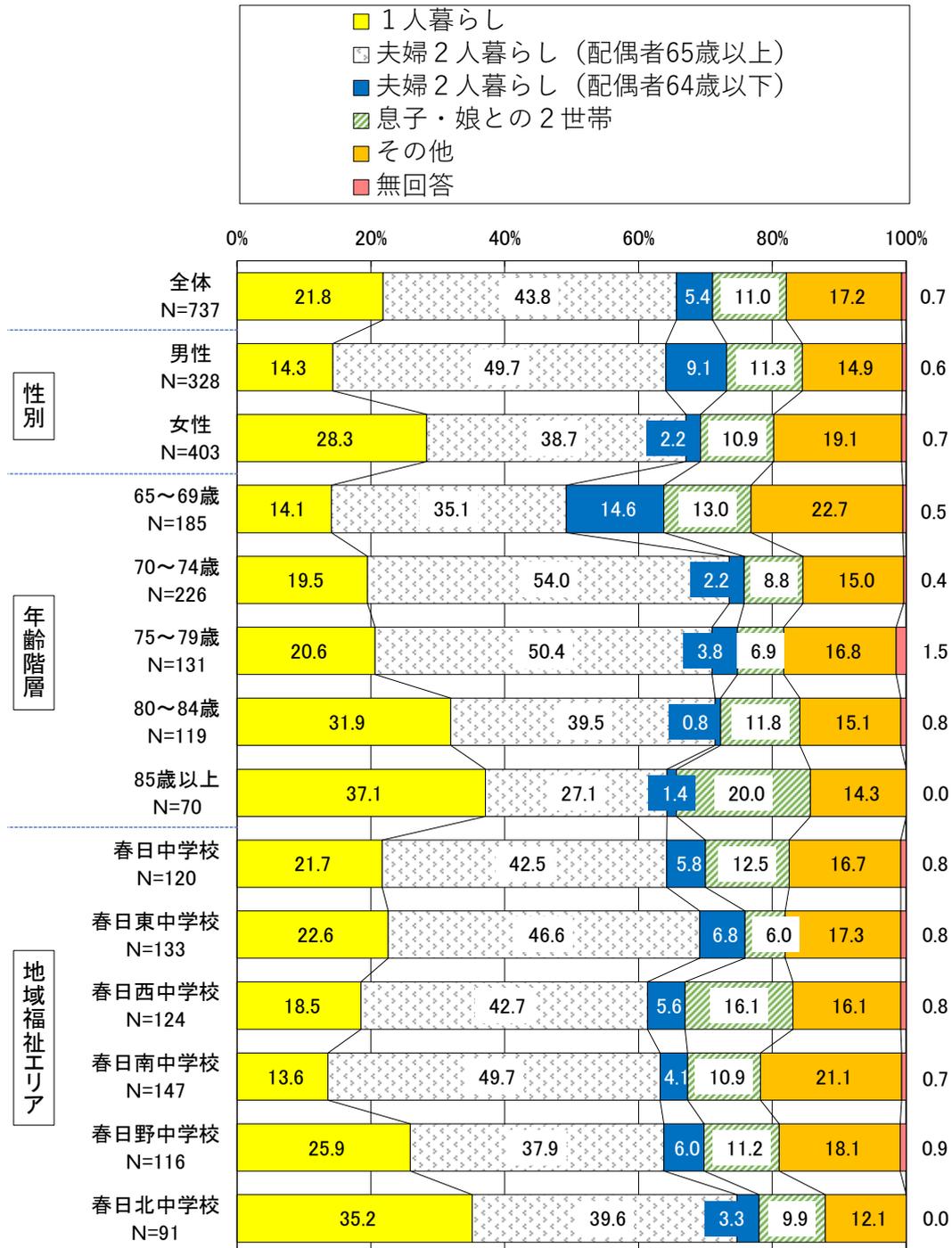
◎この調査票を記入してくださるのはどなたですか。(〇はいくつでも可)



● 「本人」の記入割合が全体の93.2%を占めています。

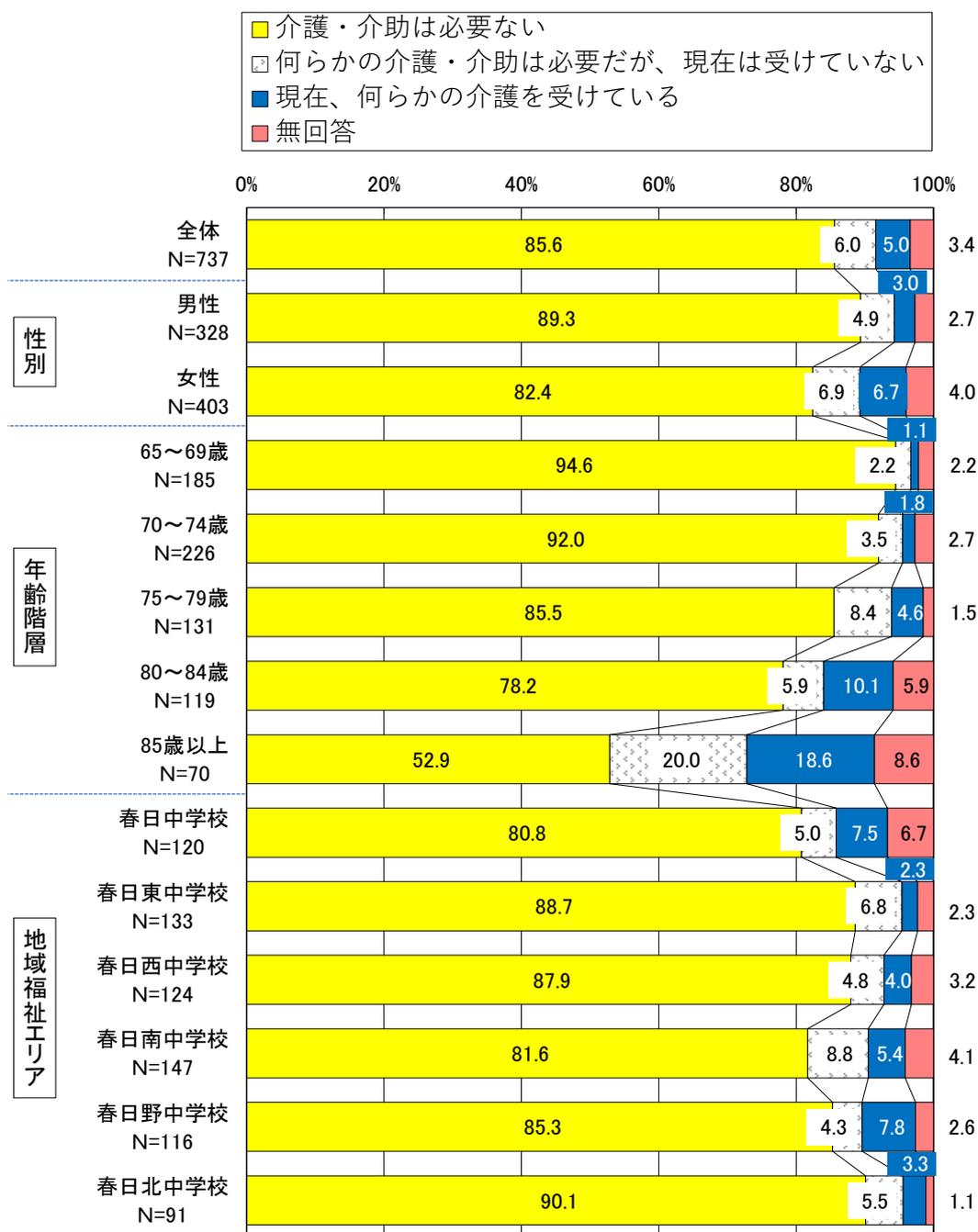
2 設問ごとの回答結果について

(1) 家族構成を教えてください。(1つに○)



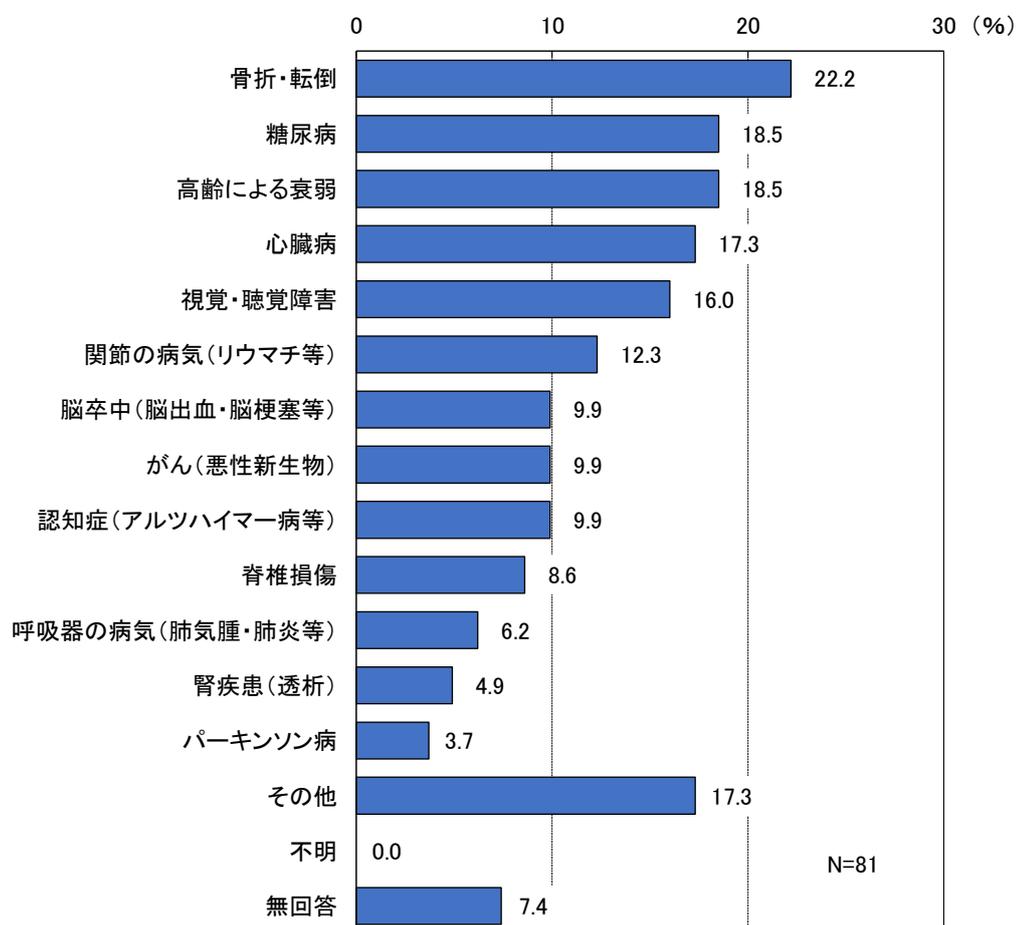
- 「1人暮らし」と回答した人の割合は全体の21.8%となっていますが、男女別にみると、女性は28.3%と、男性(14.3%)に比べ高い割合となっており、年齢階層別では80歳以上、地域福祉エリア別では「春日北中学校」エリアの割合が高くなっています。

(2) 普段の生活でどなたかの介護・介助が必要です。(1つに〇)



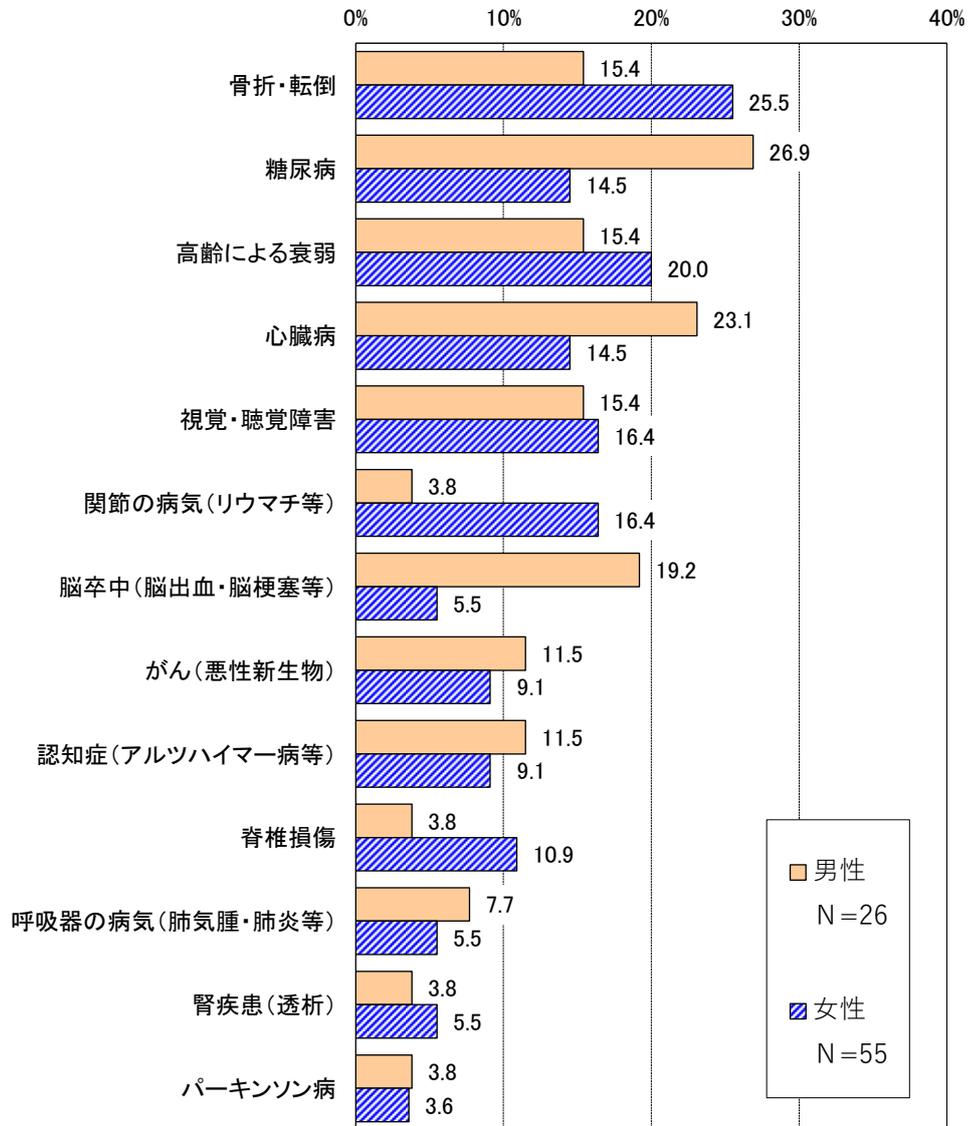
- 「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の割合は全体の5.0%で、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてその割合も高くなっており、85歳以上では18.6%となっています。

(2) - 1 (2)において「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお聞きします。
 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(〇はいくつでも可)

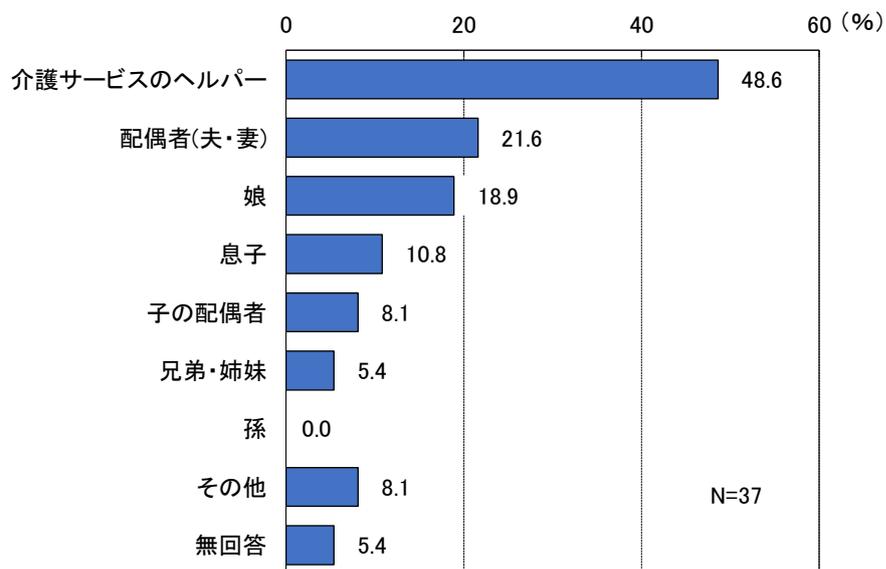


- (2)で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人に介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「骨折・転倒」と回答した人が22.2%と最も多く、以下「糖尿病」「高齢による衰弱」(ともに18.5%)、「心臓病」(17.3%)、「視覚・聴覚障害」(16.0%)と続いています。
- 男女別に見ると、「骨折・転倒」「高齢による衰弱」「関節の病気(リウマチ等)」「脊椎(髄)損傷」は男性に比べ女性の方が割合が高くなっており、「糖尿病」、「心臓病」、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」は、女性に比べ男性の方が割合が高くなっています(次ページのグラフ参照)。

介護・介助が必要になった主な原因（男女別クロス集計結果）

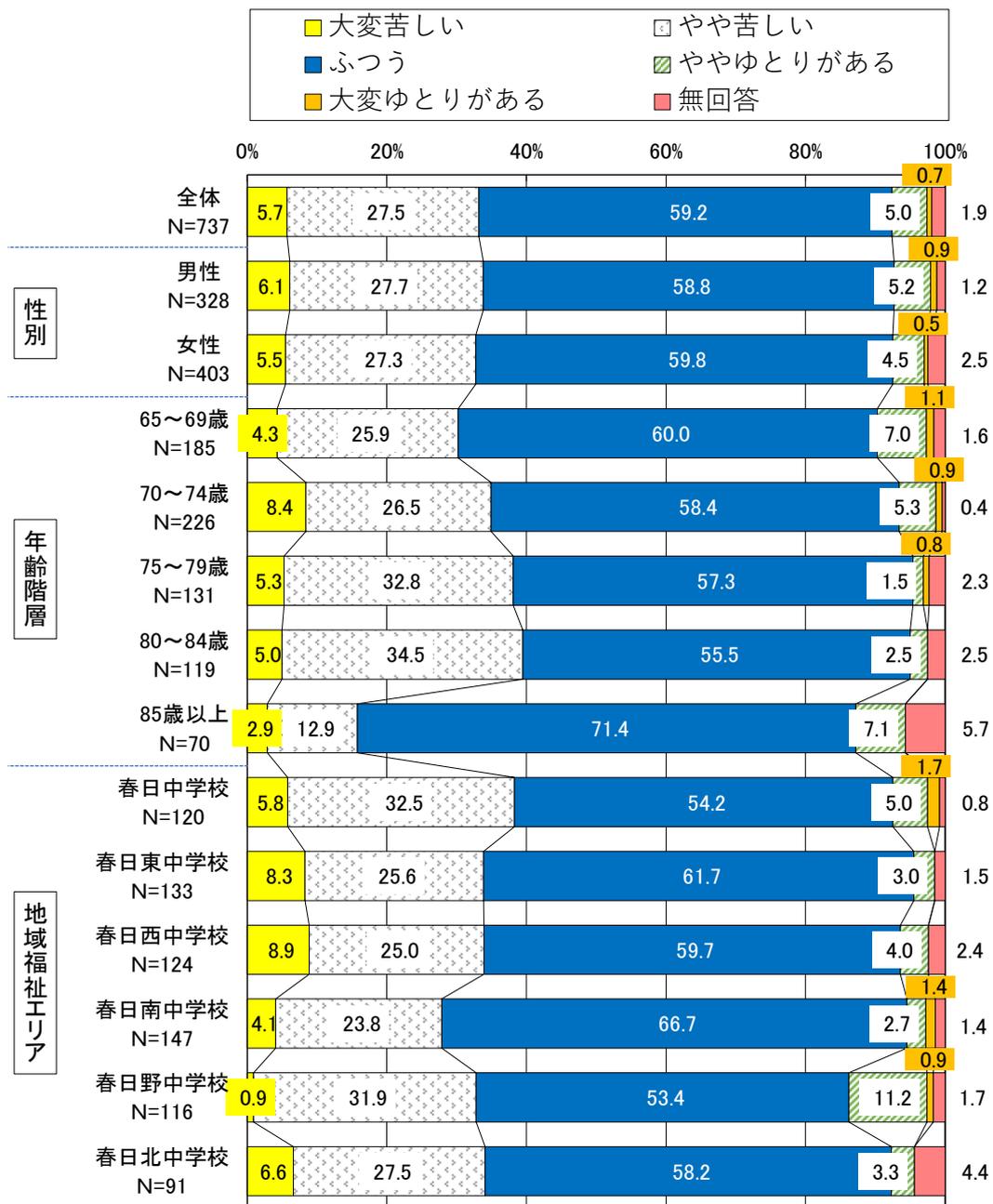


(2) -2 (2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ
主にどなたの介護、介助を受けていますか。(〇はいくつでも可)



- (2)で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人に、主にだれの介護・介助を受けているかとたずねたところ、「介護サービスのヘルパー」と回答した人の割合が48.6%と最も高く、「配偶者(夫・妻)」(21.6%)、「娘」(18.9%)がそれに続いています。

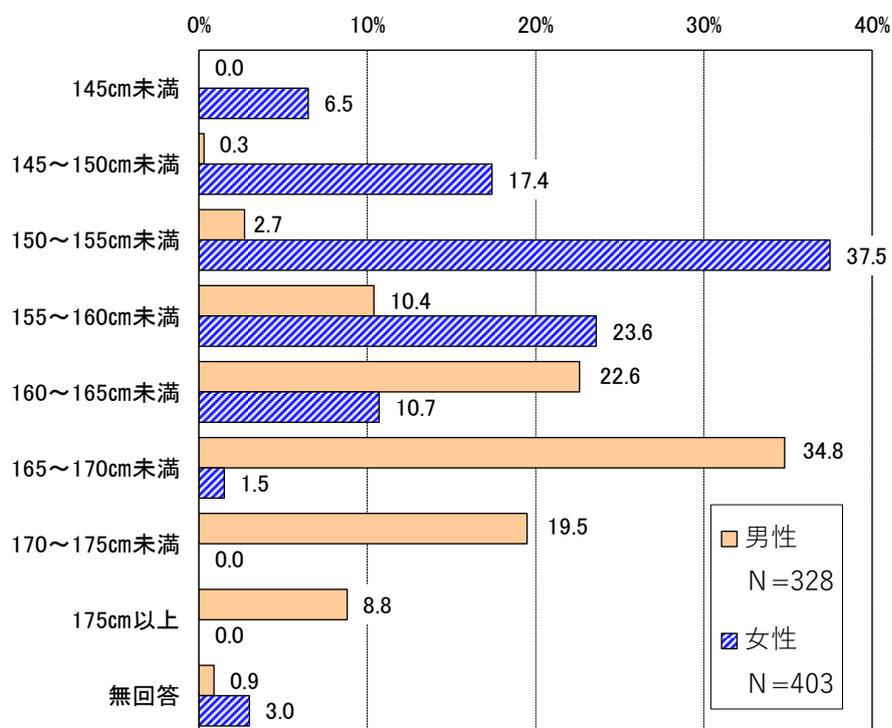
(3) 現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じますか。(1つに〇)



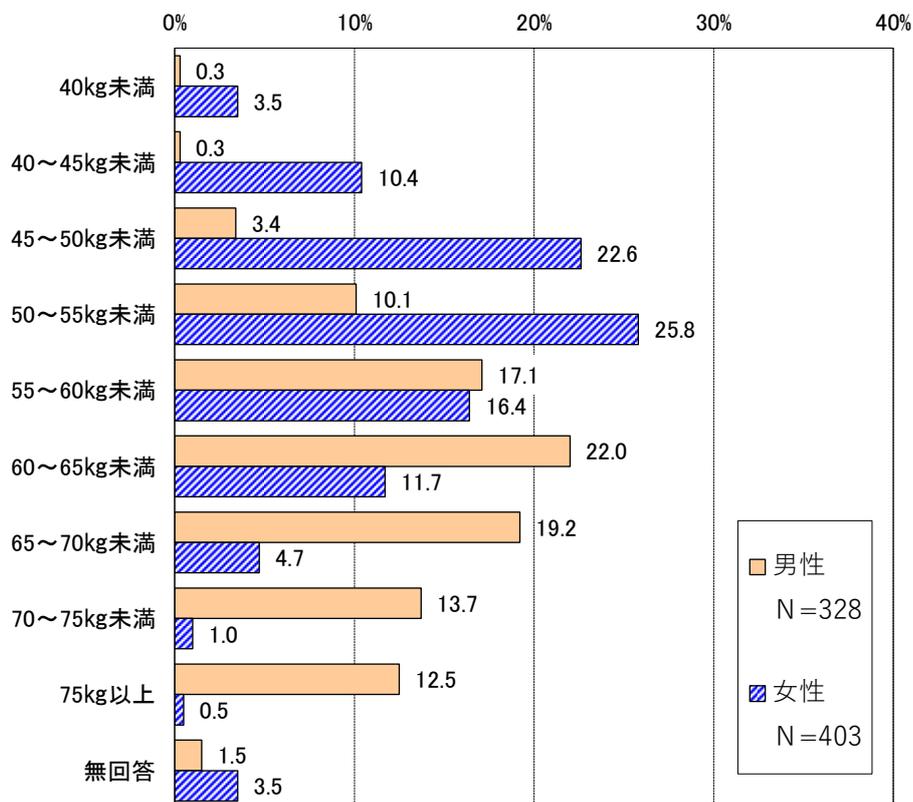
- 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかとたずねたところ、「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した人の割合は、全体の33.2%となっています。一方、「ややゆとりがある」または「大変ゆとりがある」と回答した人の割合は5.7%となっています。

(4) - 1 身長・体重をご記入ください。

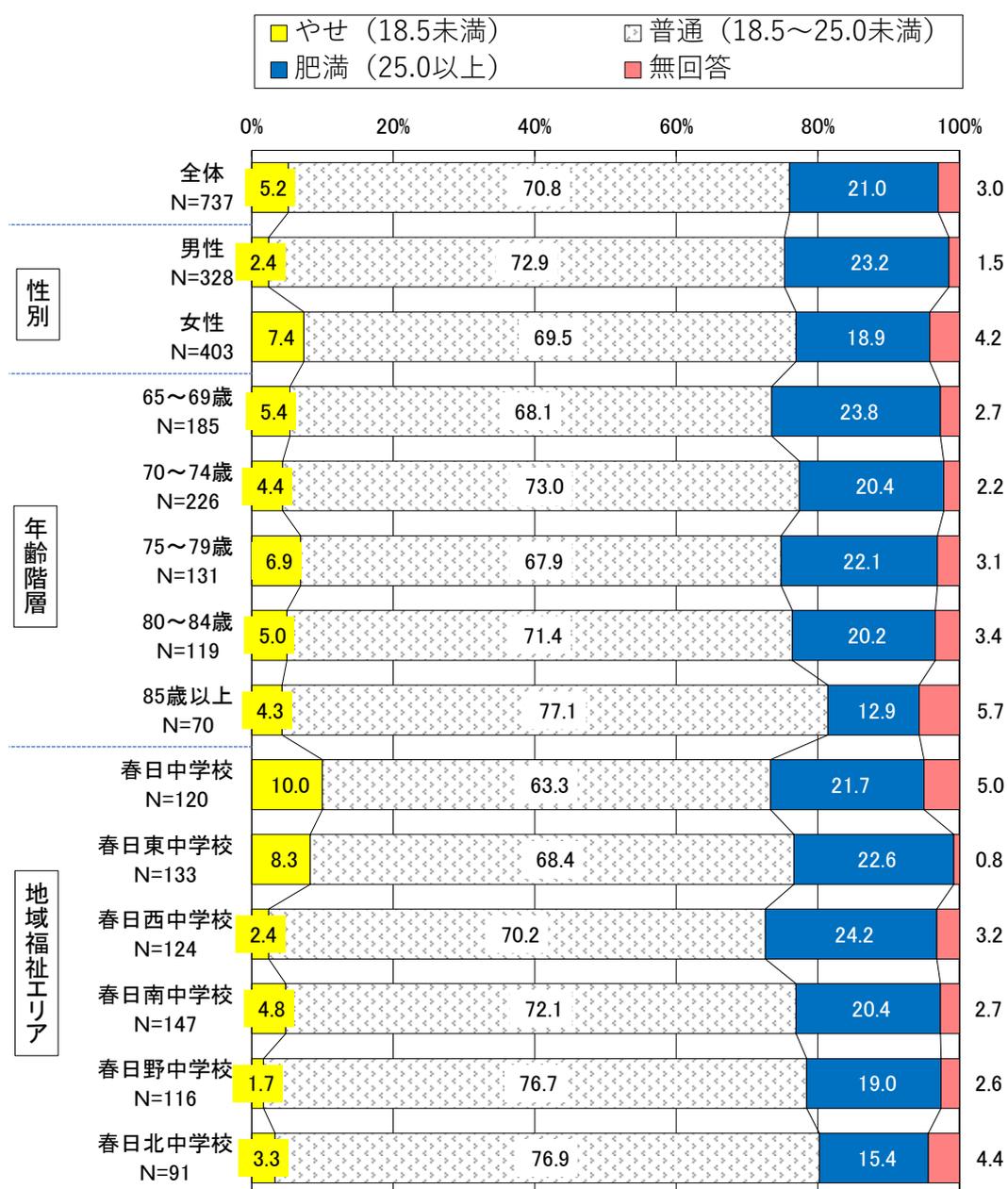
身長



体重

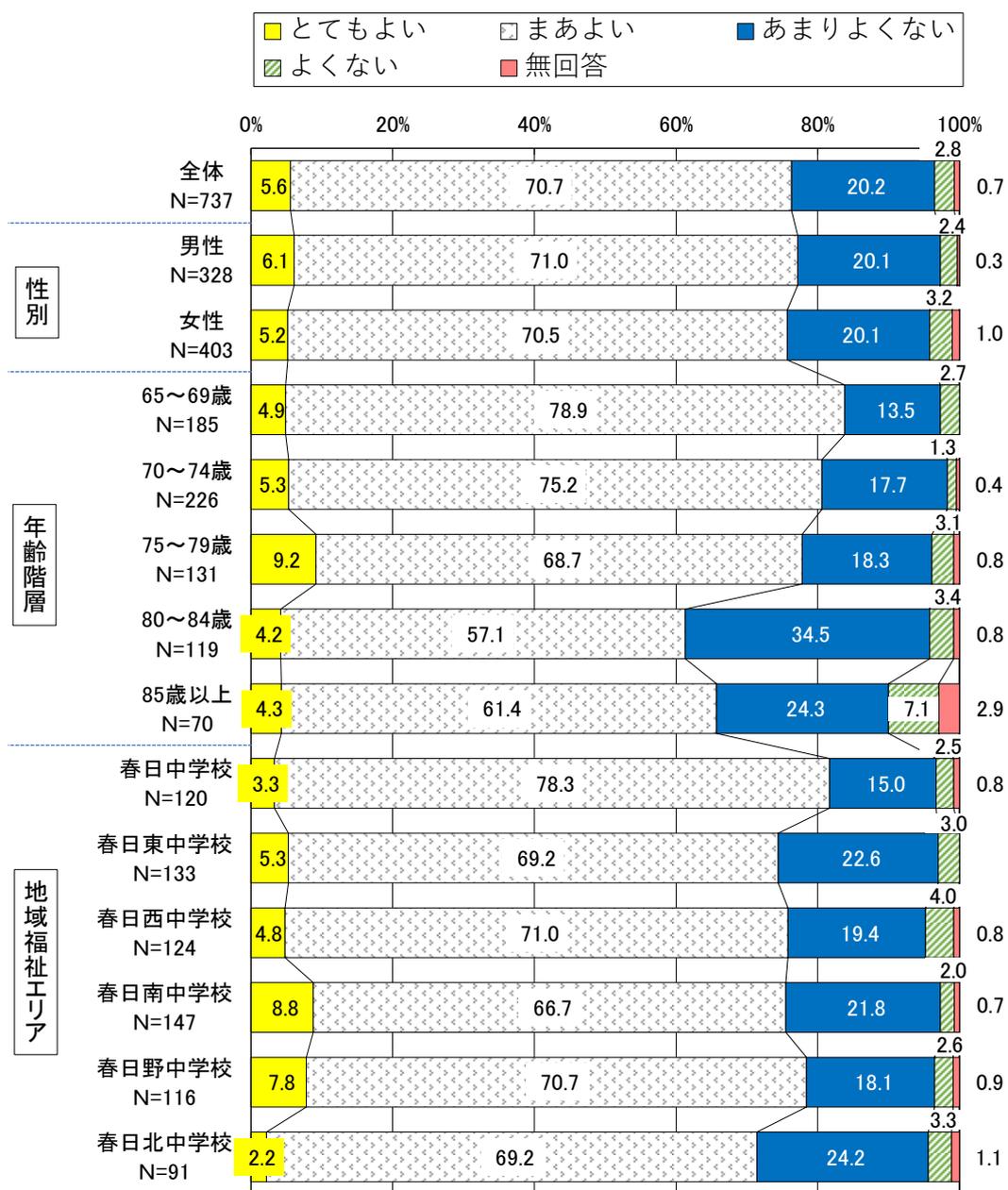


BMI



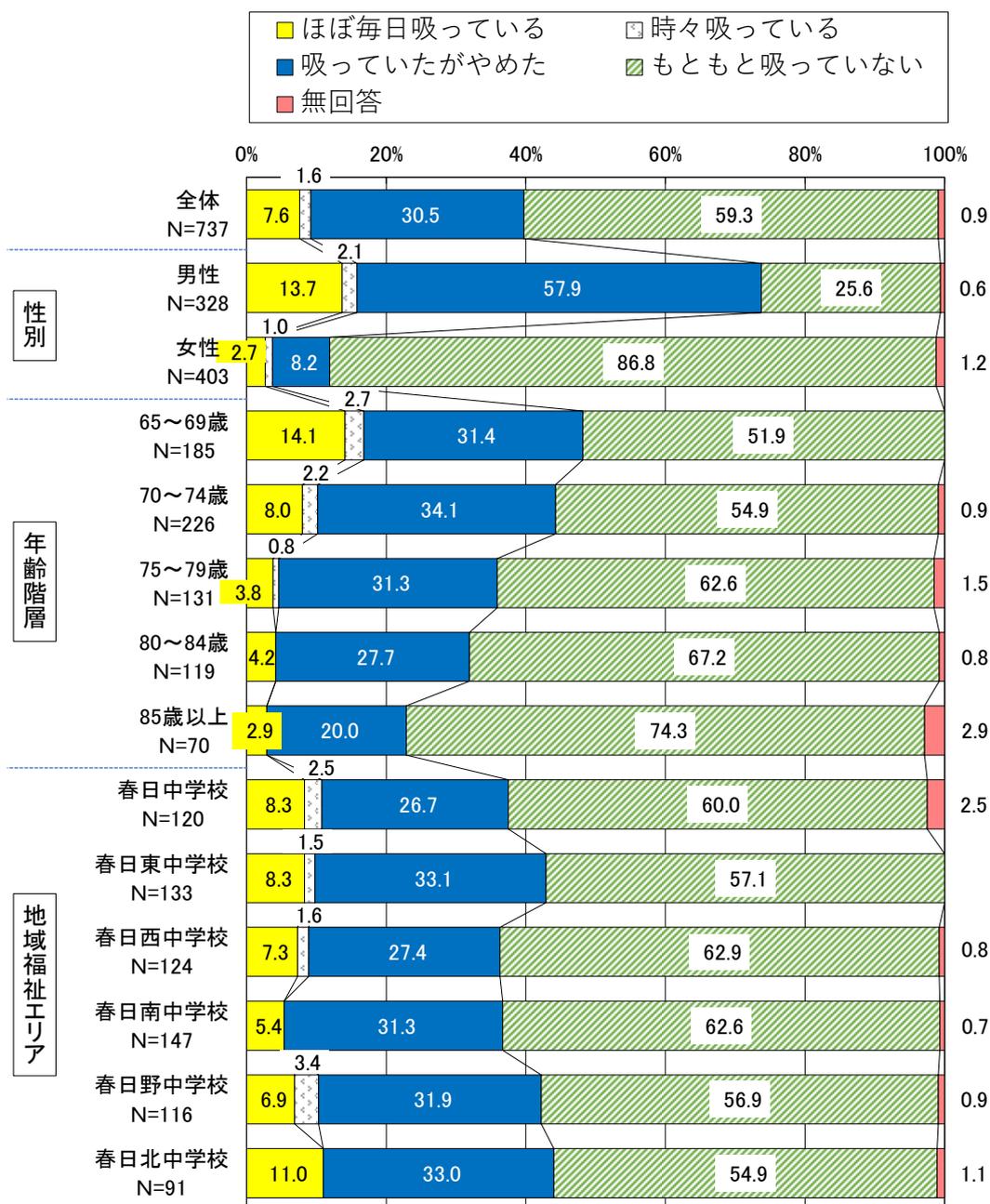
● 回答者の身長と体重からBMIを算出した結果は上のおりで、「やせ (18.5未満)」の割合は全体の5.2%、「肥満 (25.0以上)」は21.0%となっています。

(4) - 2 現在の健康状態はいかがですか。(1つに○)



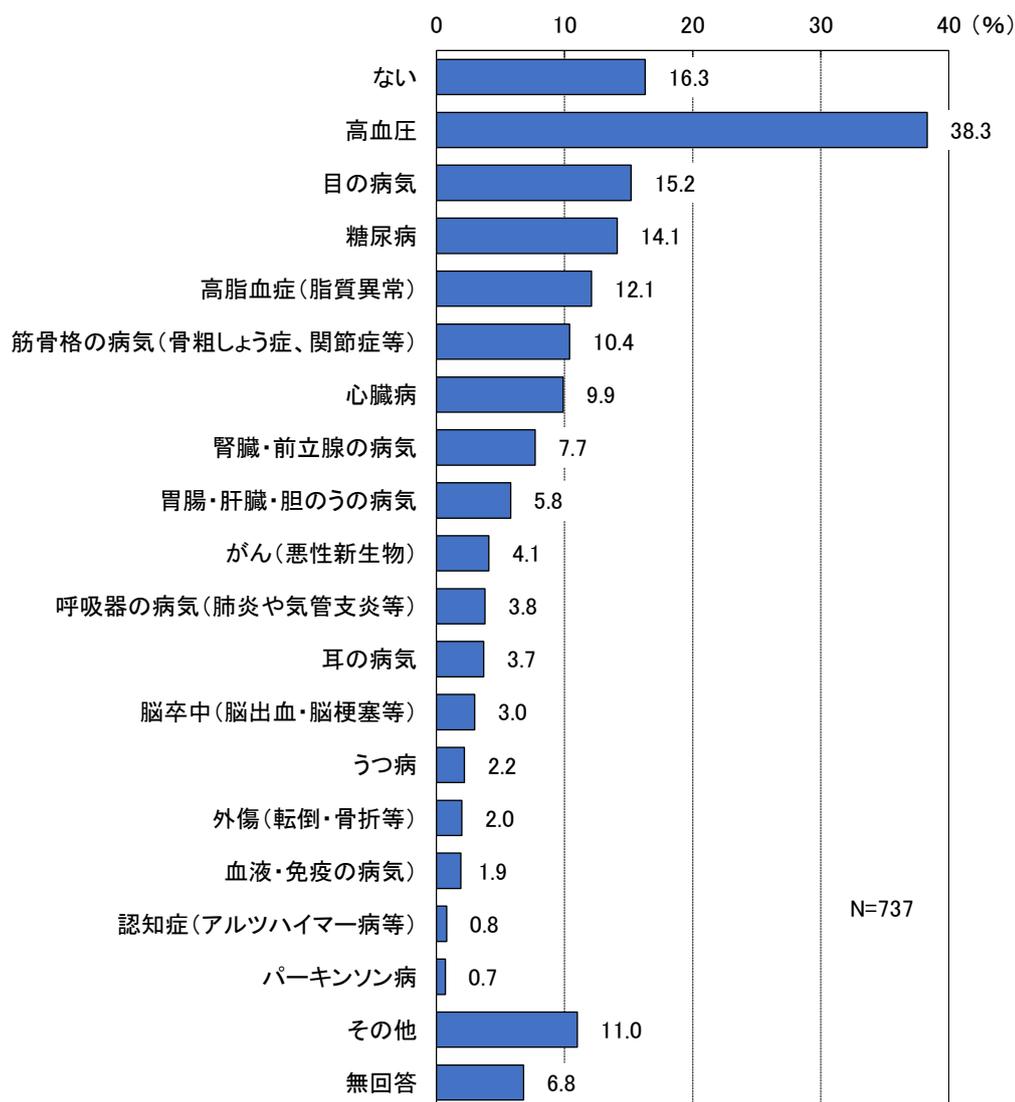
- 現在の健康状態については、「とてもよい」または「まあよい」と回答した人の割合は全体の76.3%、「あまりよくない」または「よくない」と回答した人の割合は23.0%となっています。

(4) - 3 たばこは吸っていますか。(1つに〇)



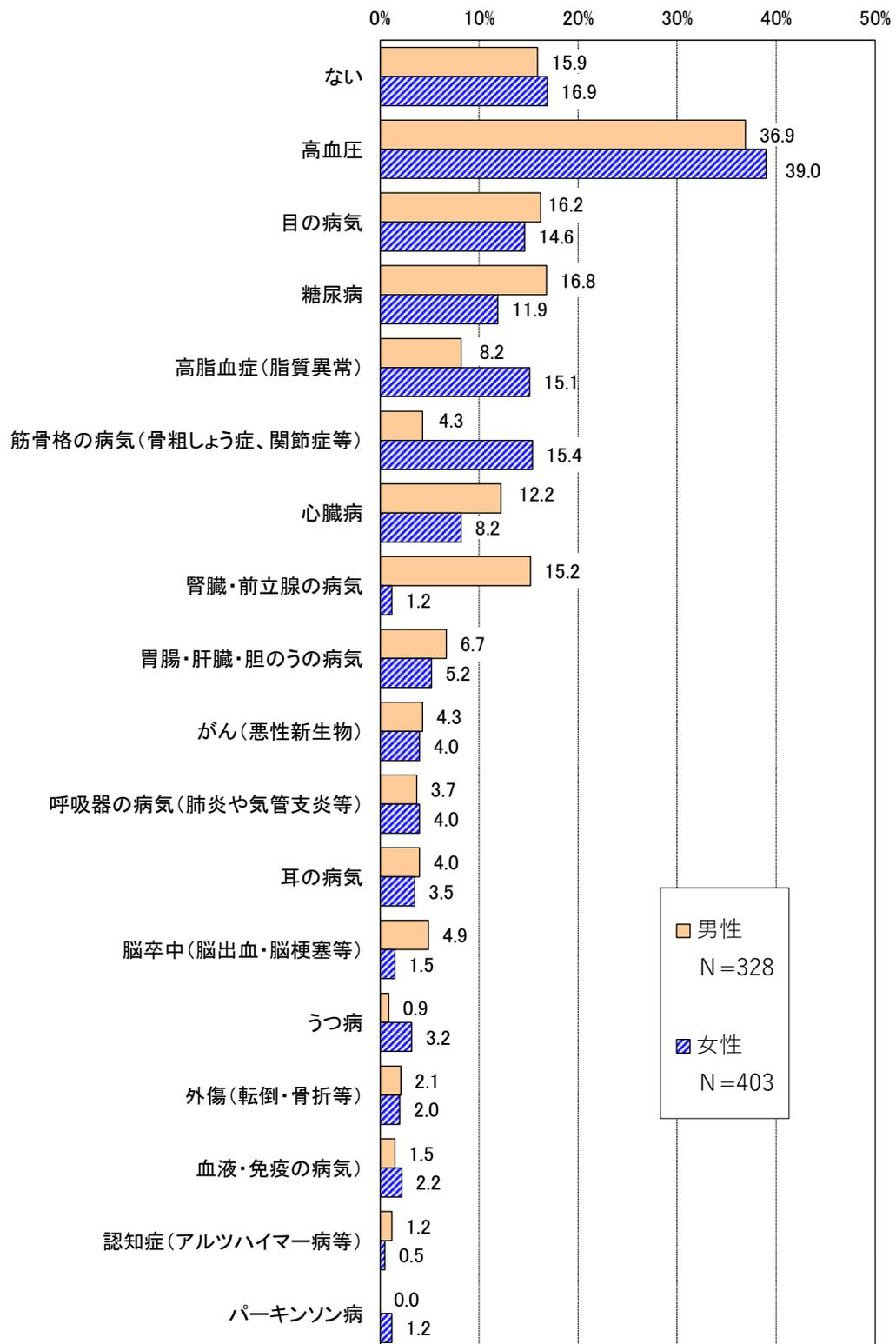
- 喫煙状況については、「もともと吸っていない」と回答した人の割合が全体の 59.3%と最も高くなっていますが、これは、女性に「もともと吸っていない」人が 86.8%と多いことによるもので、男性だけを見ると、「吸っていたがやめた」と回答した人が 57.9%と、最も多くなっています。

(4) - 4 現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも可)

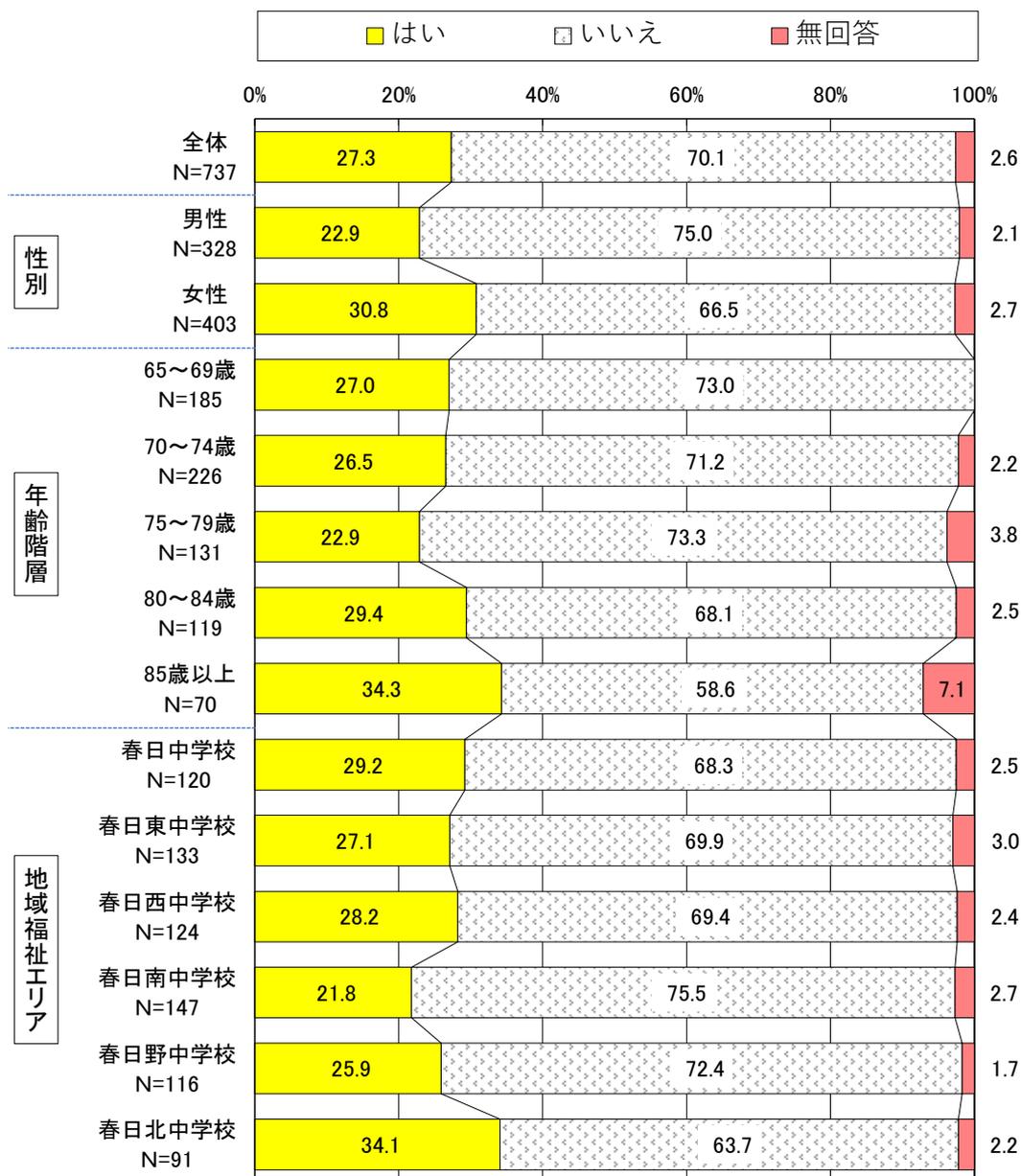


- 現在治療中、または後遺症のある病気をたずねたところ、「高血圧」と回答した人が全体の 38.3% と最も多く、次いで、「目の病気」(15.2%)、「糖尿病」(14.1%)、「高脂血症(脂質異常)」(12.1%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(10.4%)、「心臓病」(9.9%)と続いています。
- 男女別に見ると、「高脂血症(脂質異常)」「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」は男性に比べ女性の方が割合が高くなっており、「糖尿病」「心臓病」「腎臓・前立腺の病気」は、女性に比べ男性の方が割合が高くなっています(次ページのグラフ参照)。

現在治療中、または後遺症のある病気（男女別クロス集計結果）

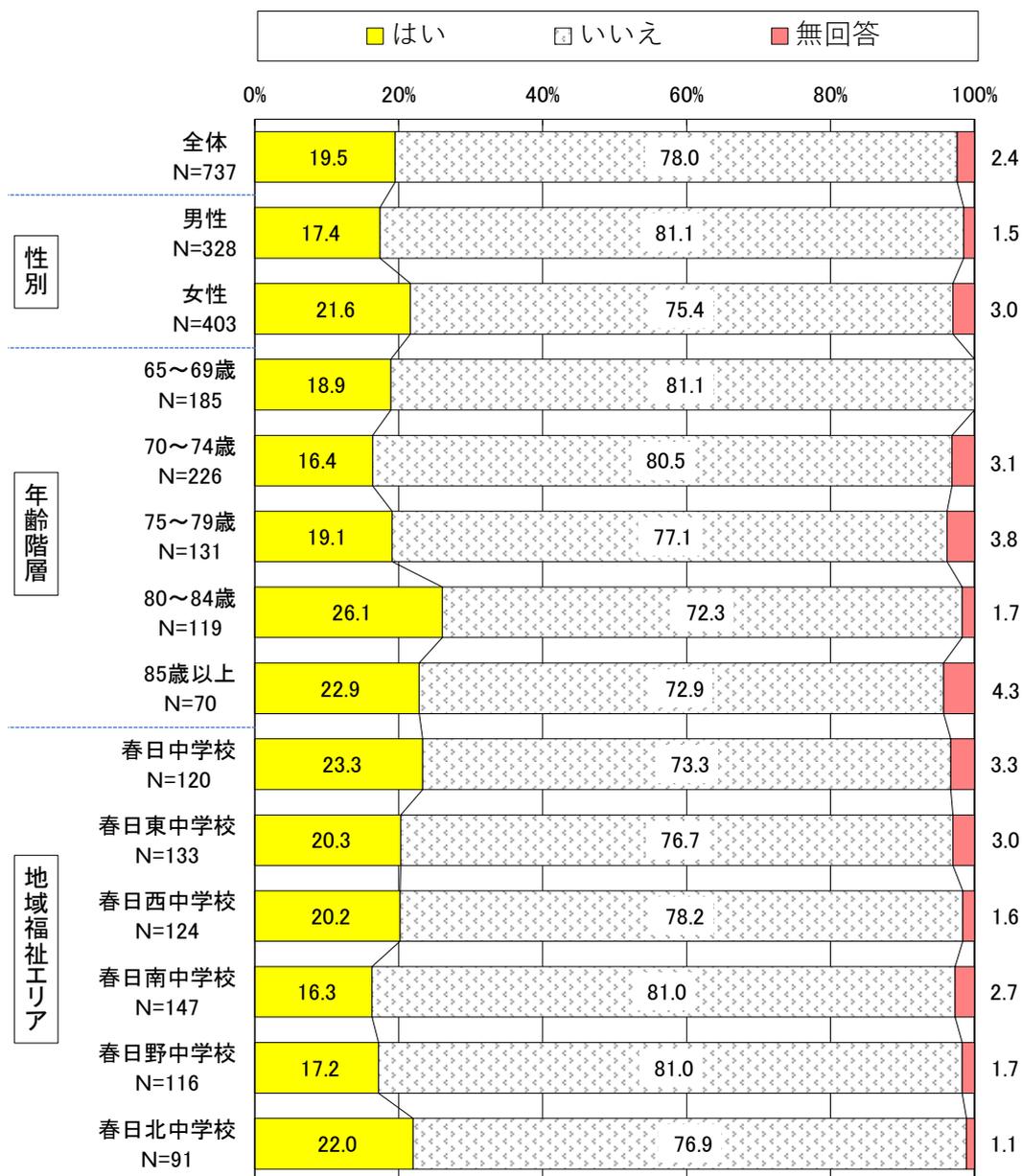


(4) -5 この1カ月間気分が沈んだり、ゆううつになったりすることがありましたか。(1つに〇)



- この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったと回答した人の割合は、全体の27.3%となっており、男性(22.9%)に比べ女性(30.8%)の方が高くなっています。

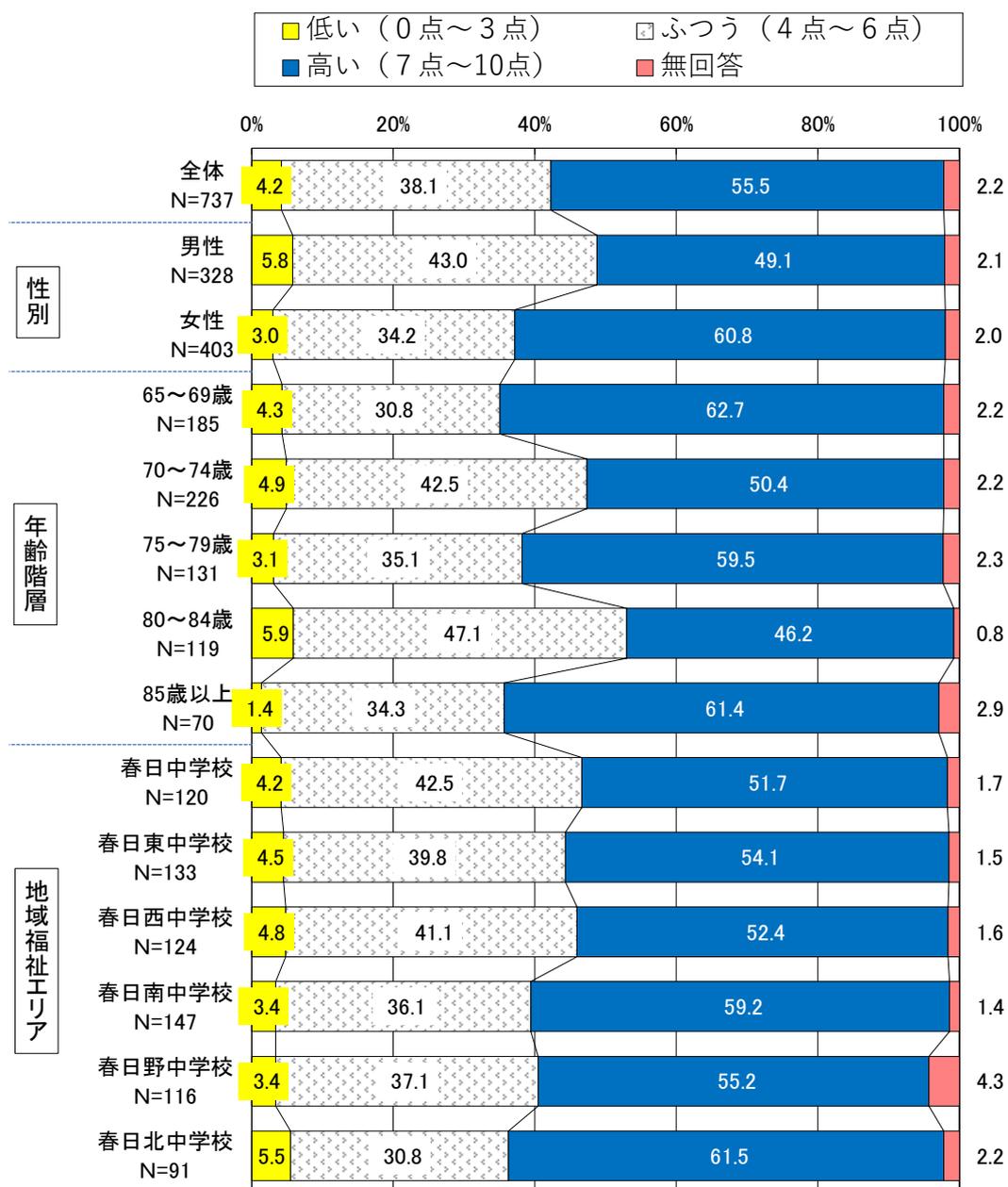
(4)－6 この1カ月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つに〇)



- この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったと回答した人の割合は、全体の19.5%となっており、男性(17.4%)に比べ女性(21.6%)の方がやや高くなっています。

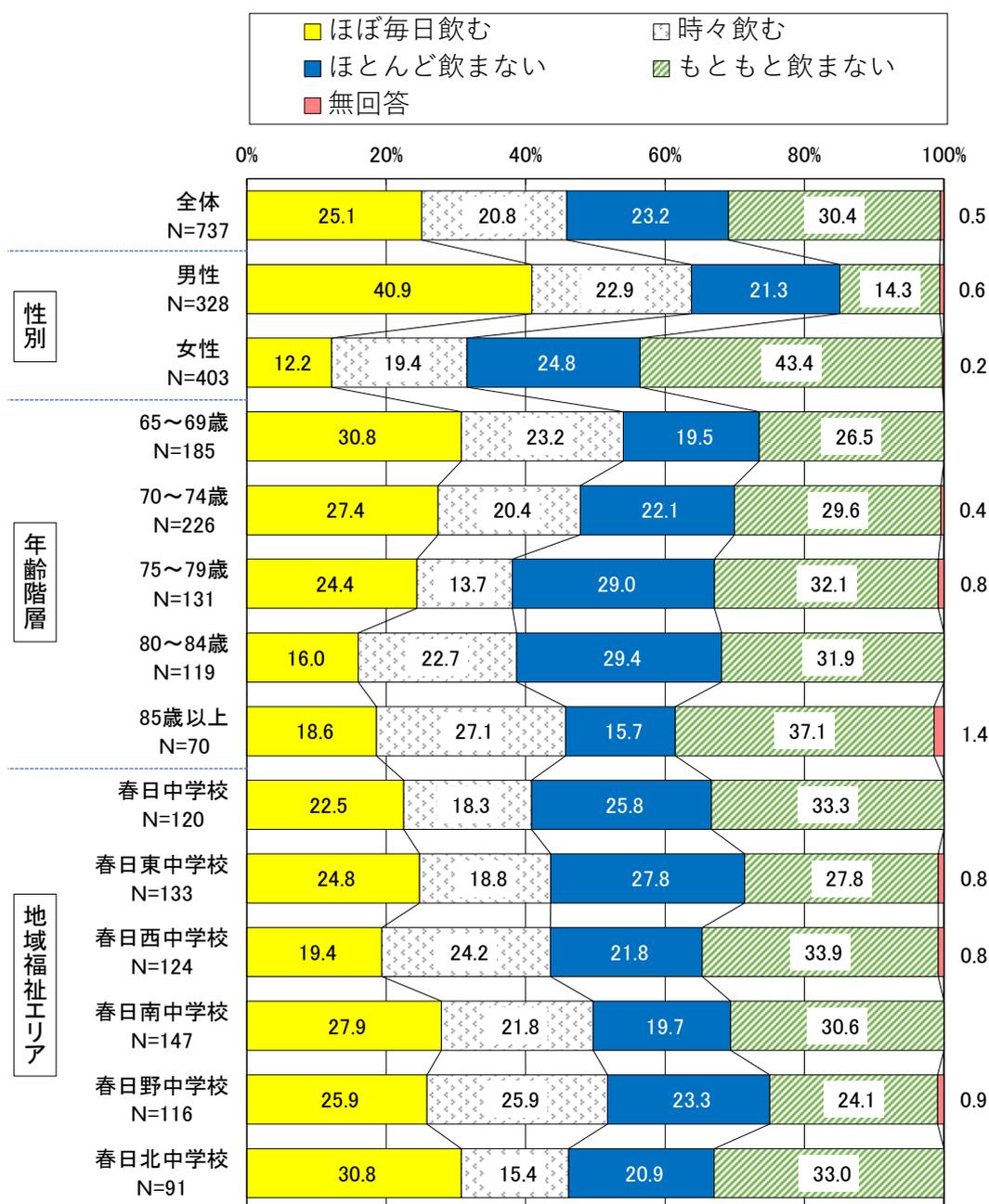
(4) - 7 あなたは、現在どの程度幸せですか。(1つに○)

「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、当てはまる点数に○をつけてください。



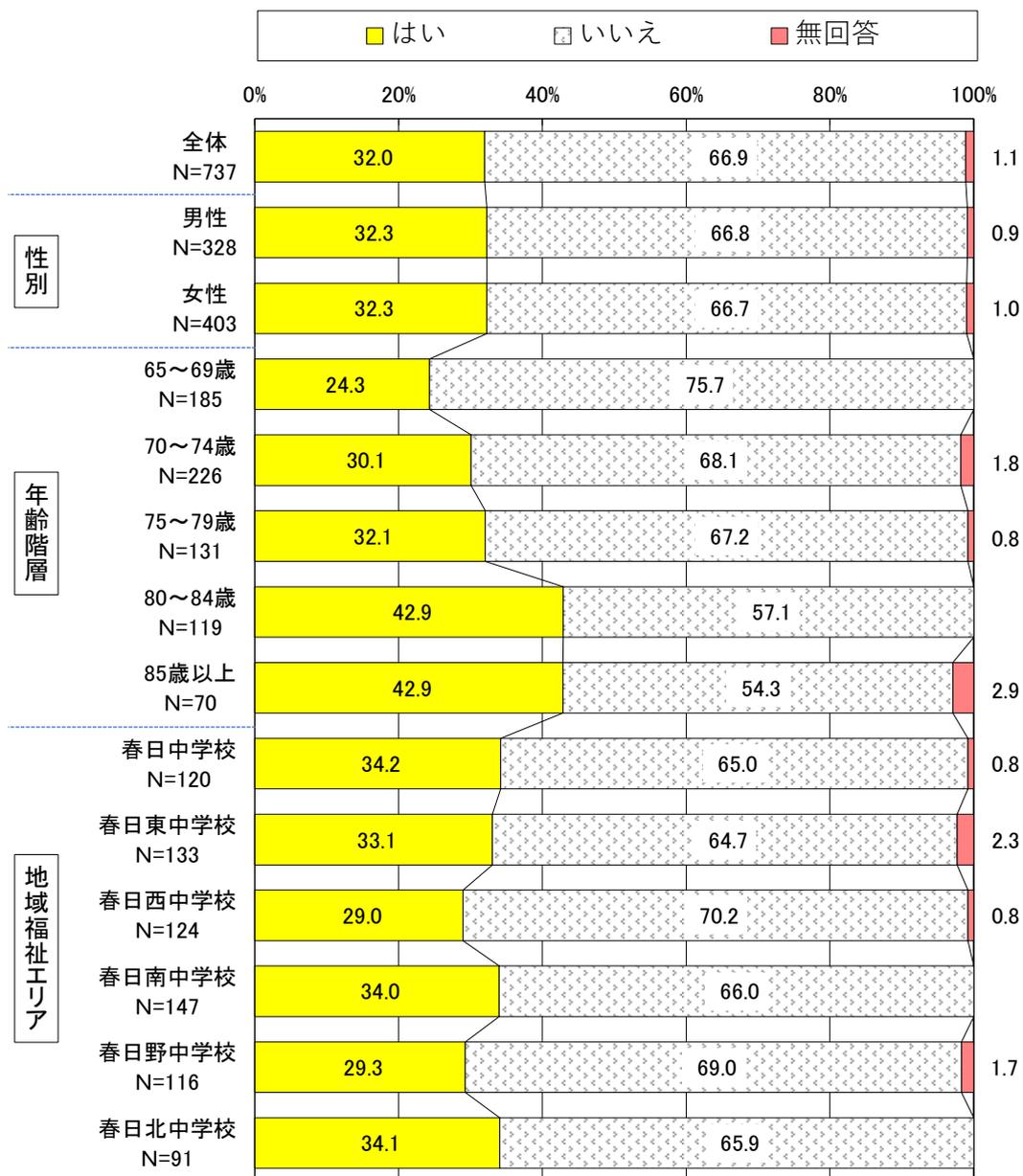
- 幸福度の自己採点結果を3分類したところ、「高い (7点~10点)」人の割合は、全体の55.5%となっており、男性 (49.1%) に比べ女性 (60.8%) の方が高くなっています。

(5) - 1 お酒は飲みますか。(1つに〇)



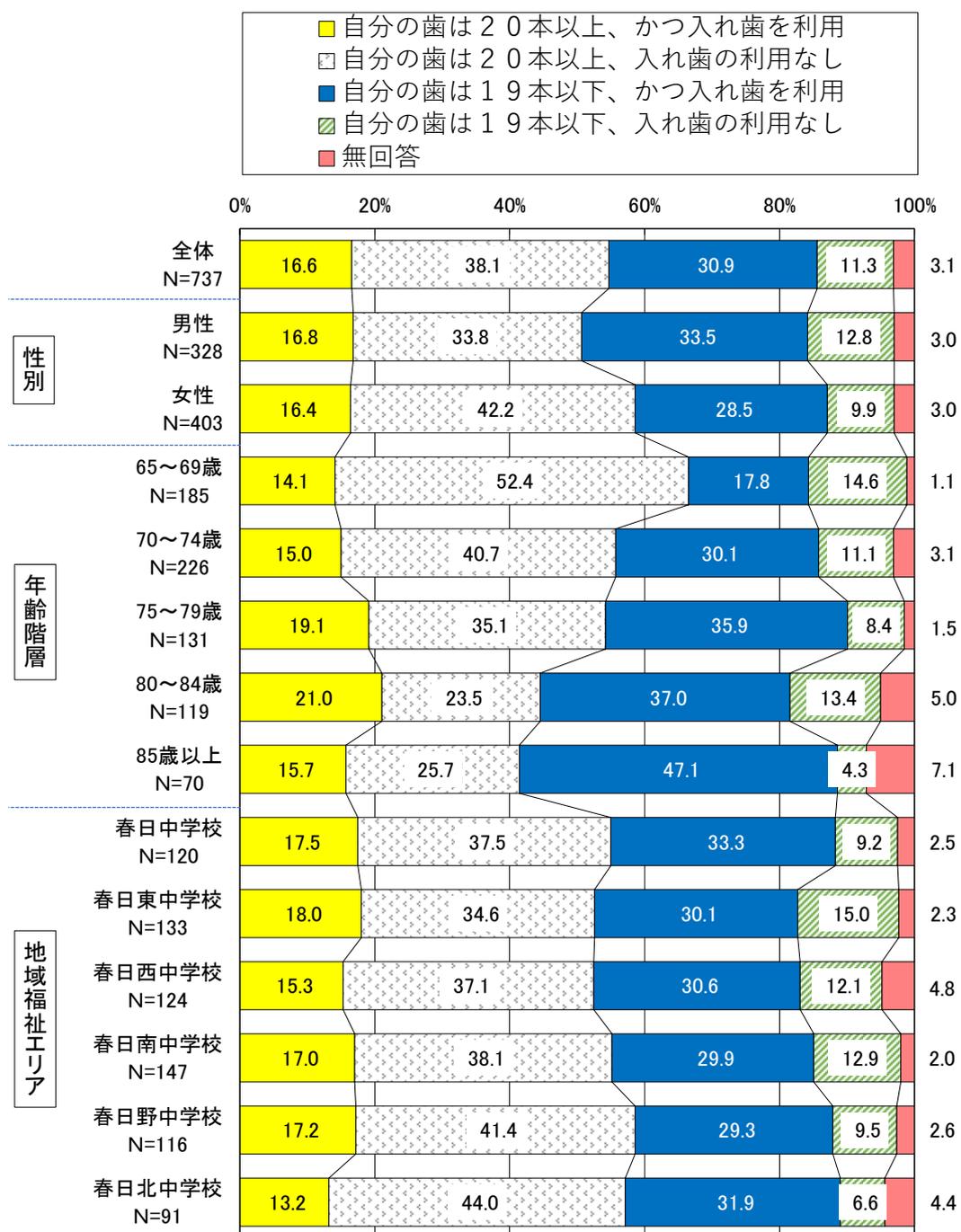
- 飲酒状況については、「もともと飲まない」と回答した人の割合が全体の30.4%と最も高くなっていますが、これは、女性に「もともと飲まない」人が43.4%と多いことによるもので、男性だけを見ると、「ほぼ毎日飲む」と回答した人が40.9%と、最も多くなっています。

(5) - 2 半年前に比べて固い物が食べにくくなりましたか。(1つに○)



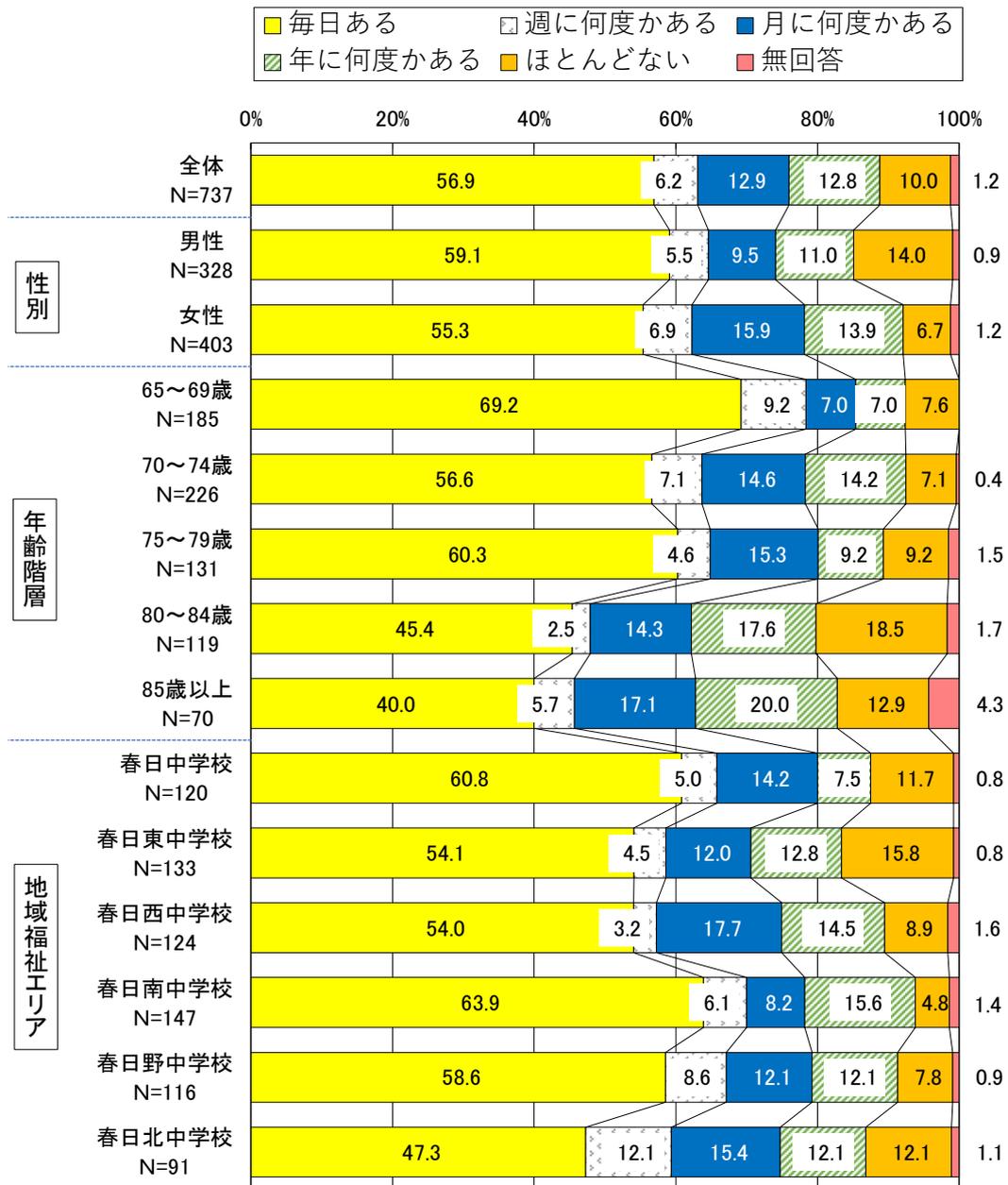
- 半年前と比べて固いものが食べにくくなった人は、全体の32.0%となっており、概ね年齢階層が高くなるにつれてその割合も高くなっています。

(5) - 3 歯の数と、入れ歯を利用しているかどうかについて教えてください。(1つに○)



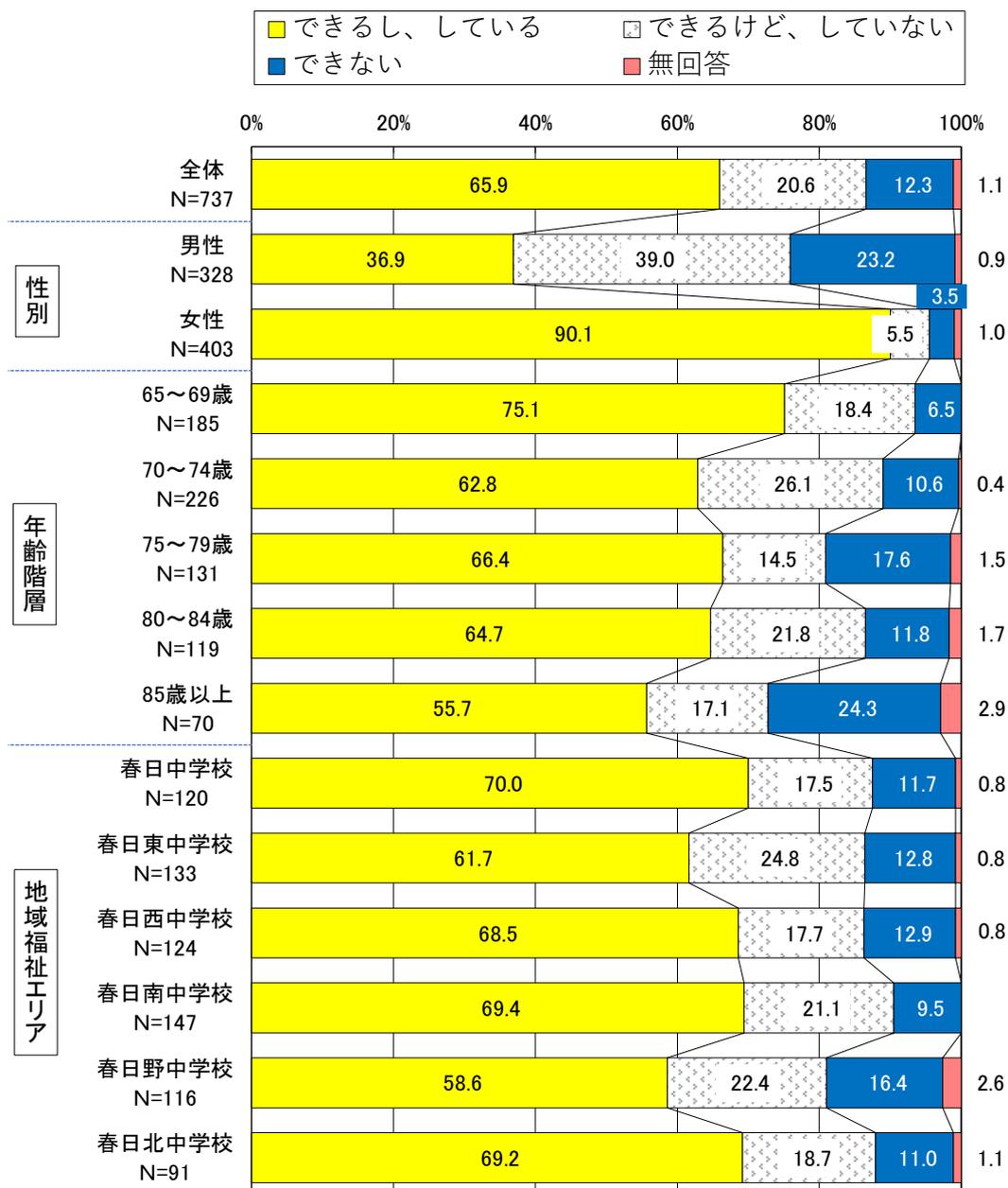
- 「自分の歯は20本以上」と回答した人の割合は、全体の54.7%となっており、男性(50.6%)に比べ女性(58.6%)の方が高くなっています。
- また、「自分の歯は20本以上」と回答した人の割合は年齢階層が高くなるにつれて低くなっており、入れ歯の利用率も高くなっていることがわかります。

(5) - 4 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(1つに〇)



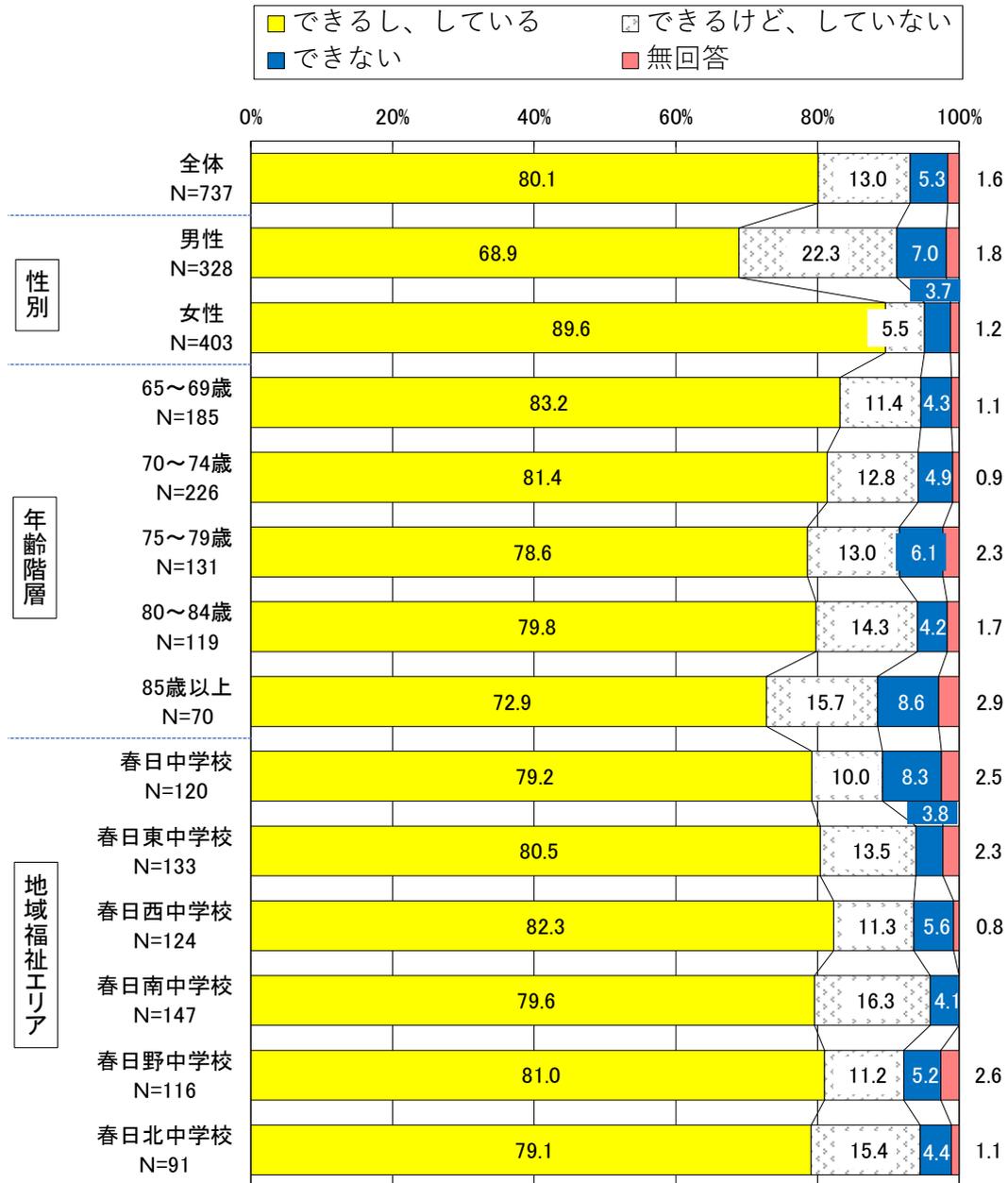
- 誰かと食事をとにもする機会が「ほとんどない」と回答した人の割合は、全体の10.0%となっており、女性(6.7%)に比べ男性(14.0%)の方が高くなっています。

(5) -5 自分で食事の用意をしていますか。(1つに〇)



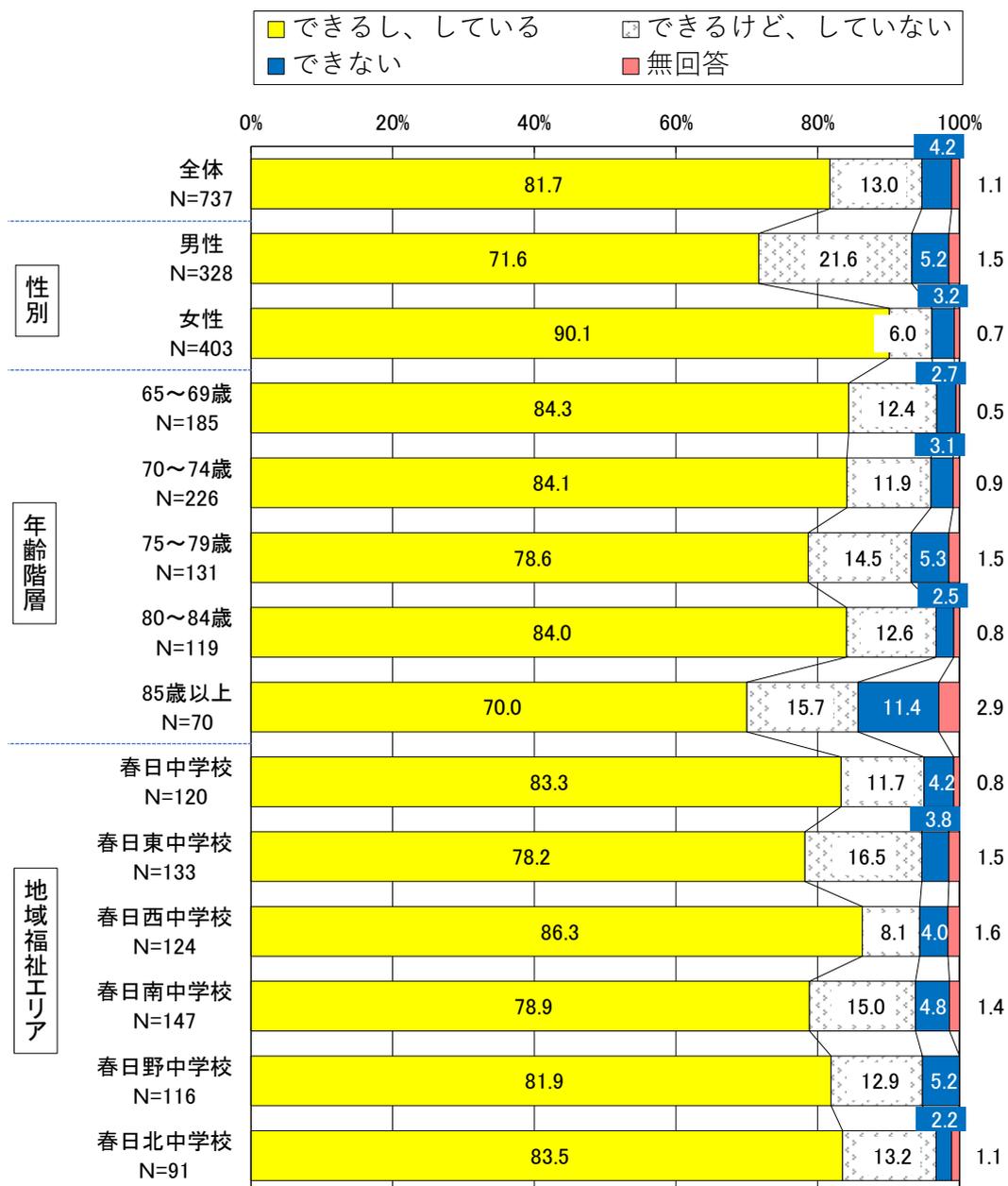
- 自分で食事の用意が「できない」と回答した人の割合は、全体の12.3%となっており、女性(3.5%)に比べ男性(23.2%)の方が高くなっています。

(6) - 1 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つに〇)



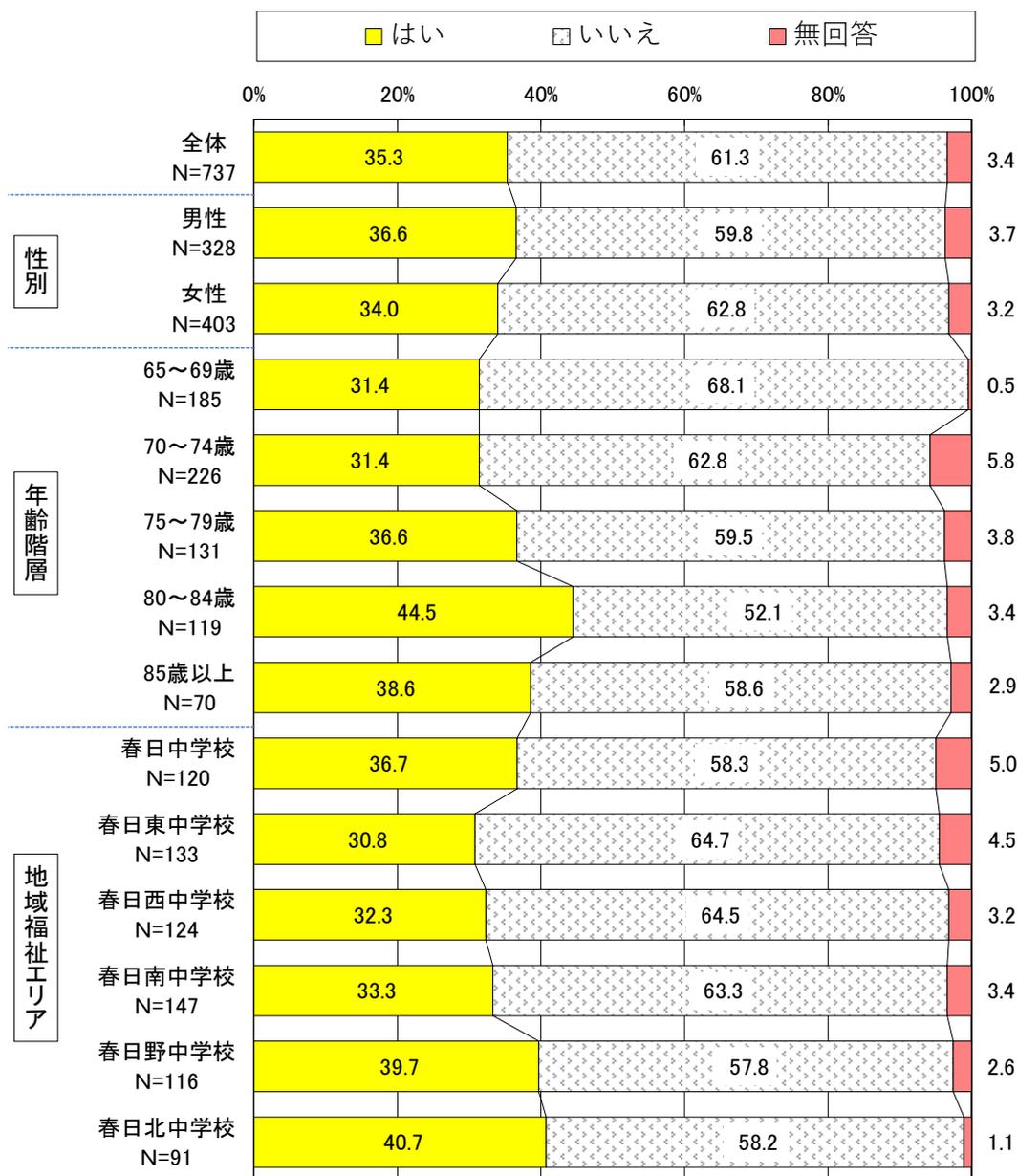
- 自分で請求書の支払いを「できない」と回答した人の割合は、全体の5.3%となっており、女性(3.7%)に比べ男性(7.0%)の方がやや高くなっています。

(6) - 2 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つに〇)



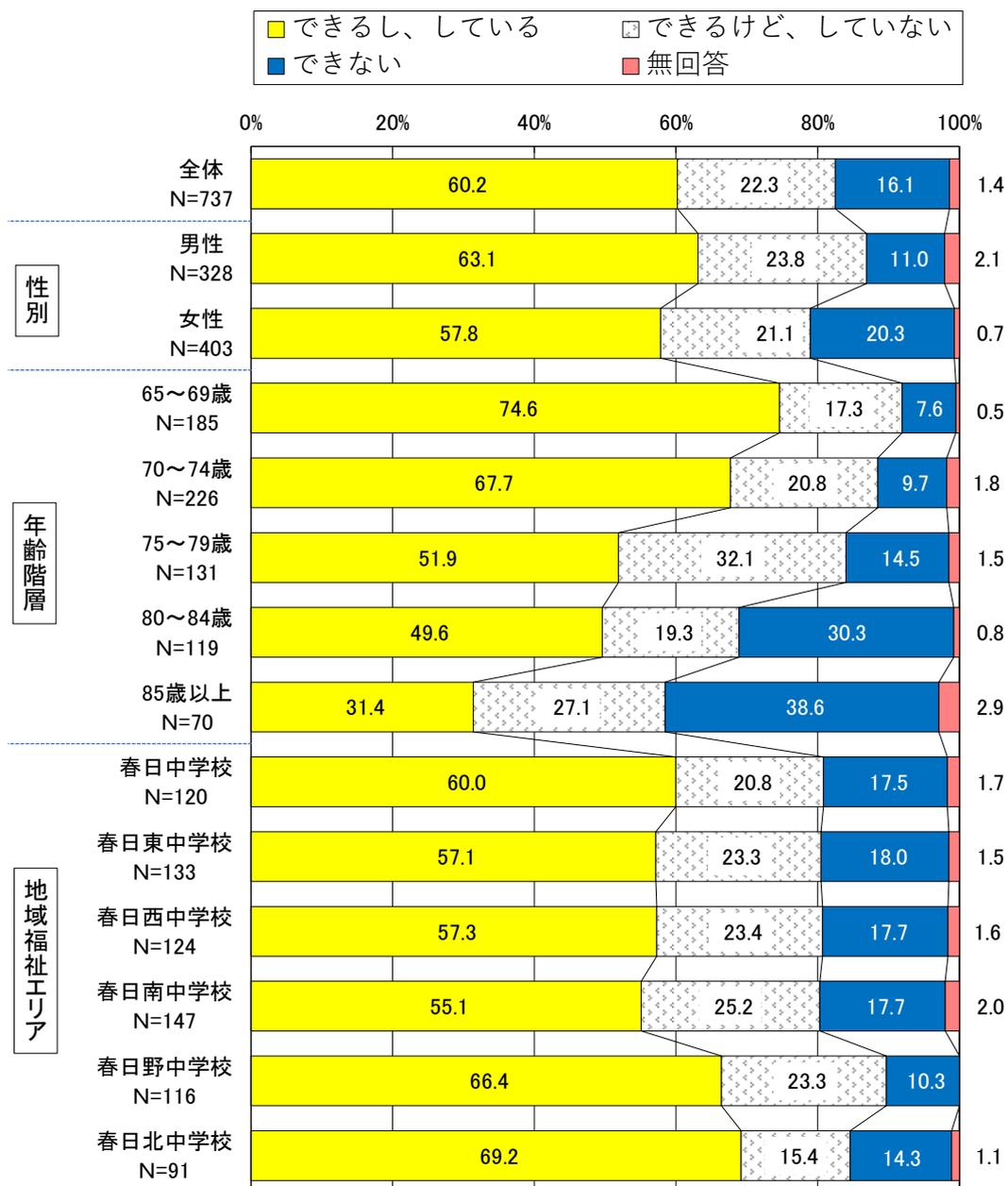
- 自分で預貯金の出し入れを「できない」と回答した人の割合は、全体の 4.2%となっており、年齢階層別にみると、85歳以上で11.4%とその割合が高くなっています。

(6) - 3 物忘れが多いと感じますか。(1つに〇)



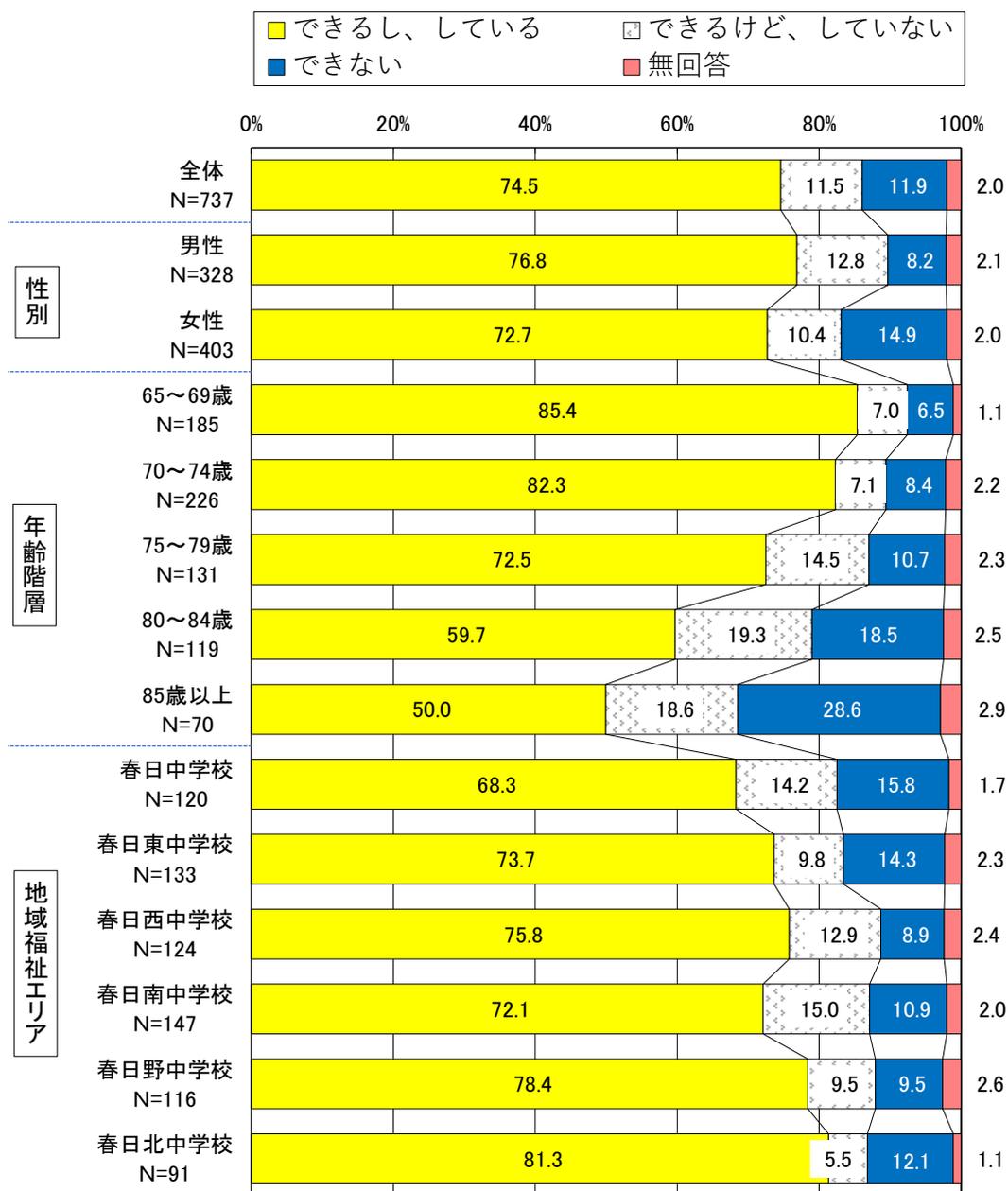
- 物忘れが多いと感じていると回答した人の割合は、全体の35.3%となっており、年齢階層別にみると、「80～84歳」で44.5%とその割合が最も高くなっています。

(7) - 1 階段を手すりや壁を伝わらずに登っていますか。(1つに〇)



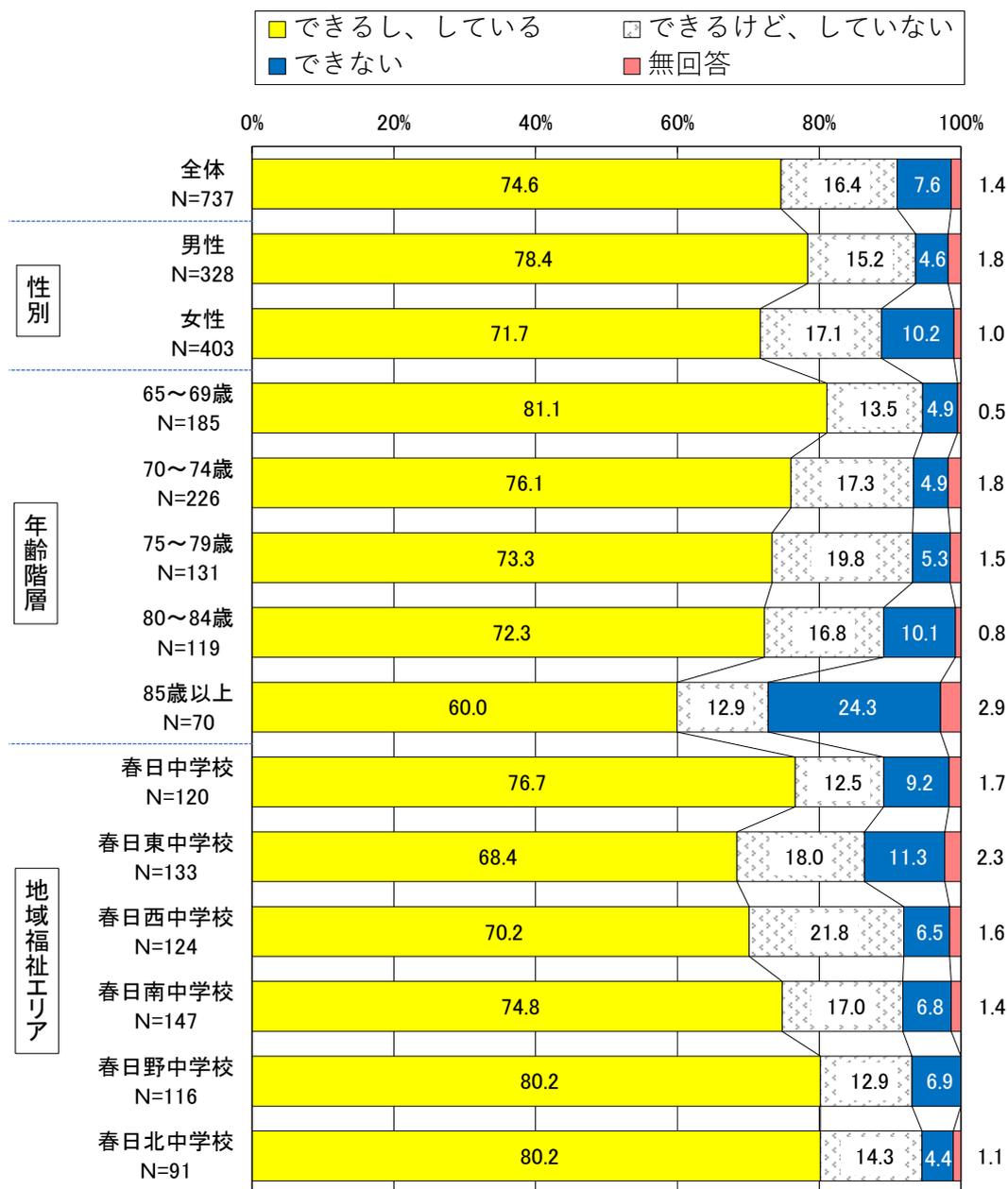
- 階段を手すりや壁をつたわずに登っている人の割合は、全体の60.2%となっており、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてその割合が低くなっています。

(7) - 2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つに○)



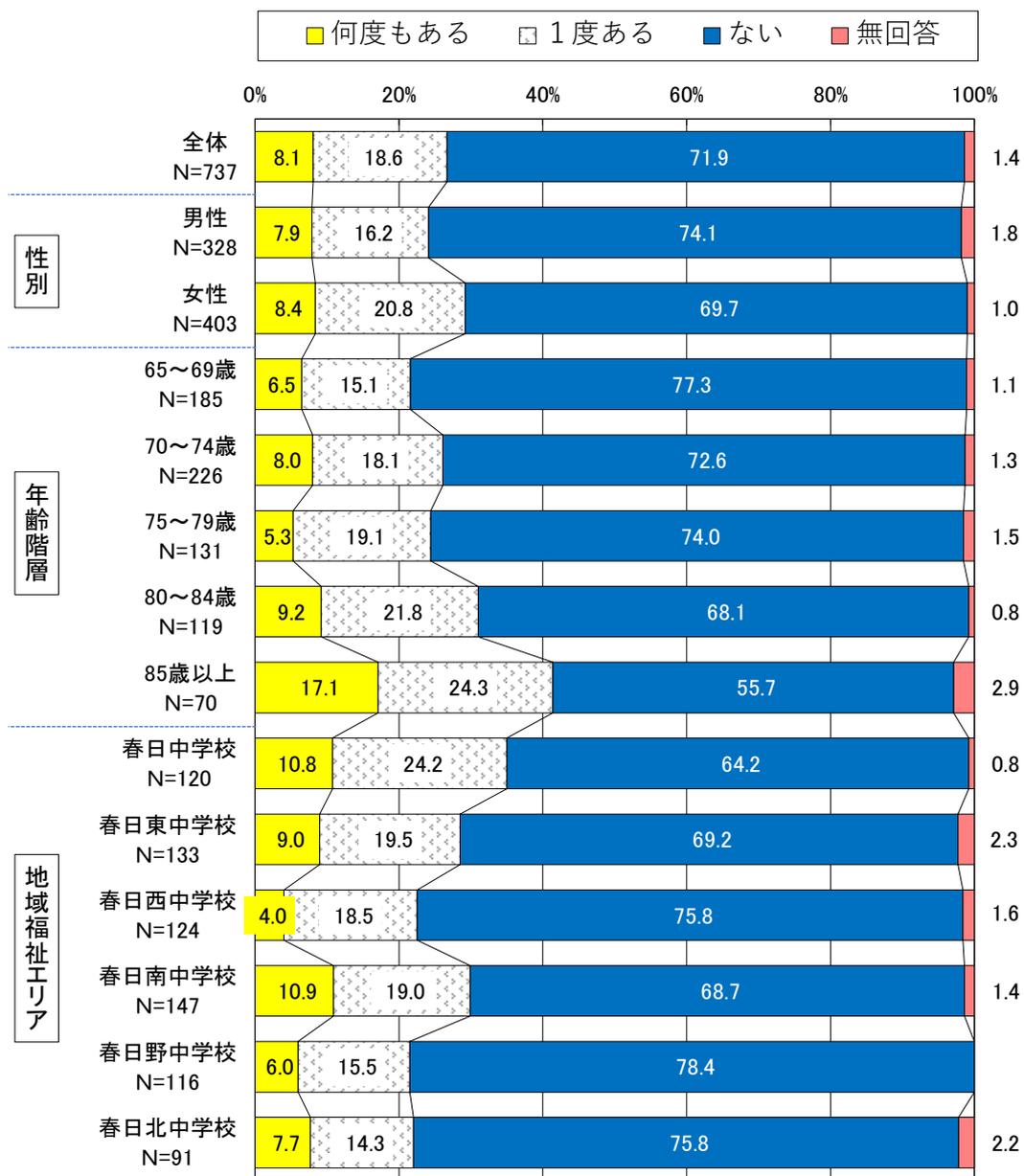
- 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっている人の割合は、全体の74.5%となっており、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてその割合が低くなっています。

(7) -3 15分くらい続けて歩いていますか。(1つに○)



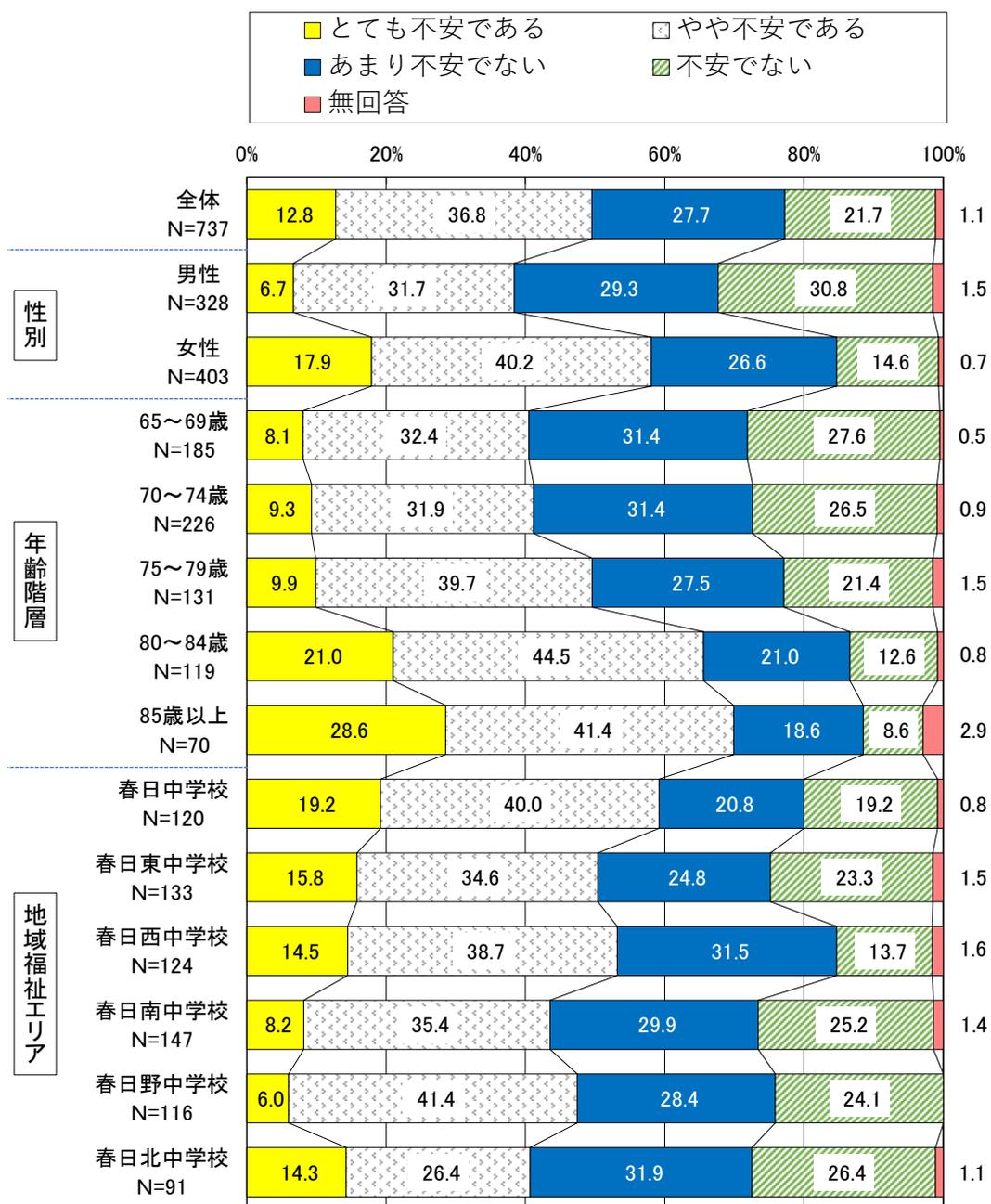
- 15分位続けて歩いている人の割合は、全体の74.6%となっており、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてその割合が低くなっています。

(7) - 4 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つに〇)



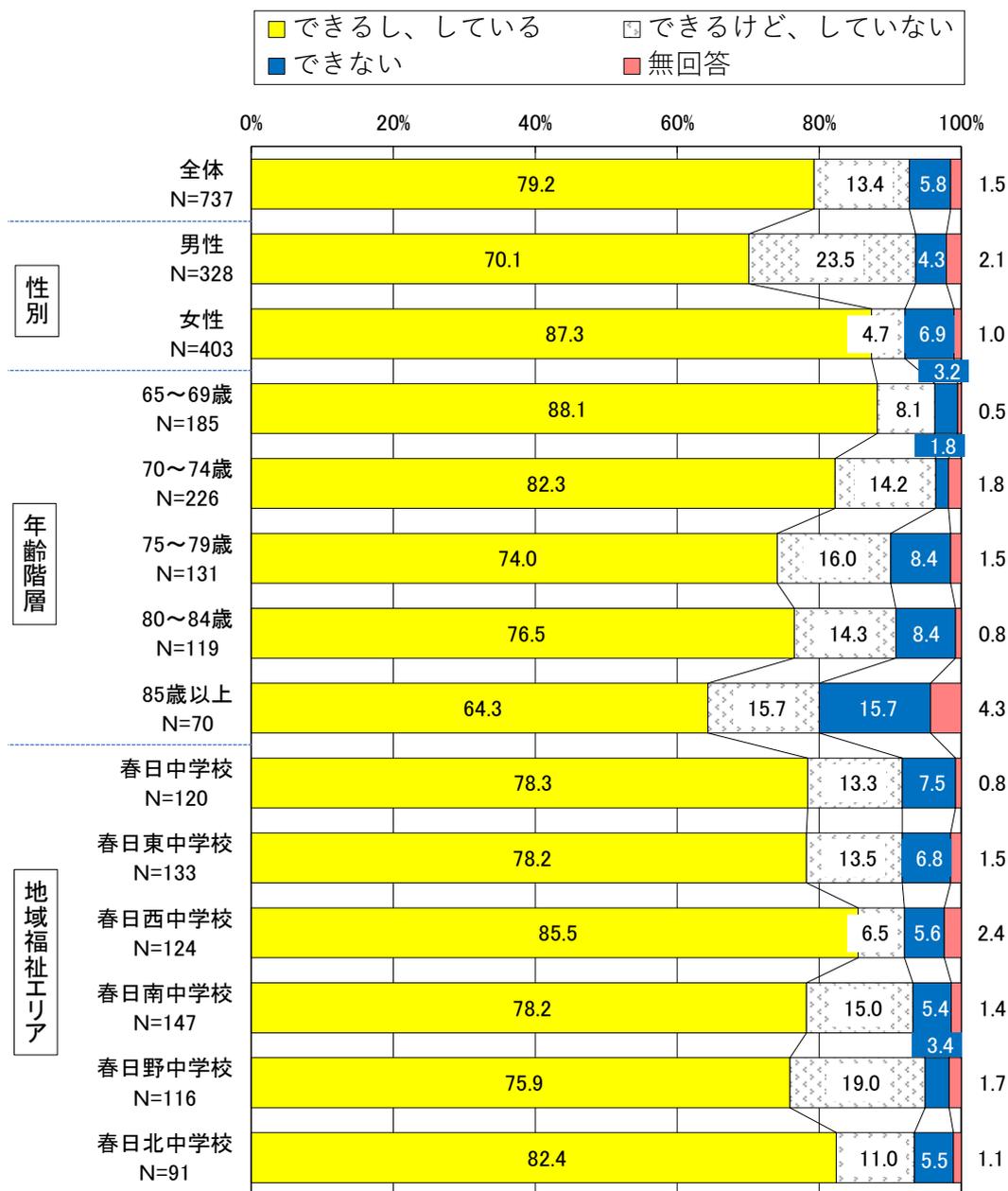
- この1年間に転んだことがある人の割合は、全体の26.7%となっており、男性(24.1%)に比べ女性(29.2%)の方がやや高くなっています。
- 年齢階層別にみると、この1年間に転んだことがある人の割合は、80歳以上で高くなっており、居住地域福祉エリア別にみると、「春日中学校」エリアが35.0%と最も高くなっています。

(7) - 5 転倒に対する不安は大きいですか。(1つに〇)



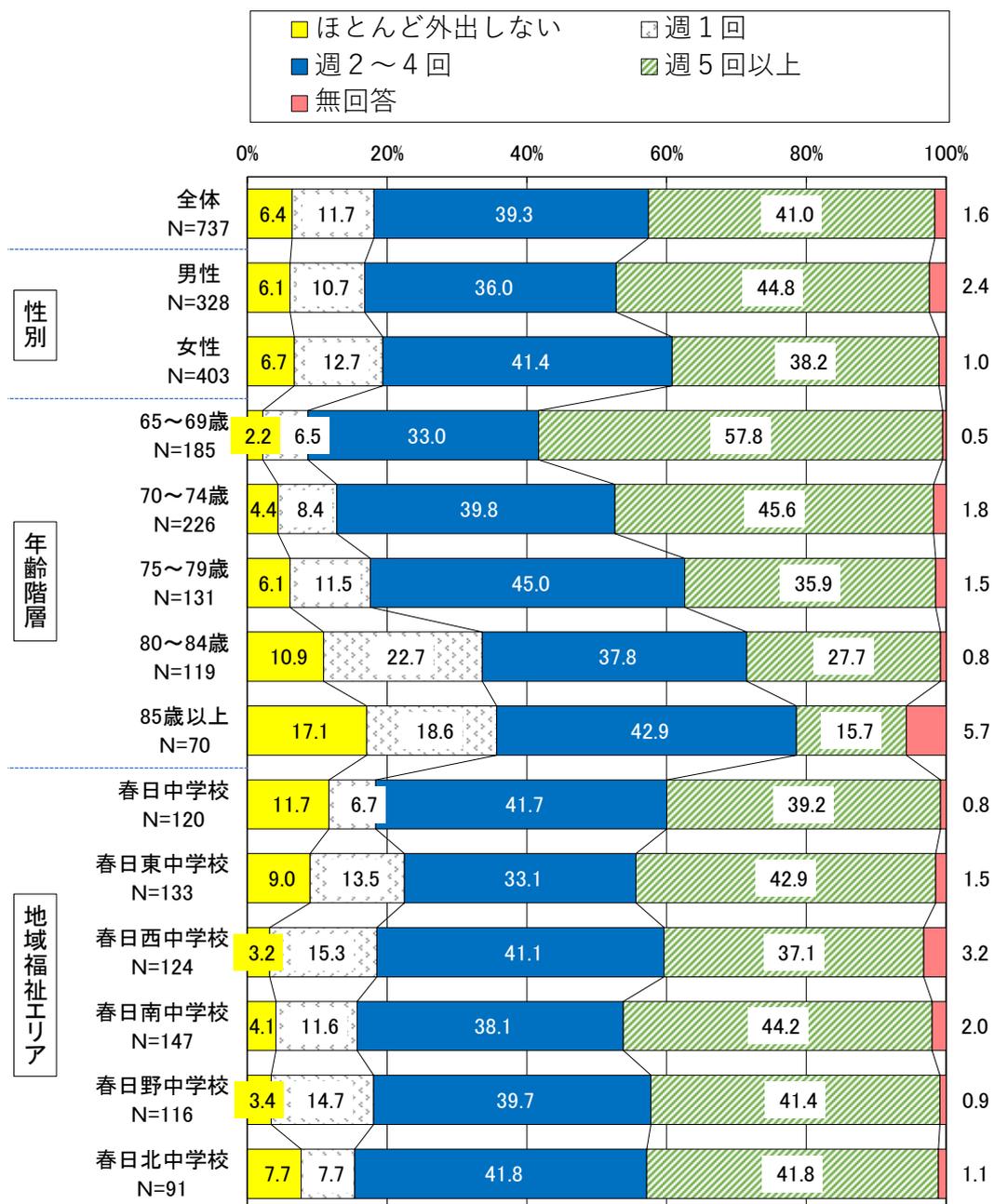
- 転倒に対して「とても不安である」「やや不安である」と回答した人の割合は、全体の 49.6%となっており、男性 (38.4%) に比べ女性 (58.1%) の方が高くなっています。
- 年齢階層別にみると、転倒に対して「とても不安である」「やや不安である」と回答した人の割合は、年齢階層が高くなるにつれて高くなっており、居住地福祉エリア別にみると、「春日中学校」エリアが 59.2%と最も高くなっています。

(8) - 1 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。(1つに〇)



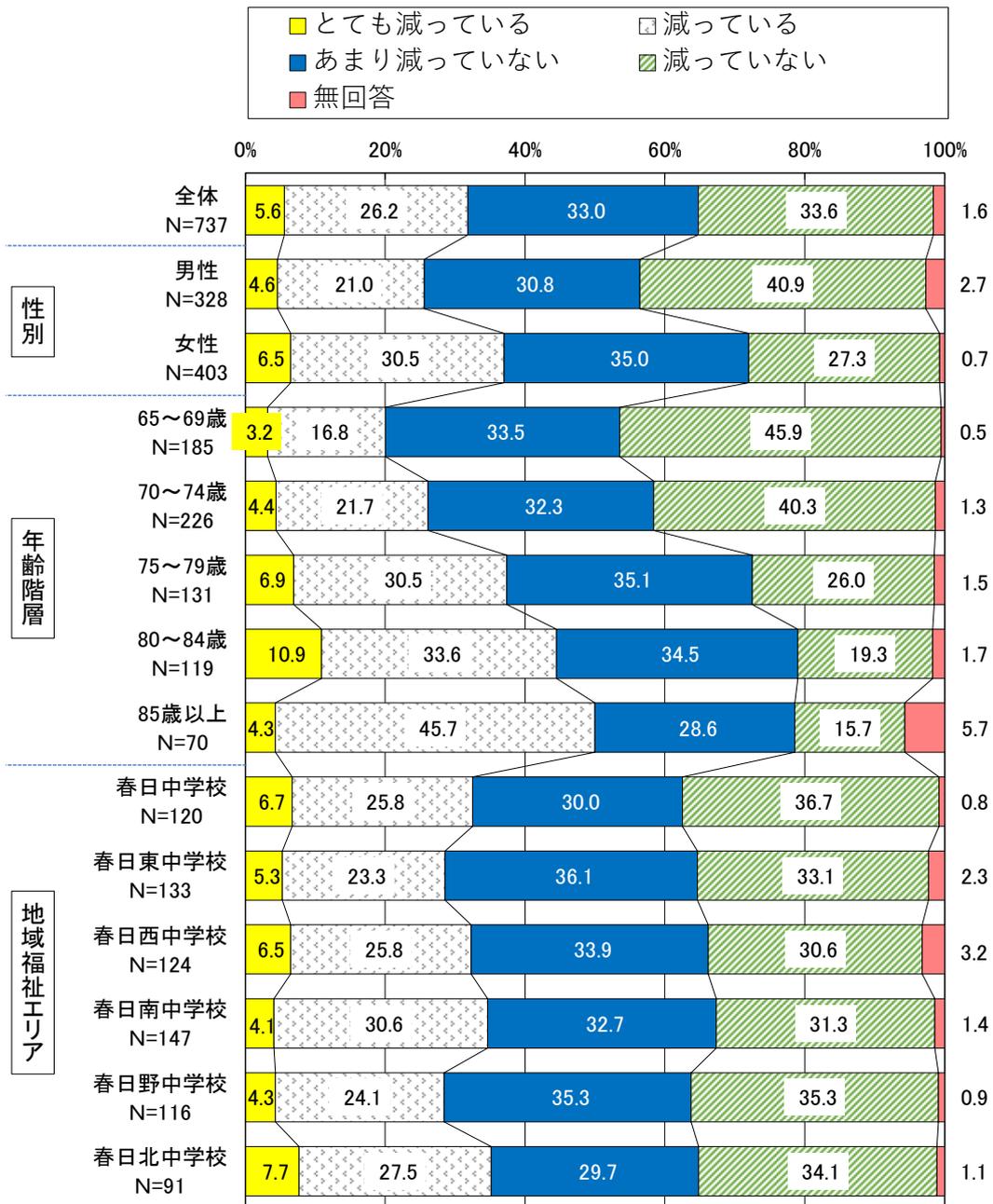
- 自分で食品・日用品の買い物を「できない」と回答した人の割合は全体の 5.8%となっており、男女別にみると、男性は女性に比べ「できるけど、していない」の割合（男性：23.5%、女性 4.7%）が高くなっています。

(8) - 2 週に1回以上は外出していますか。(1つに〇)



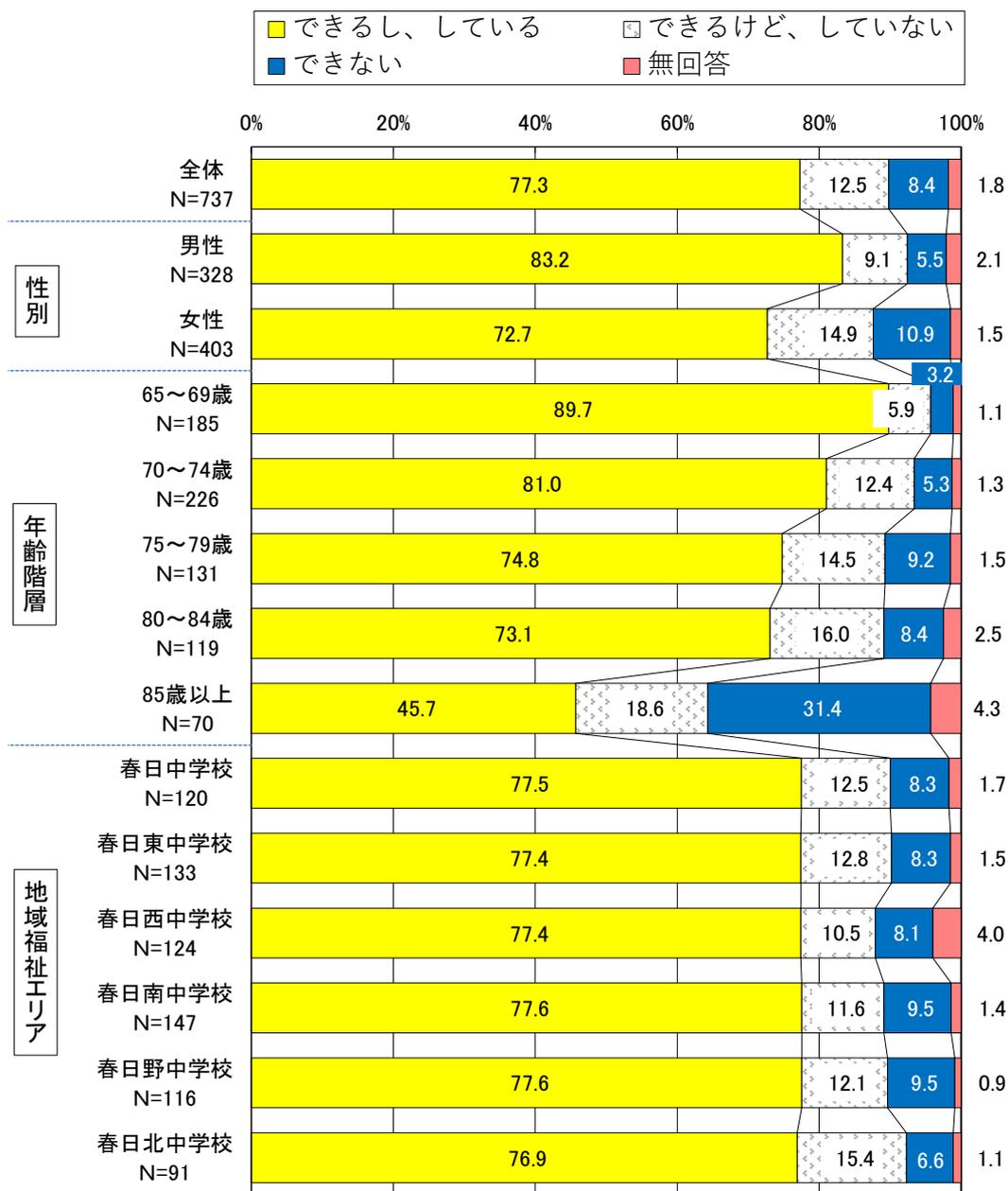
- 週に1回以上外出している人の割合は、全体の92.0%となっており、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれて外出頻度が低くなっていることがわかります。

(8) - 3 昨年と比べて外出の回数は減っていますか。(1つに〇)



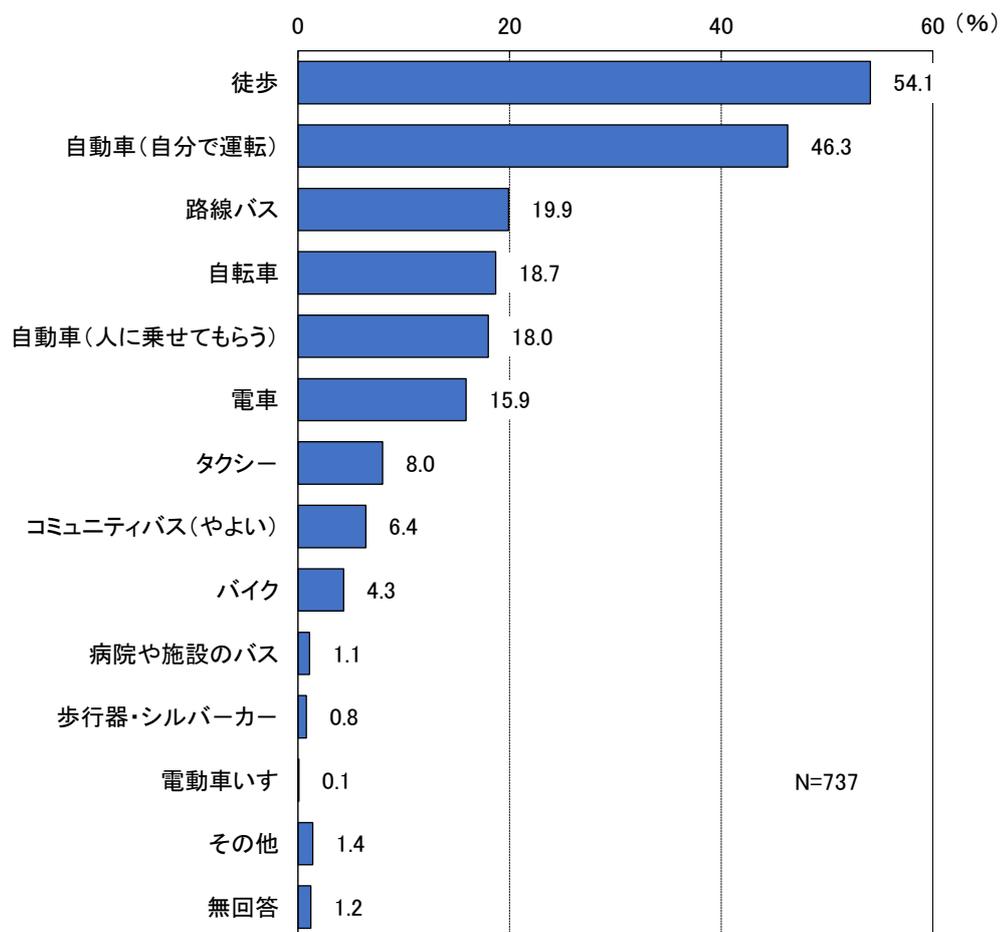
- 昨年と比べて外出の回数が減っている人の割合は、全体の31.8%となっており、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてその割合が高くなっていることがわかります。

(8) - 4 バス、電車または自家用車を使って一人で外出していますか。(1つに〇)



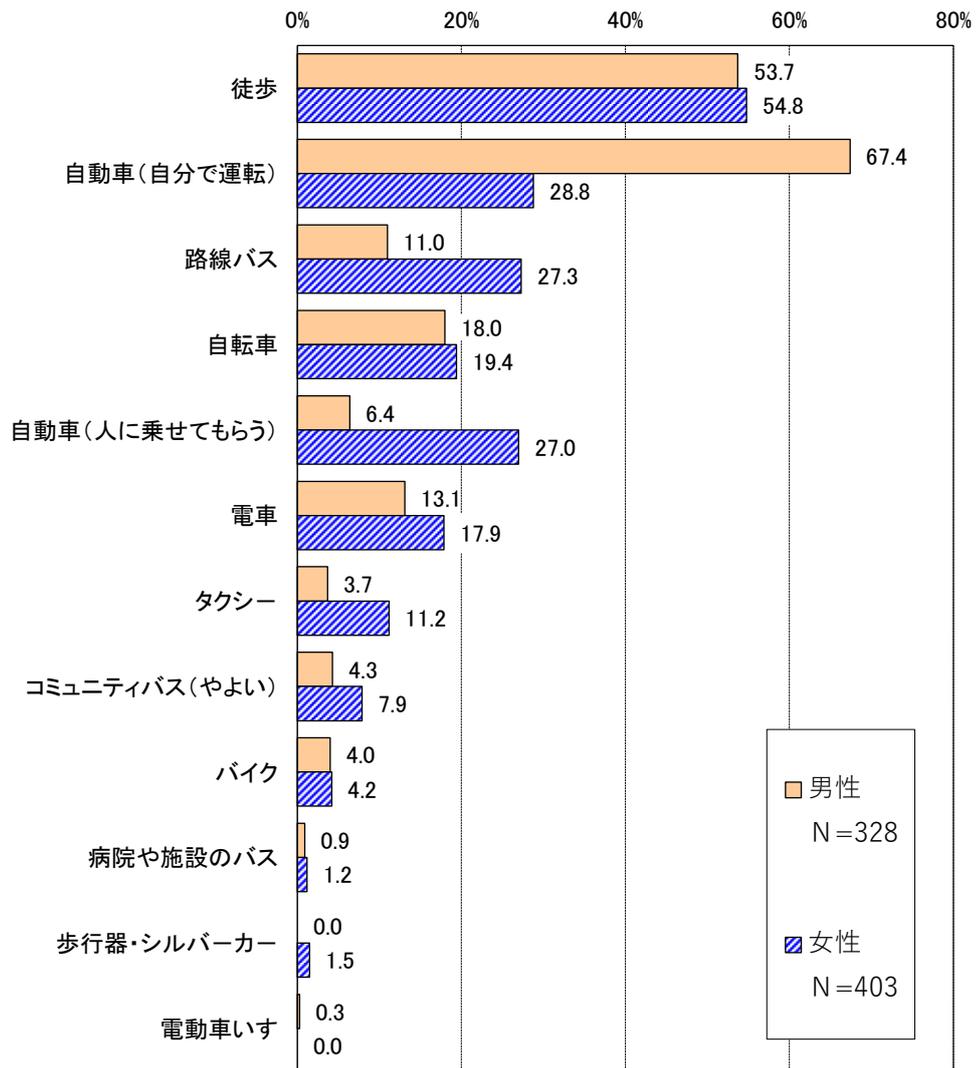
- バスや電車等で一人で外出「できない」と回答した人の割合は、全体の 8.4%となっており、年齢階層別にみると、85歳以上でその割合が急激に高くなっていることがわかります。

(8) -5 外出する際の移動手段はなんですか。(主なもの2つに○)

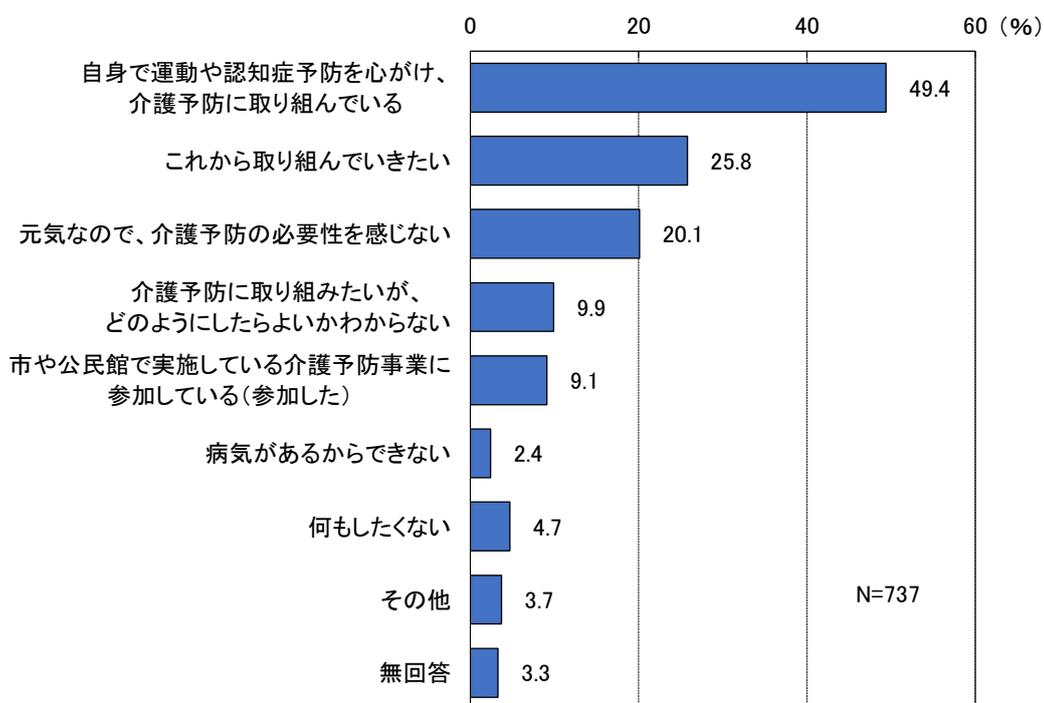


- 外出する際の移動手段については、全体では「徒歩」(54.1%)や「自動車(自分で運転)」(46.3%)と回答した人が多く、以下、「路線バス」(19.9%)、「自転車」(18.7%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(18.0%)、「電車」(15.9%)と続いています。
- 男女別に見ると、女性は男性に比べ、「自動車(自分で運転)」の割合が低く(男性:67.4%、女性28.8%)、その分「路線バス」(27.3%)や「自動車(人に乗せてもらう)」(27.0%)、「電車」(17.9%)、「タクシー」(11.2%)の回答割合が高くなっています(次ページのグラフ参照)。

外出する際の移動手段（男女別クロス集計結果）

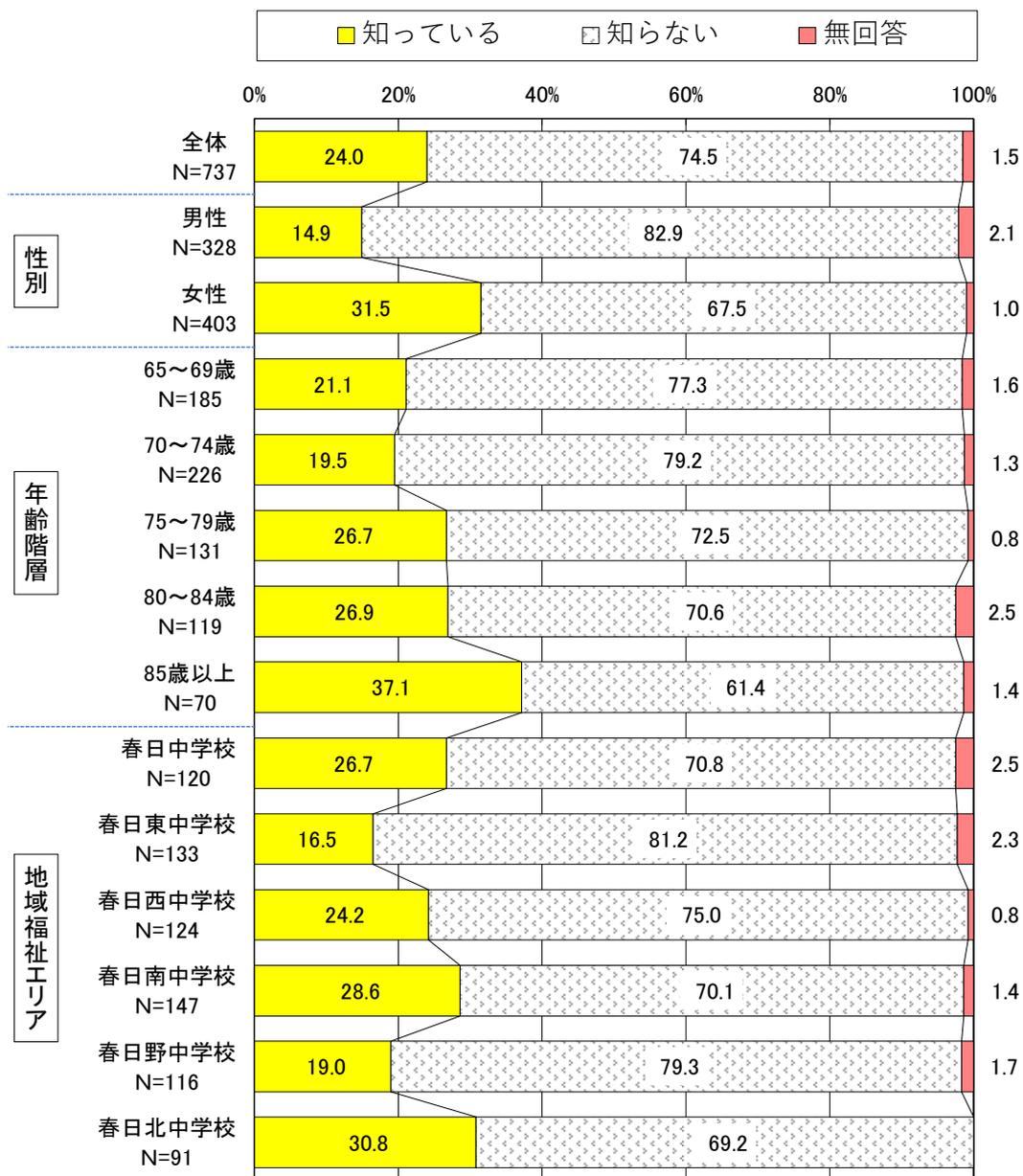


- (9) 心身が介護の必要な状態になることをできるだけ遅らせたり、今以上に悪化しないようにしたりすることを「介護予防（運動、栄養、口腔に関する取り組み等）」といいます。
ご自身で、介護予防に取り組んでいますか。（〇は2つまで）



- 介護予防についての取り組みについては、「自身で運動や認知症予防を心がけ、介護予防に取り組んでいる」と回答した人の割合が 49.4%と最も高く、「これから取り組んでいきたい」と回答した人が 25.8%で続いています。また、「元気なので、介護予防の必要性を感じない」と回答した人も 20.1%と少なくありません。
- 「市や公民館で実施している介護予防事業に参加している（参加した）」と回答した人の割合は 9.1%となっています。

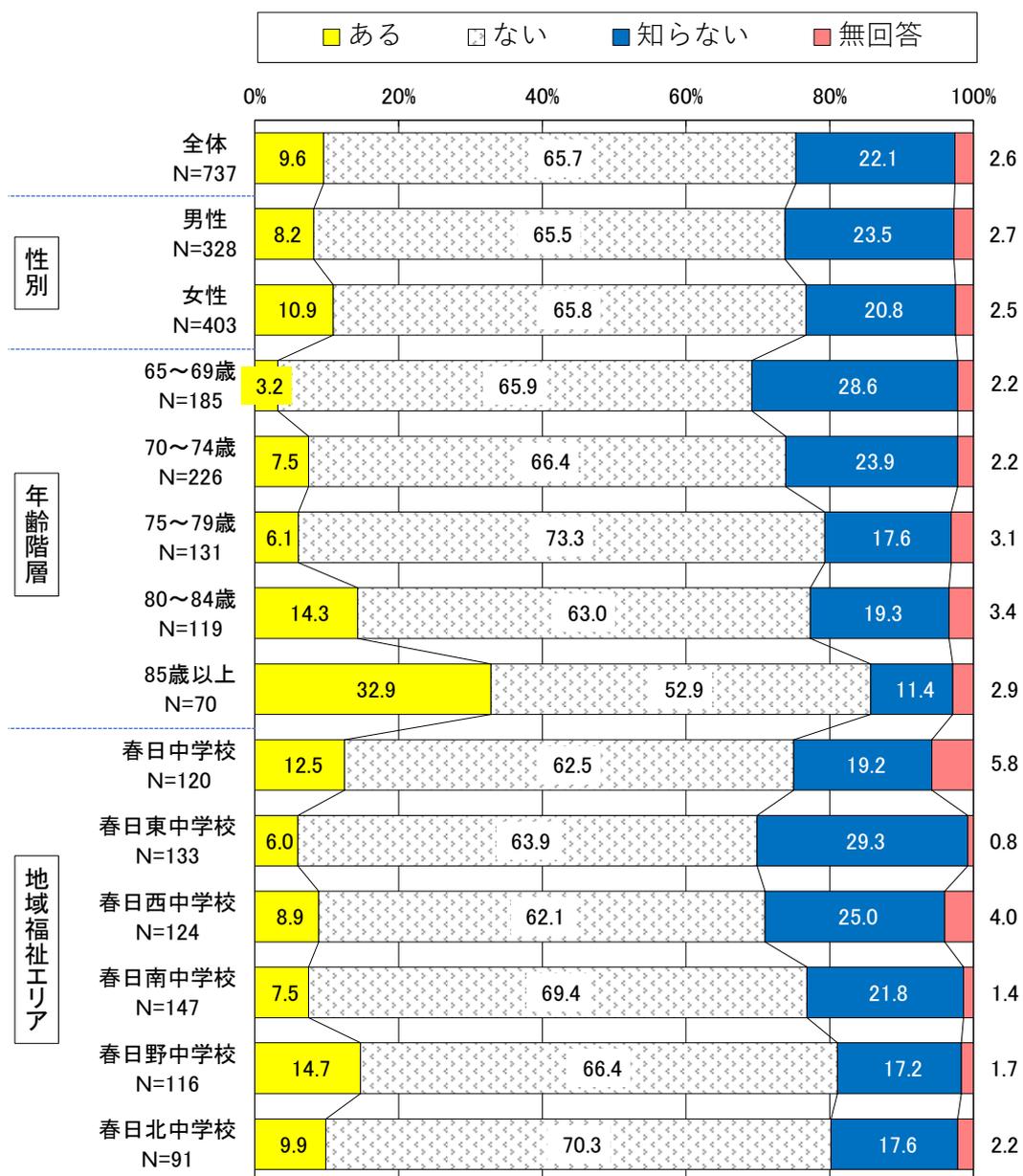
(10) あなたは、春日市の介護予防教室を知っていますか。(1つに○)



- 春日市の介護予防教室を「知っている」と回答した人の割合は、全体の24.0%となっており、男性(14.9%)に比べ女性(31.5%)の方が認知度が高くなっています。

(11) 健康づくり、福祉サービスの紹介、介護・医療に関する悩みや虐待など、生活の困りごとに
 応じる総合相談窓口として、春日市には「地域包括支援センター」が3か所あります。

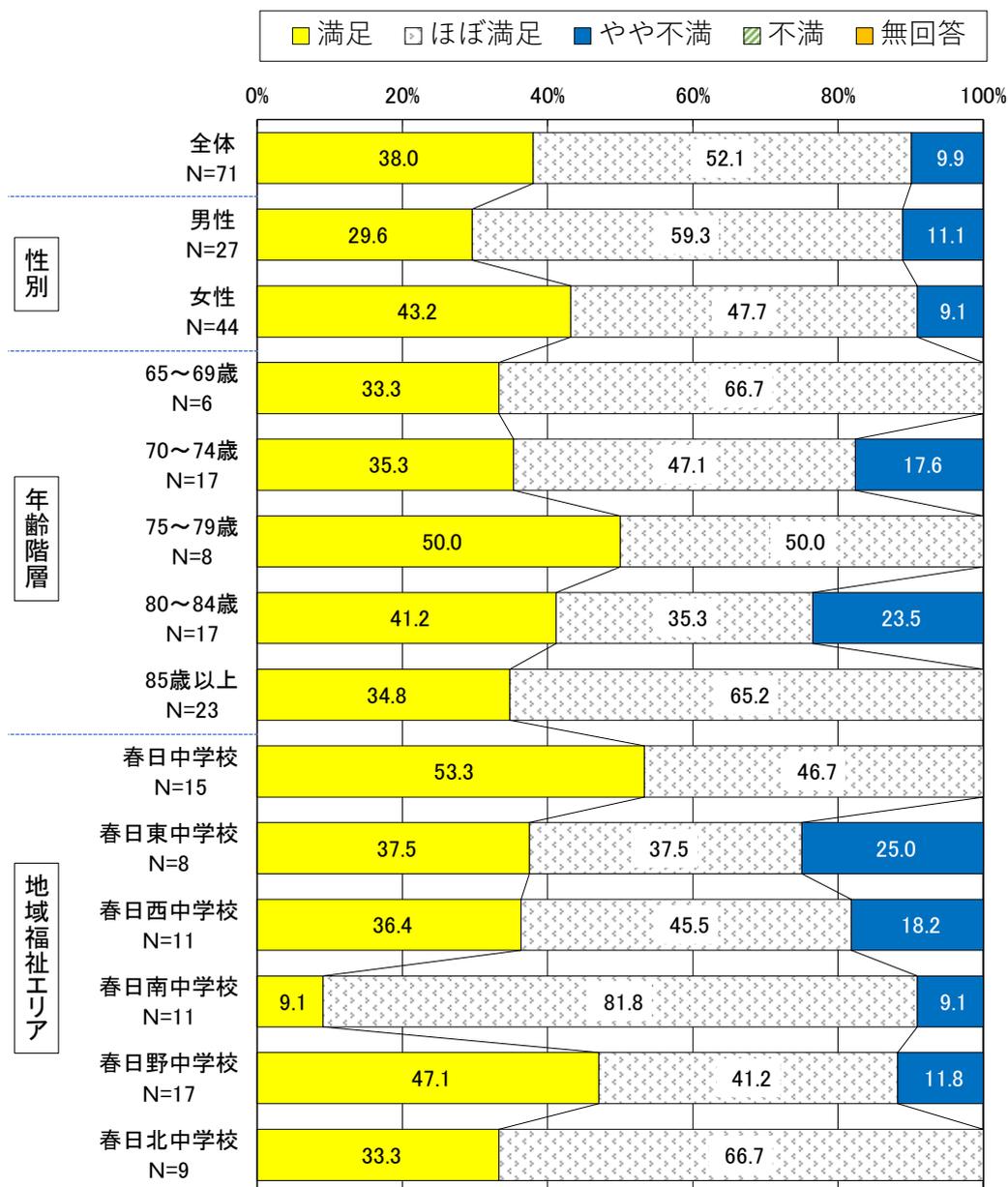
「地域包括支援センター」を利用したことがありますか。(1つに〇)



● 「地域包括支援センター」を利用したことが「ある」と回答した人の割合は、全体の 9.6%となっ
 ており、年齢階層別にみると 80 歳以上からその割合が高くなっていることがわかります。

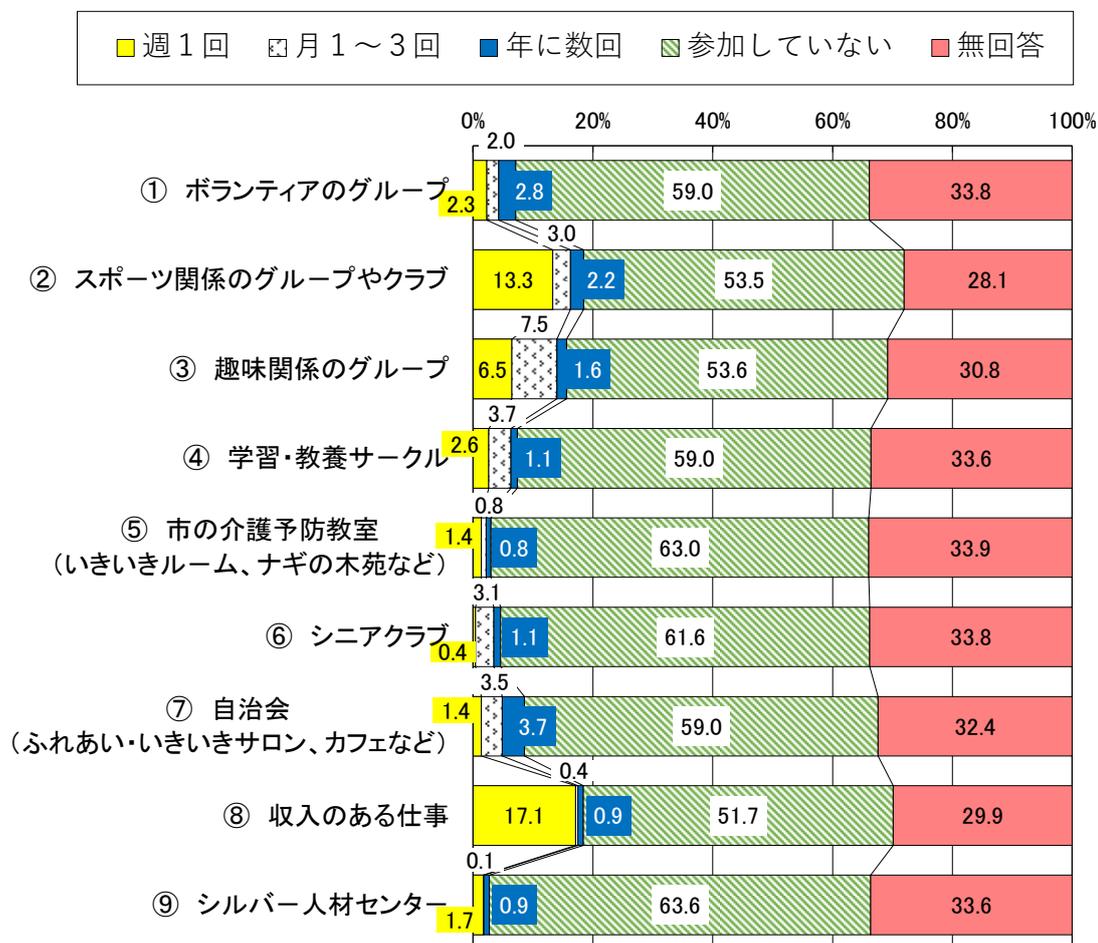
(11) -1 「1. ある」と答えた方にお聞きします。

地域包括支援センターの対応は満足のいくものでしたか。(1つに〇)



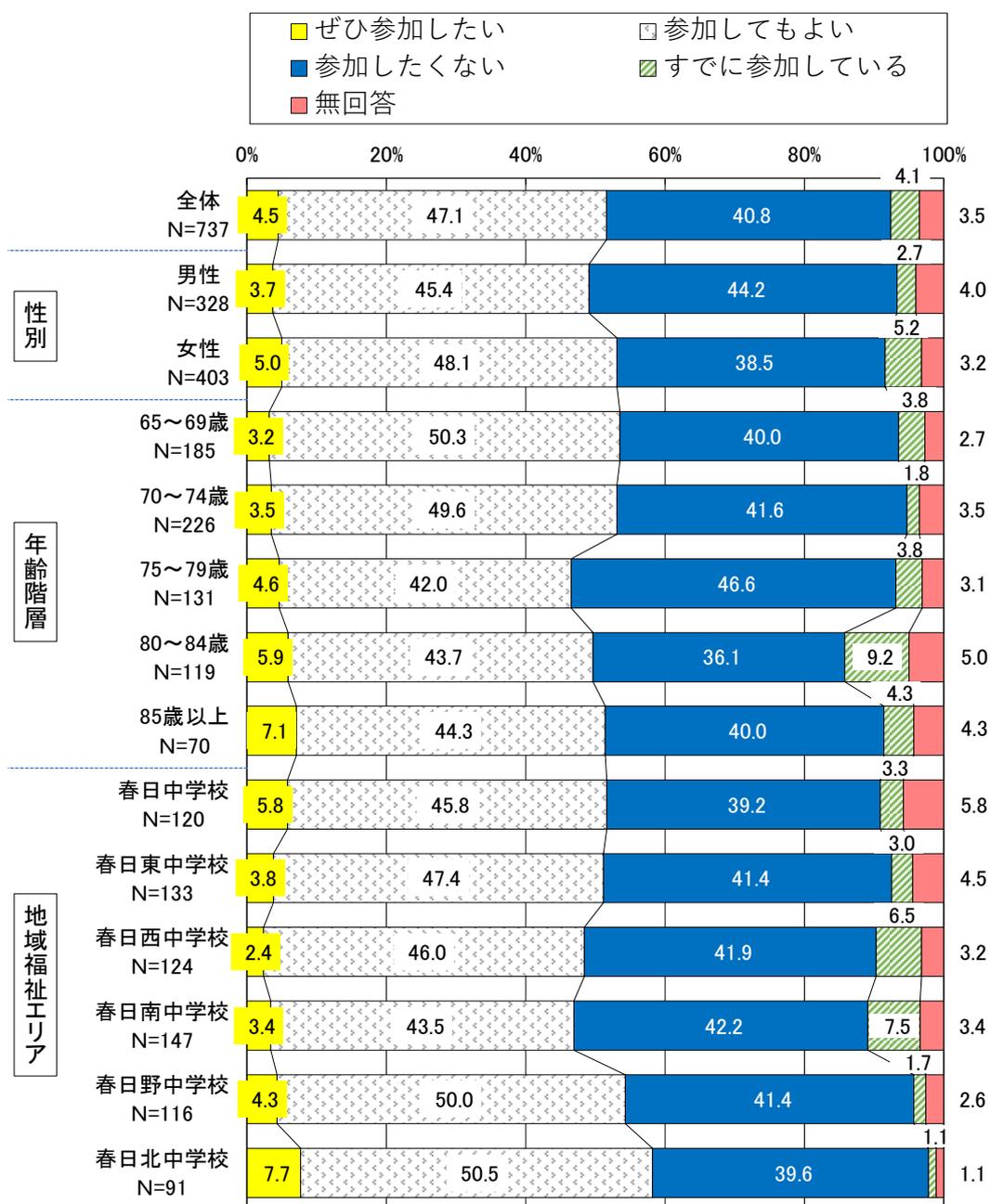
- 「地域包括支援センター」を利用したことが「ある」と回答した人に、対応の満足度をたずねたところ、「やや不満」と回答した人の割合は 9.9%にとどまり、大半は「満足」「ほぼ満足」と回答しています。

(12) 以下のような会、グループ（ボランティア、趣味活動）等にどのくらいの頻度で参加していますか。（①～⑨それぞれについて、当てはまる頻度1つに○）



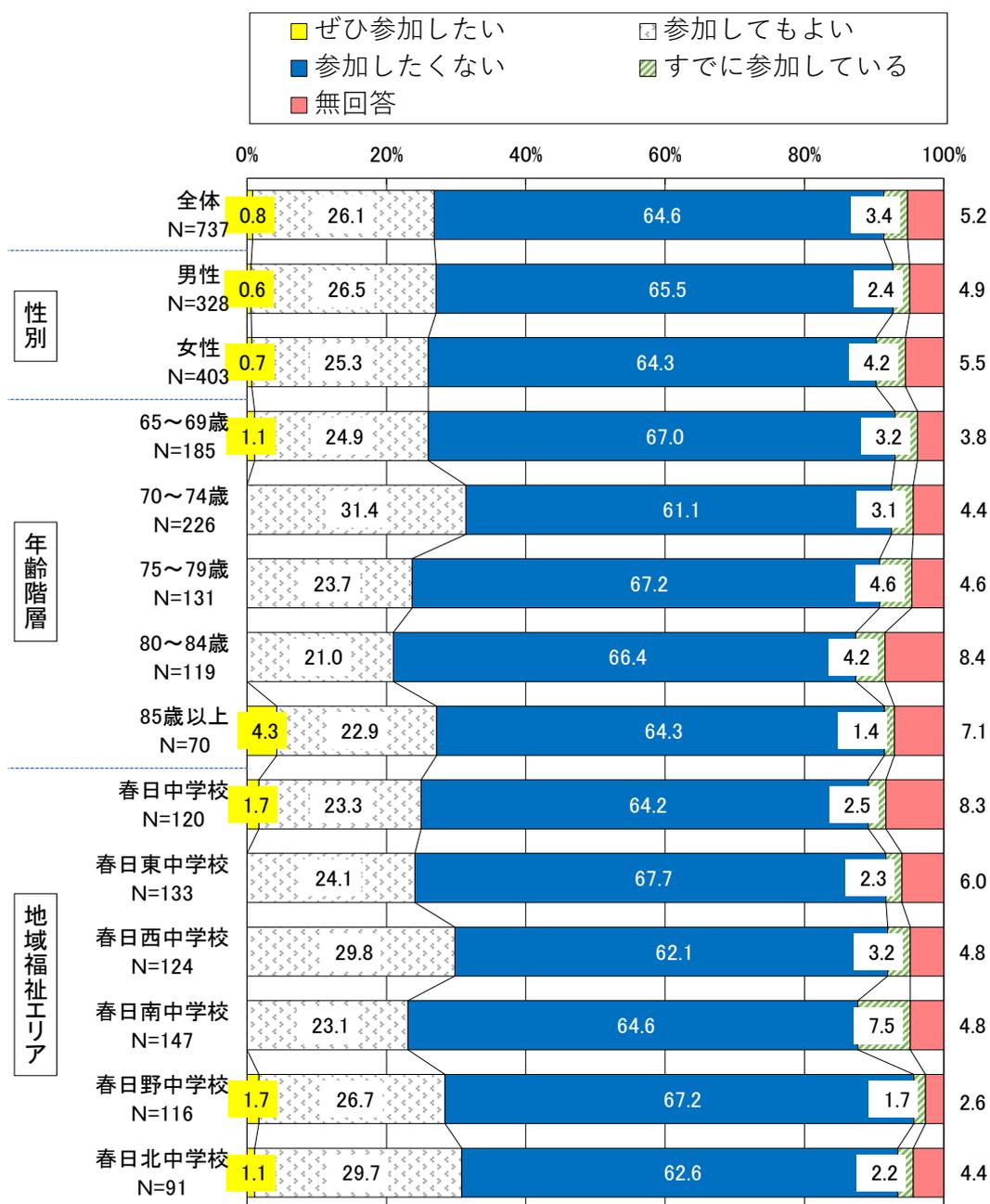
● 9つの活動のうち、月に1回以上参加している人の割合が比較的高かったのは、「⑧ 収入のある仕事」(17.5%)、「② スポーツ関係のグループやクラブ」(16.3%)、「③ 趣味関係のグループ」(14.0%)となっています。

(13) 地域住民の有志によって健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに〇)



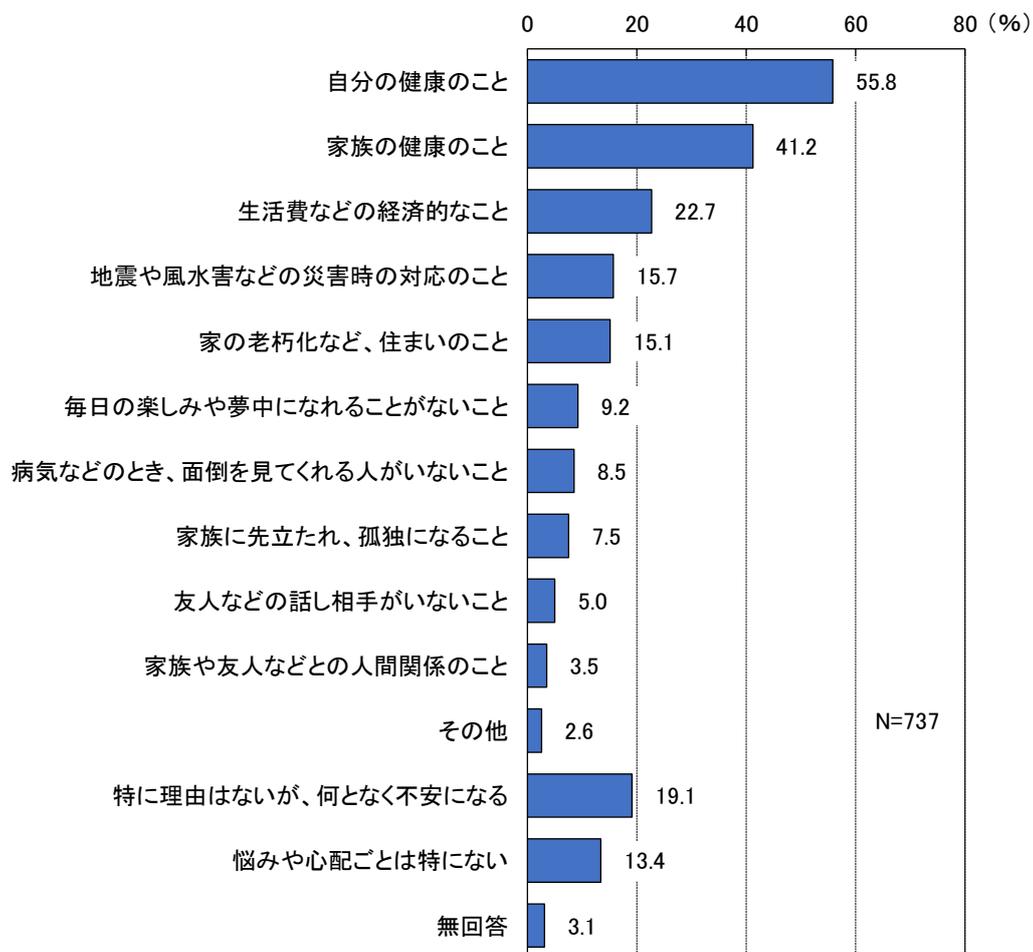
● 健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として、「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」と回答した人の割合は、全体の51.6%となっています。

(14) 地域住民の有志によって健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動にお世話役として参加してみたいと思いますか。(1つに○)



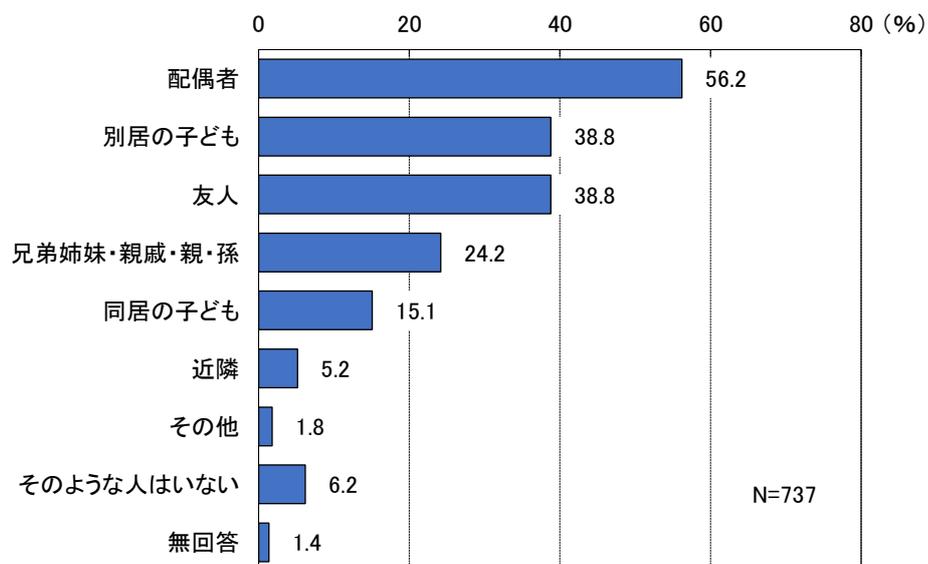
● 健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営（お世話役）として、「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」と回答した人の割合は、全体の26.9%となっています。

(15) 日頃の生活について、どのような悩みや心配ごとがありますか。(〇はいくつでも可)



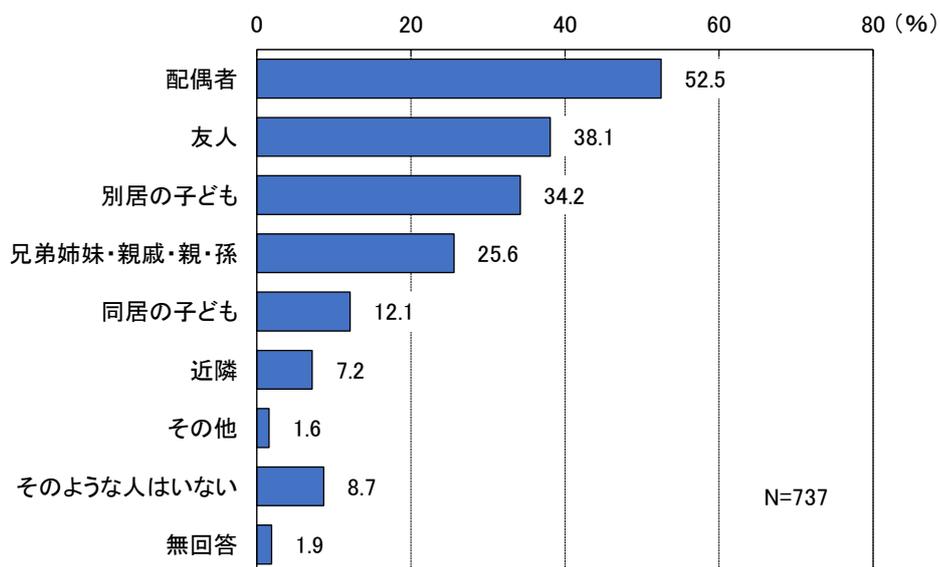
- 日頃の生活についての悩みや心配ごとについては、「自分の健康のこと」と回答した人の割合が55.8%と最も高く、「家族の健康のこと」が41.2%でそれに続いています。

(16) あなたの心配ごとや愚痴を聞いてくれる人がいますか。(〇はいくつでも可)



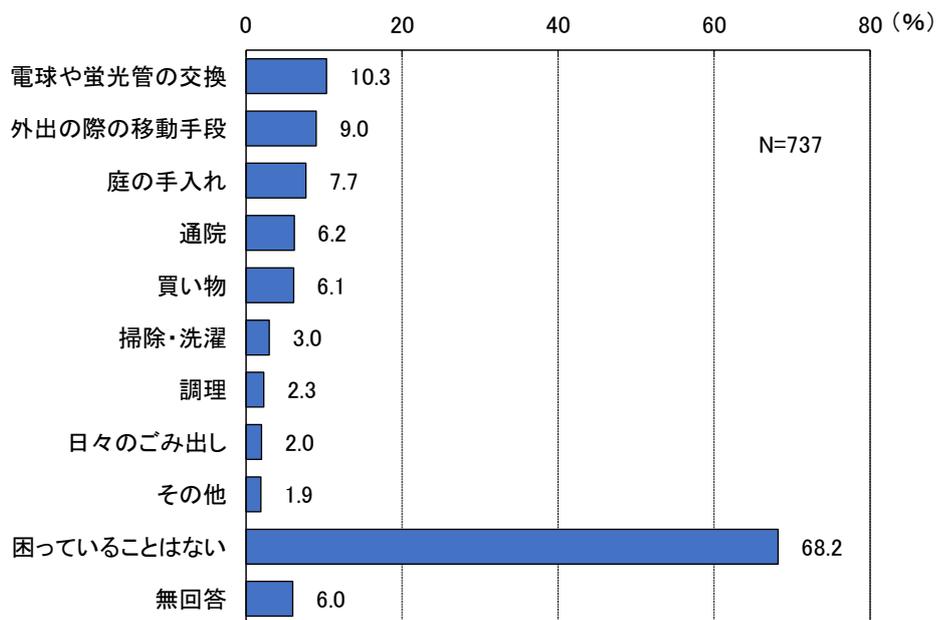
- 心配ごとや愚痴を聞いてくれる人としては、「配偶者」(56.2%)や「別居の子ども」「友人」(ともに38.8%)が上位にあがっており、「そのような人はいない」と回答した人の割合は6.2%となっています。

(17) 反対に、あなたが心配ごとや愚痴を聞いてあげる人がいますか。(〇はいくつでも可)



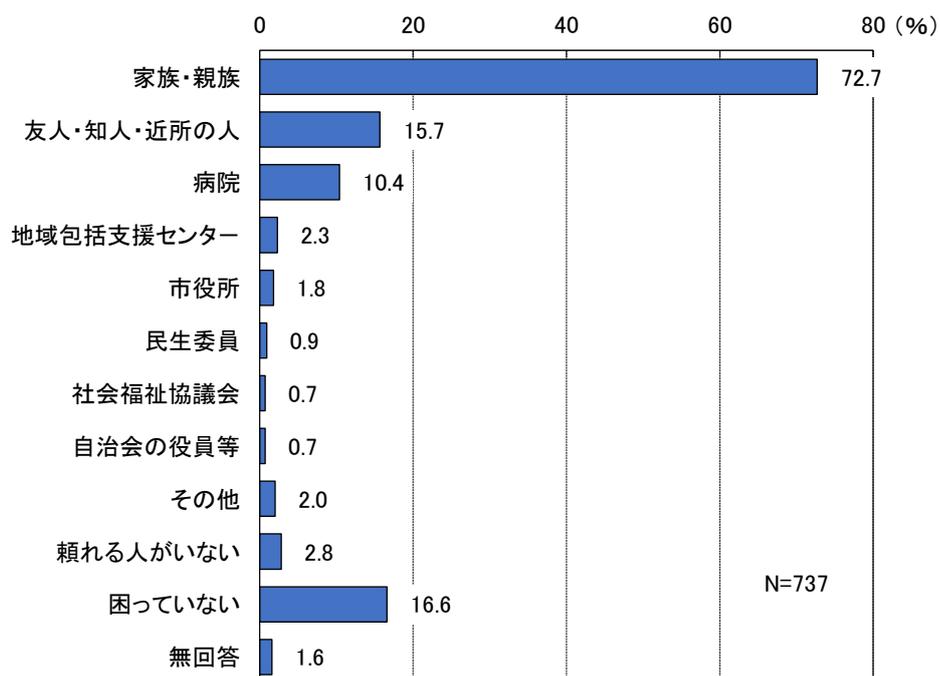
- 心配ごとや愚痴を聞いてあげる人としては、「配偶者」(52.5%)や「友人」(38.1%)、「別居の子ども」(34.2%)が上位にあがっており、「そのような人はいない」と回答した人の割合は8.7%となっています。

(18) 誰かの手助けが必要と感じるなど、困っていることはありますか。(〇はいくつでも可)



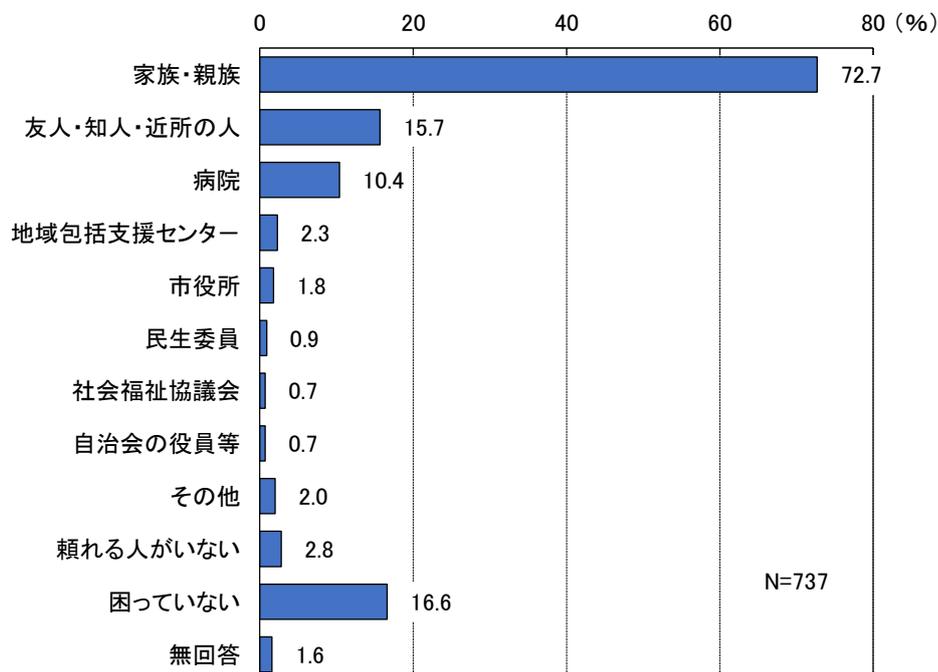
- 誰かの手助けが必要と感じるなど、「困っていることはない」と回答した人の割合は 68.2%となっており、これと「無回答」(6.0%)を除いた 25.8%の人は何らかの困っていることがあると回答しています。
- 困っていることの内容としては、「電球や蛍光管の交換」(10.3%)や「外出の際の移動手段」(9.0%)、「庭の手入れ」(7.7%)「通院」(6.2%)、「買い物」(6.1%)などがあがっています。

(19) 困ったときは誰に頼っていますか。(〇はいくつでも可)



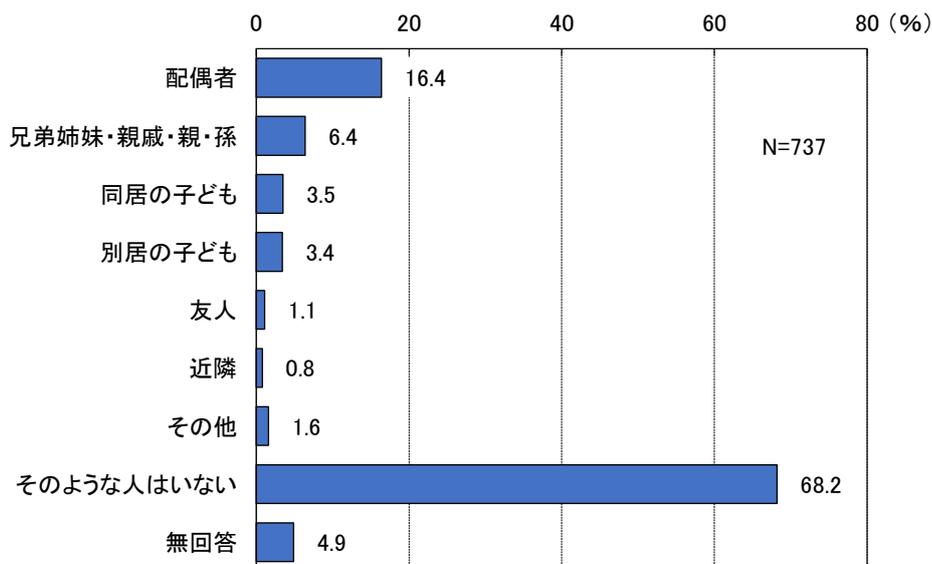
- 困ったときに頼る相手としては、「家族・親族」が 72.7%と最も多く、以下「友人・知人・近所の人」(15.7%)、「病院」(10.4%)と続いています。

(20) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。
(〇はいくつでも可)



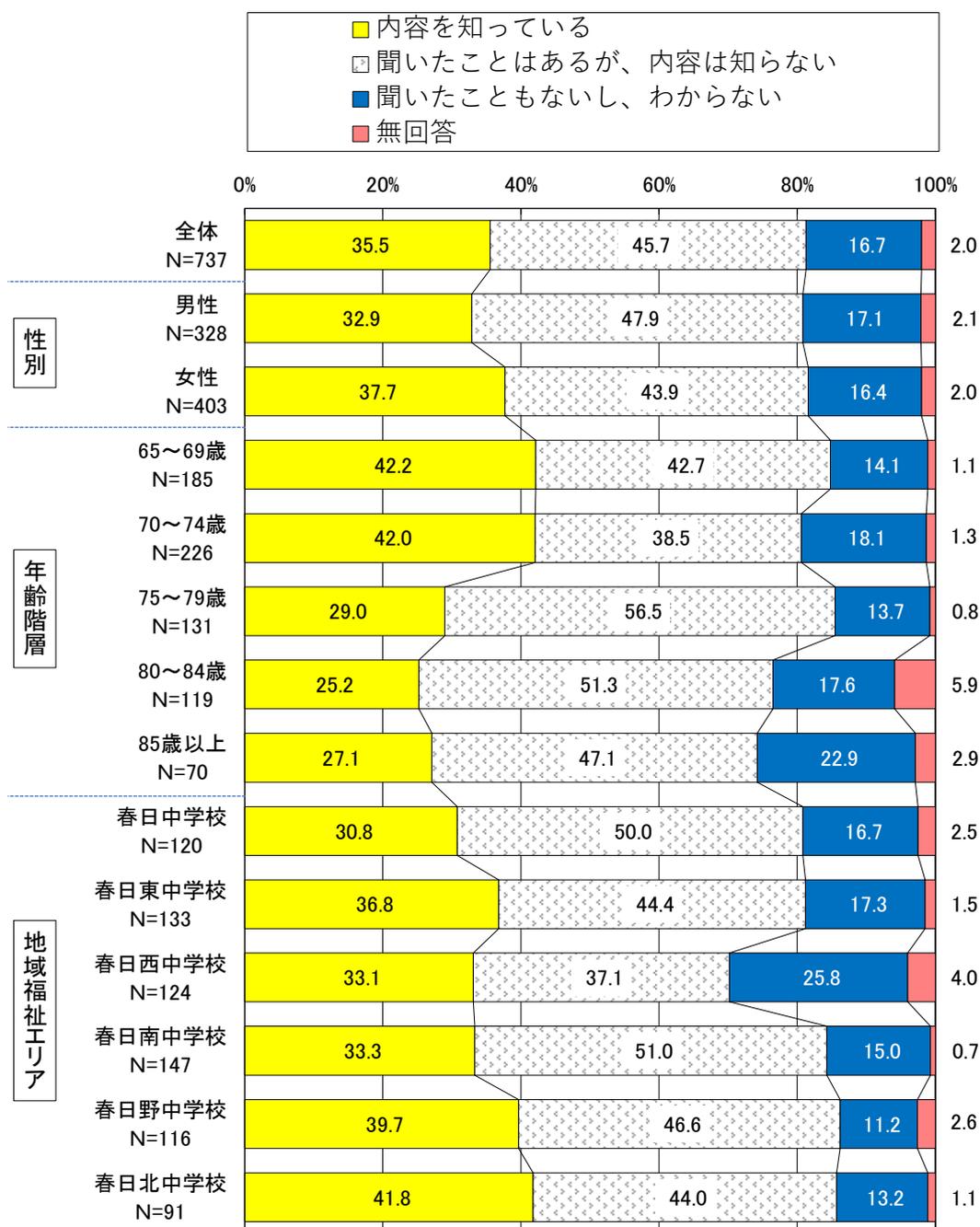
● 病気のときに看病や世話をしてくれる人としては、「家族・親族」が 72.7%と最も多く、以下「友人・知人・近所の人」(15.7%)、「病院」(10.4%)と続いています。

(21) 反対に、あなたが看病や世話をしている人がいますか。(〇はいくつでも可)



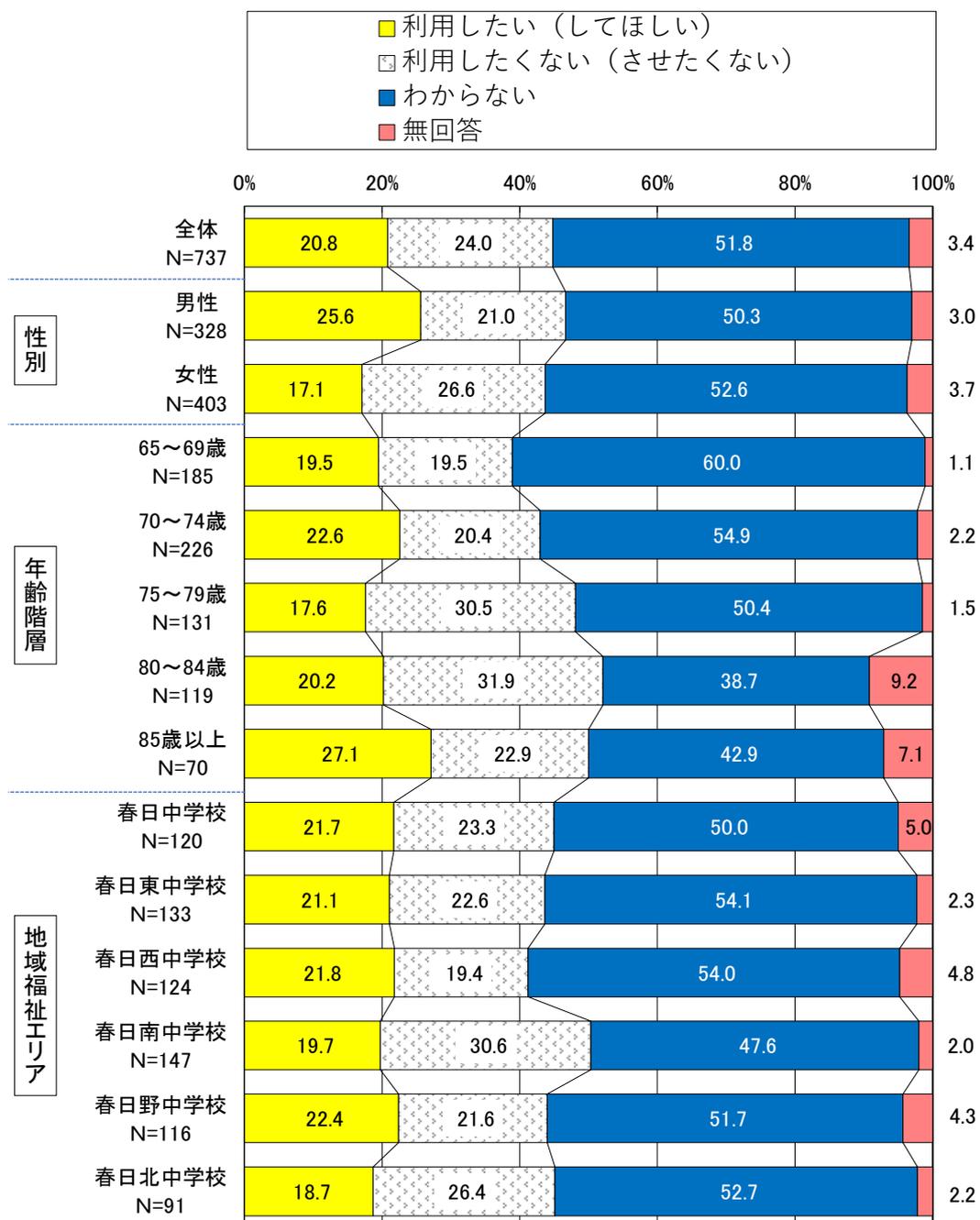
● 看病や世話をしてあげる人としては、「配偶者」が 16.4%と多くなっていますが、「そのような人はいない」という回答が 68.2%を占めています。

(22) あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)



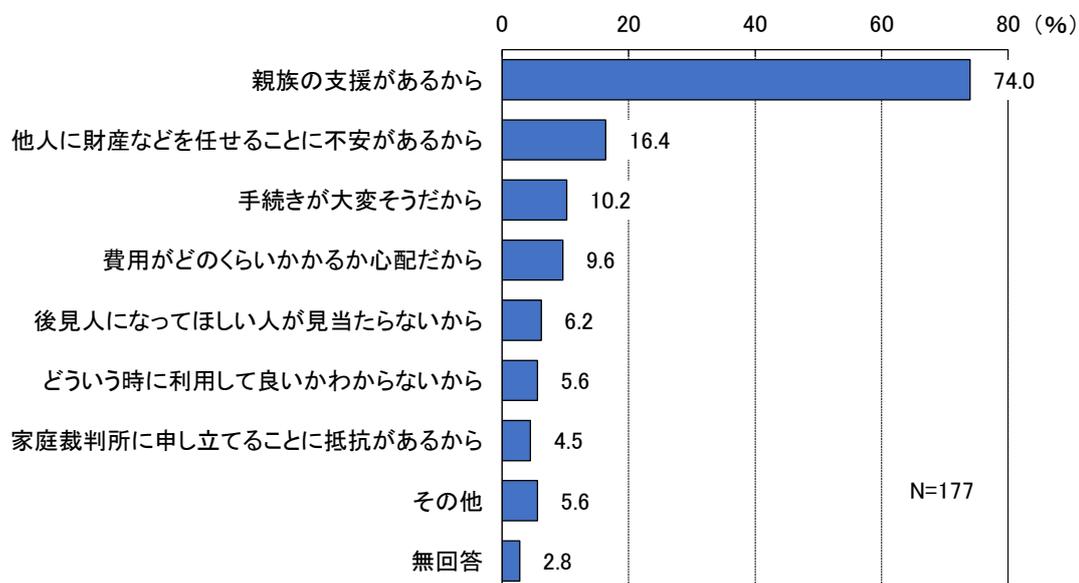
- 成年後見制度について「内容を知っている」と回答した人は全体の35.5%で、年齢階層別にみると75歳以上に比べ75歳未満の認知度が高くなっていることがわかります。

(23) あなた自身やあなたの家族などが認知症などで判断が十分にできなくなったとき、「成年後見制度」を利用したい（してほしい）ですか。（1つに○）



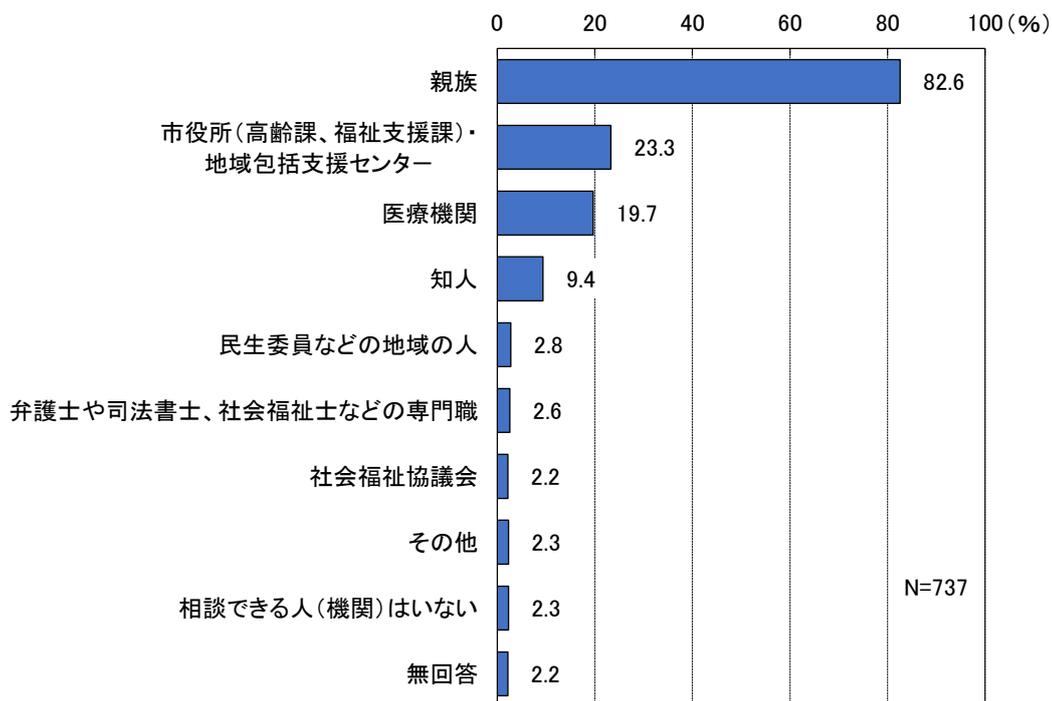
- 自分や家族などが認知症などで判断が十分にできなくなったとき、成年後見制度を「利用したい（してほしい）」と回答した人の割合は全体の20.8%となっており、「利用したくない（させたくない）」と回答した人の割合（24.0%）を下回っています。
- 「利用したい（してほしい）」と回答した人の割合を男女別にみると、女性（17.1%）に比べ男性（25.6%）の方が高くなっています。

(23) -1 「2. 利用したくない(させたくない)」と回答した方にお聞きします。
その理由はなぜですか。(〇は2つまで)



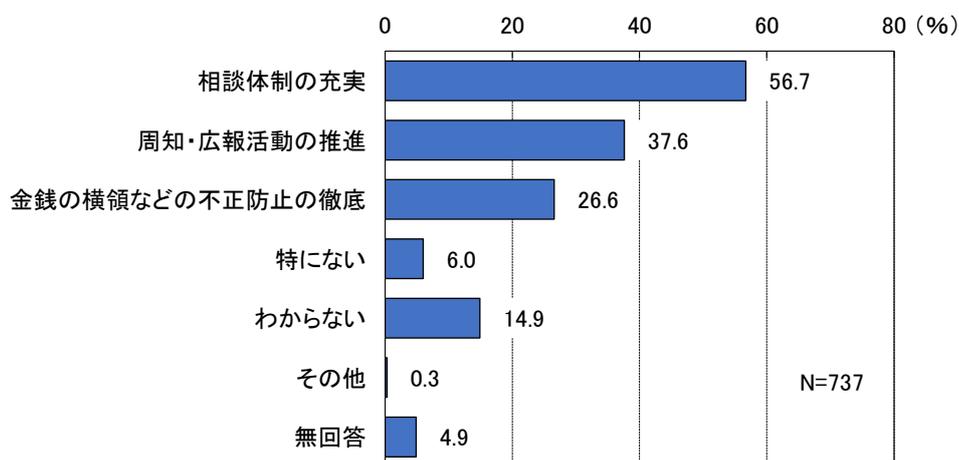
- 成年後見制度を「利用したくない(させたくない)」と回答した人にその理由をたずねたところ、「親族の支援があるから」と回答した人の割合が74.0%と最も高く、以下「他人に財産などを任せることに不安があるから」が16.4%、「手続きが大変そうだから」が10.2%、「費用がどのくらいかかるか心配だから」が9.6%と続いています。

(24) 判断能力に不安を感じたとき、だれ(どの機関)に相談したいですか。(〇は2つまで)



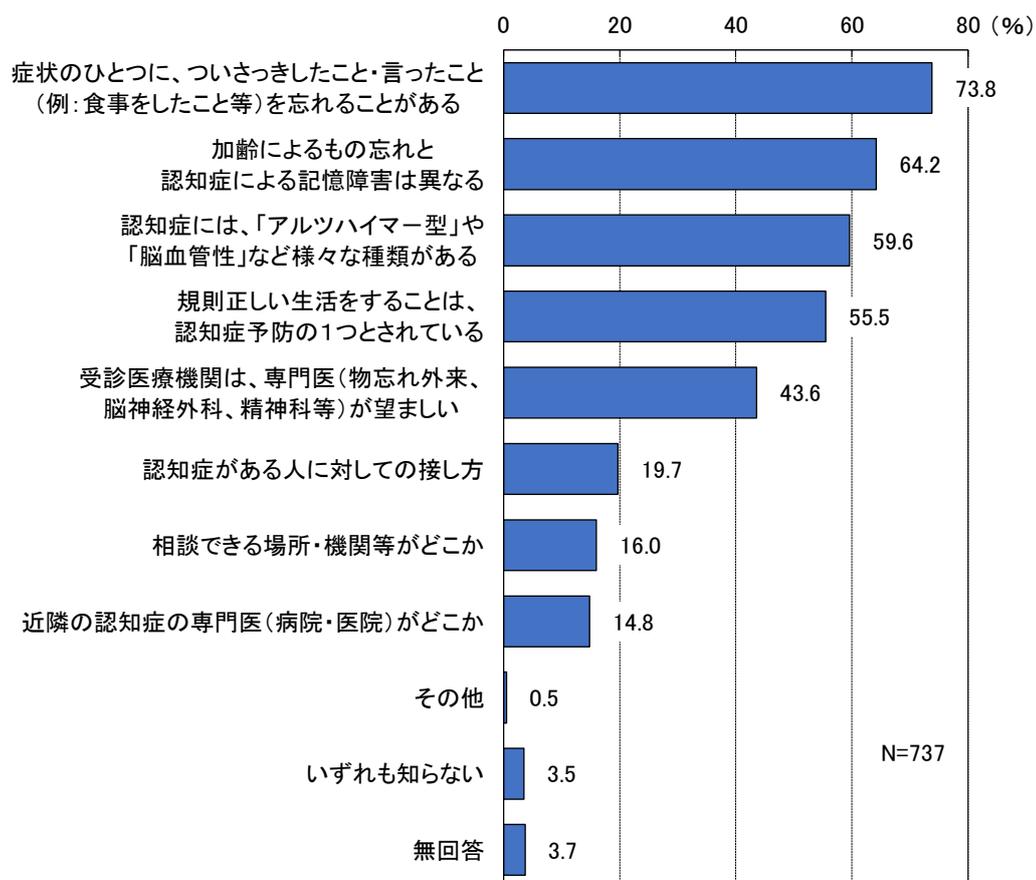
- 判断能力に不安を感じたときに相談した相手については、「親族」と回答した人の割合が 82.6%と最も高く、以下「市役所(高齢課、福祉支援課)・地域包括支援センター」が 23.3%、「医療機関」が 19.7%と続いています。

(25) 今後、高齢化がますます進展するにつれて、認知症高齢者も増加することが予想されています。認知症などにより意思決定や判断に支援が必要になった場合に、適切に成年後見制度やその他関連するサービスを利用できる体制をつくることが重要となります。成年後見制度やその他関連するサービスの利用促進・充実を図っていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)



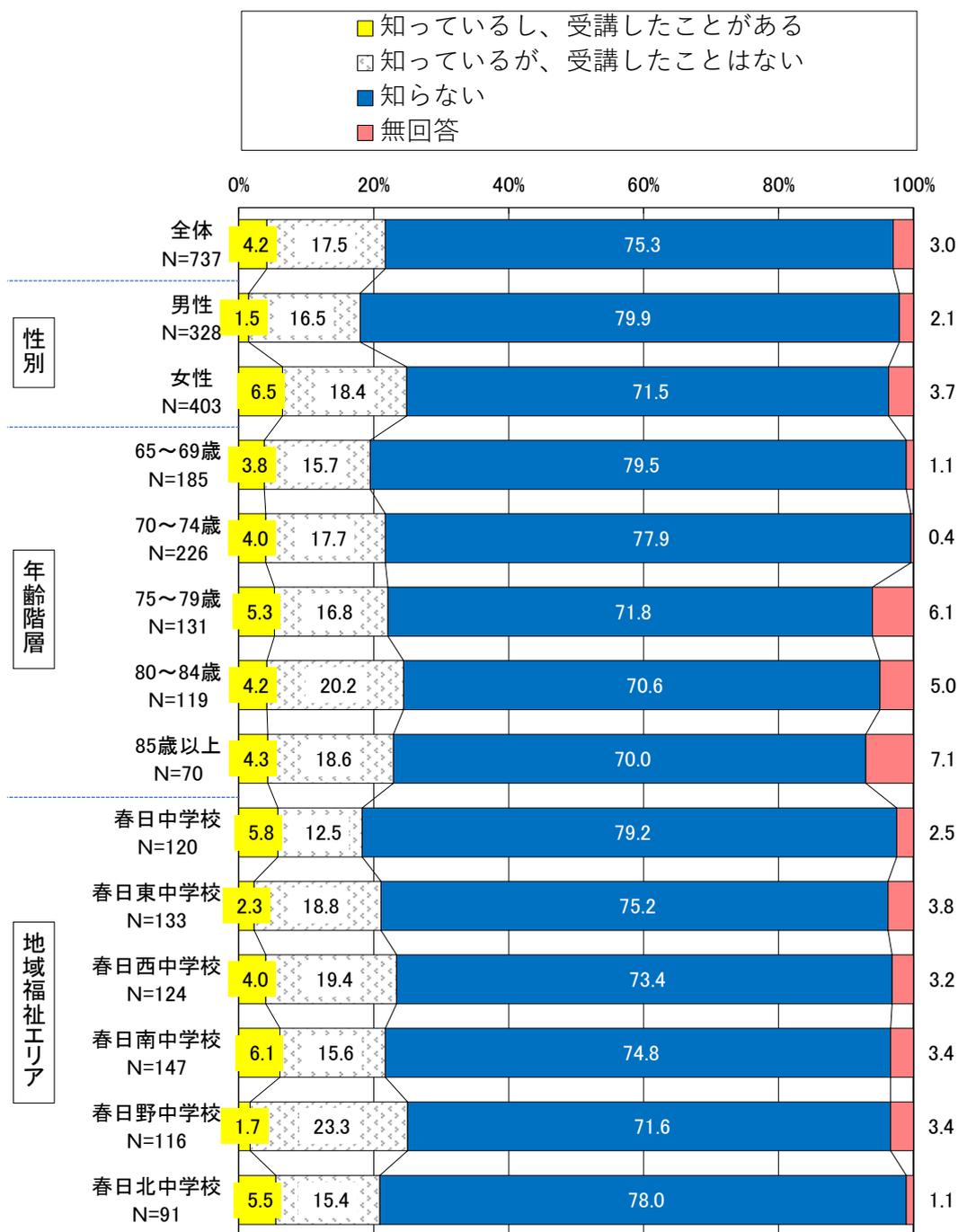
- 成年後見制度やその他関連するサービスの利用促進・充実を図っていくために必要だと思うこととしては、「相談体制の充実」と回答した人の割合が 56.7%と最も高く、以下「周知・広報活動の推進」が 37.6%、「金銭の横領などの不正防止の徹底」が 26.6%と続いています。

(26) 認知症に関して次のような事を知っていますか。(〇はいくつでも可)



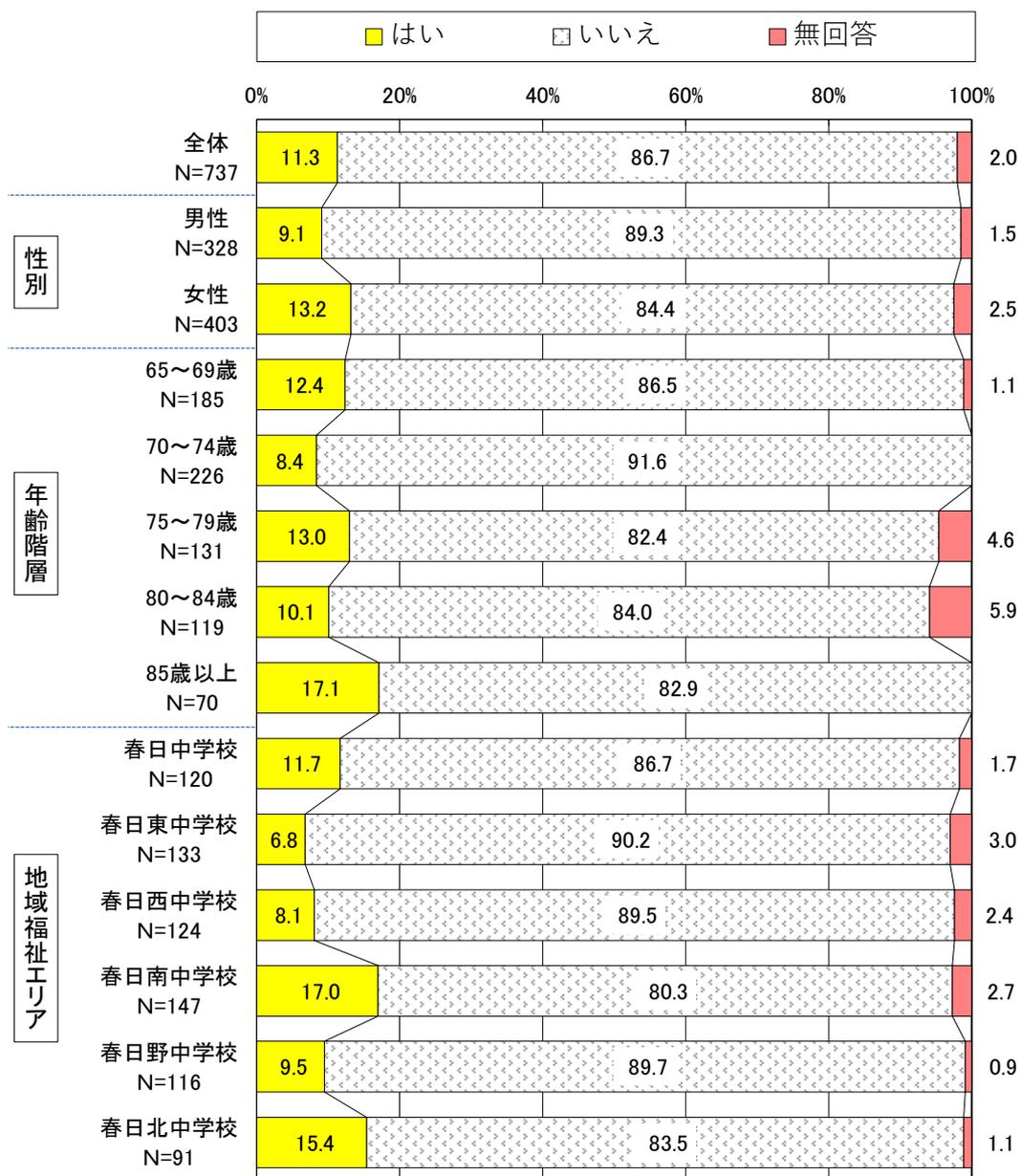
- 認知症に関する事柄のうち、認知度が最も高かったのは「症状のひとつに、ついさっきしたこと・言ったこと (例: 食事をしたこと等) を忘れることがある」で73.8%、以下「加齢によるもの忘れと認知症による記憶障害は異なる」(64.2%)、「認知症には、「アルツハイマー型」や「脳血管性」など様々な種類がある」(59.6%)、「規則正しい生活をする事は、認知症予防の1つとされている」(55.5%)、「受診医療機関は、専門医 (物忘れ外来、脳神経外科、精神科等) が望ましい」(43.6%)と続いています。

(27) 「認知症サポーター養成講座」を知っていますか。(1つに〇)



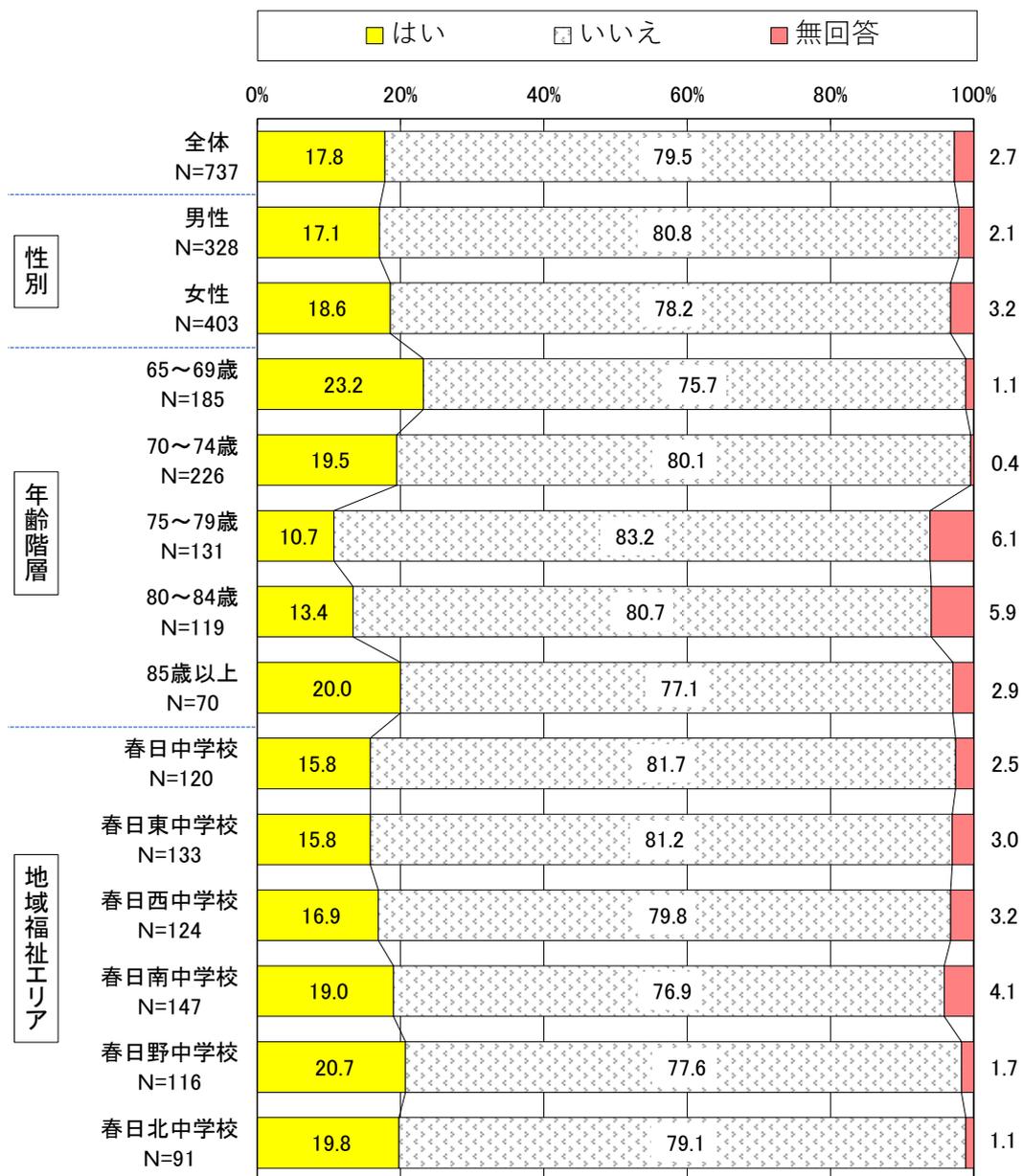
- 「認知症サポーター養成講座」を「知っている」と回答した人の割合は全体の 21.7%、「受講したことがある」と回答した人は 4.2%となっています。

(28) あなたを含めた家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つに〇)



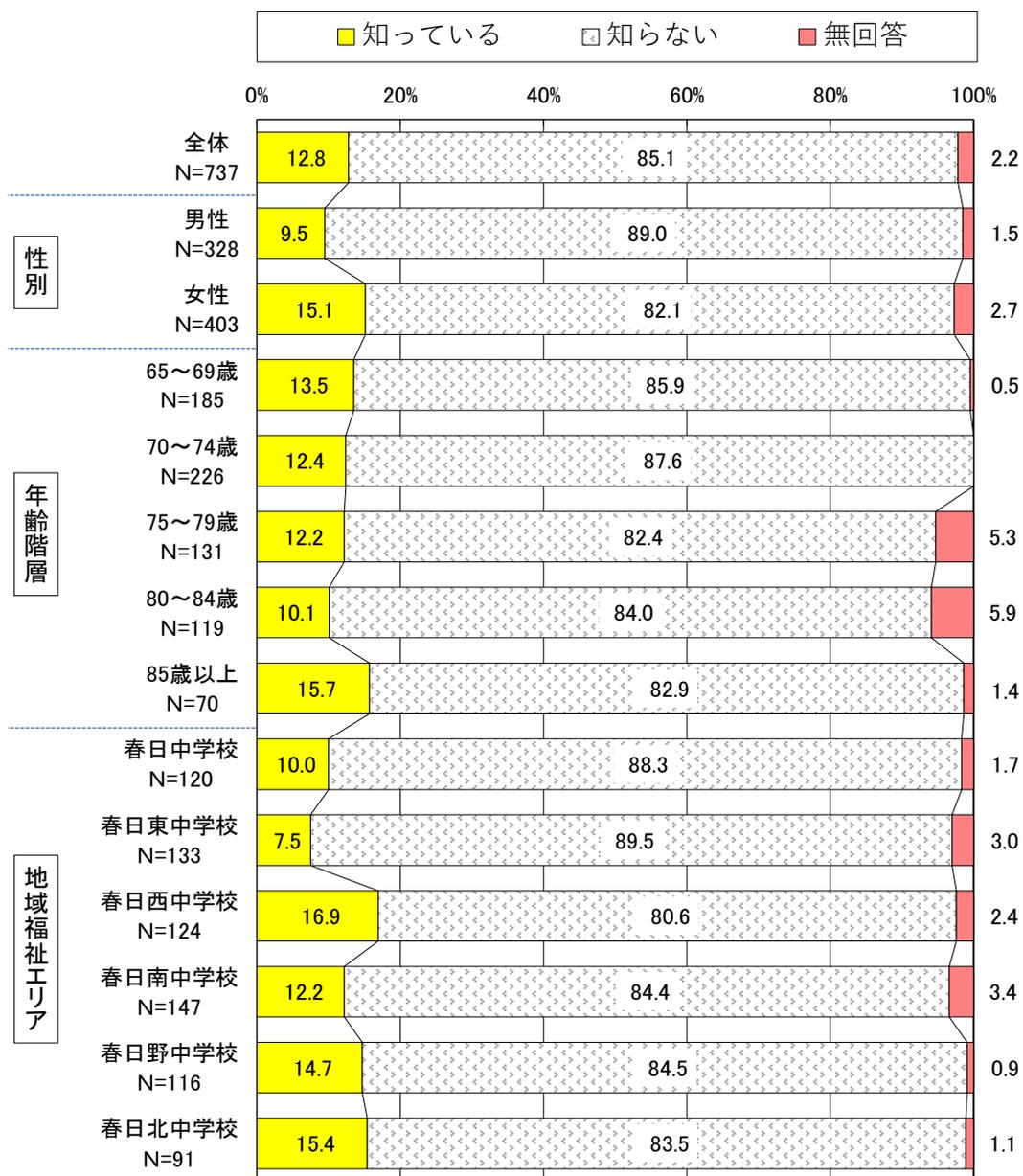
● 本人を含め、家族に認知症の症状がある人がいると回答した人の割合は全体の11.3%となっています。

(29) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○)



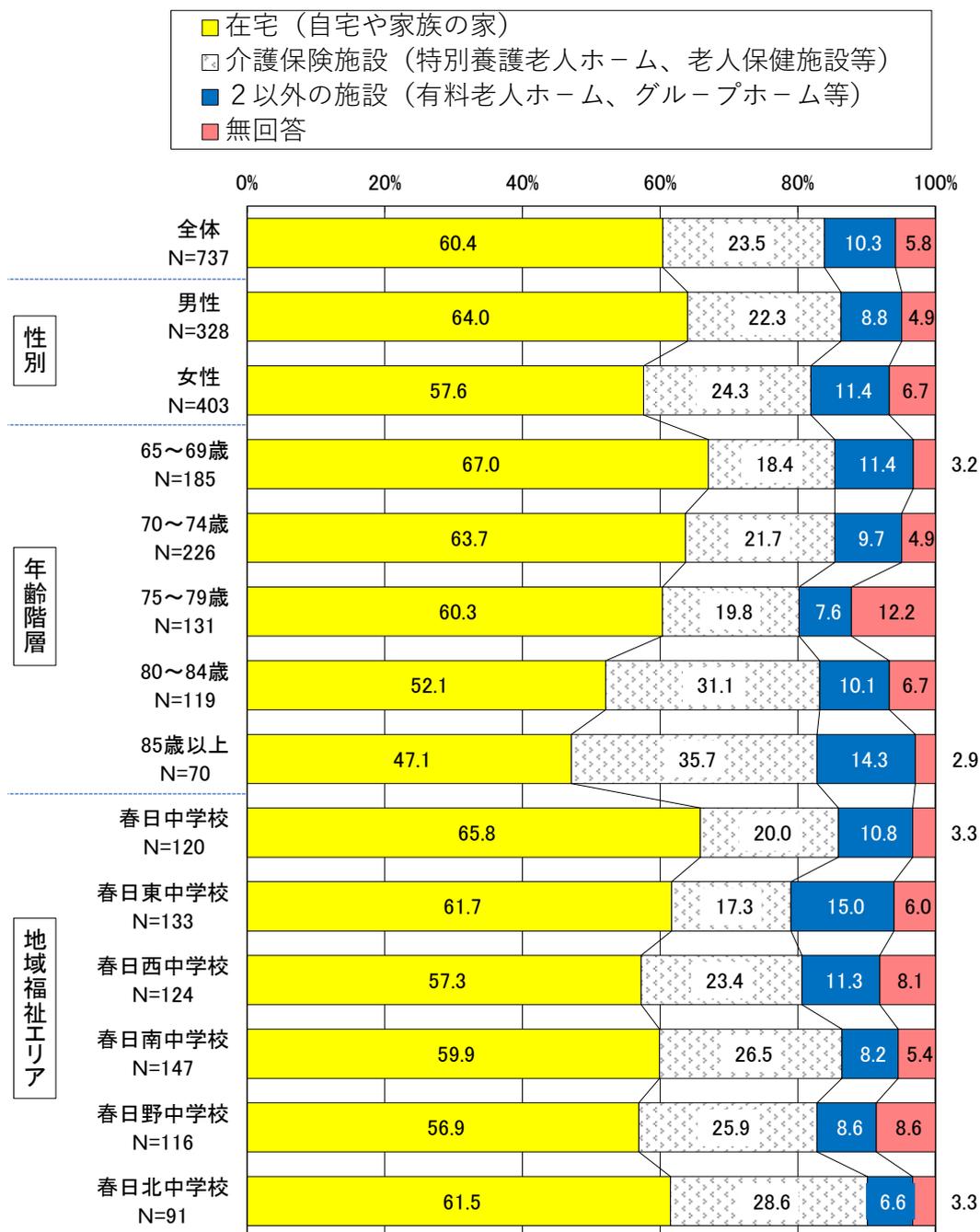
● 認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人の割合は全体の17.8%となっています。

(30) 春日市には、認知症がある高齢者等が行方不明になることに備えて、緊急連絡先及び写真等を登録する「認知症高齢者等事前登録制度」があります。緊急連絡先や写真等を登録し、本人特定の手がかりになる登録番号付のシール（見守りオレンジシール）を交付しています。この制度を知っていますか。（1つに○）



- 「認知症高齢者等事前登録制度」を知っていると回答した人の割合は全体の 12.8%となっており、男性（9.5%）より女性（15.1%）の方が認知度がやや高くなっています。

(31) あなたは、今後3年間で、今よりも介護が必要になったら、どこで暮らしたいですか。
(1つに○)

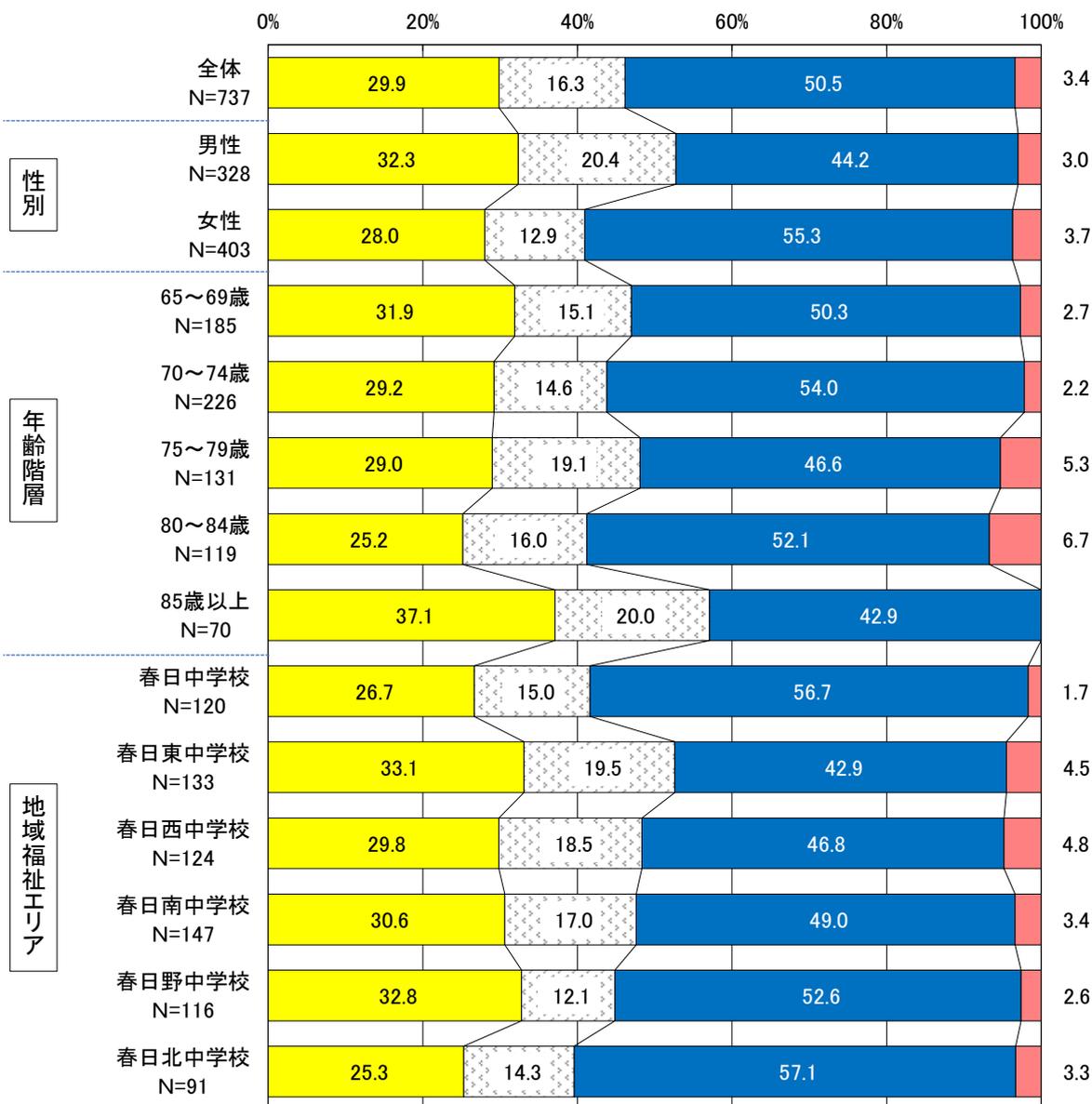


● 今よりも介護が必要になった時の暮らし方については、「在宅（自宅や家族の家）」と回答した人が全体の60.4%と最も多く、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院）」と回答した人は23.5%、「2以外の施設（有料老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅等）」と回答した人は10.3%となっています。

(32) 介護保険のサービス費用の半分は、皆さんの介護保険料でまかなうことになっています。そのため、サービスを利用する人が増えたり、サービスや事業が充実したりすると、介護保険料が高くなります。

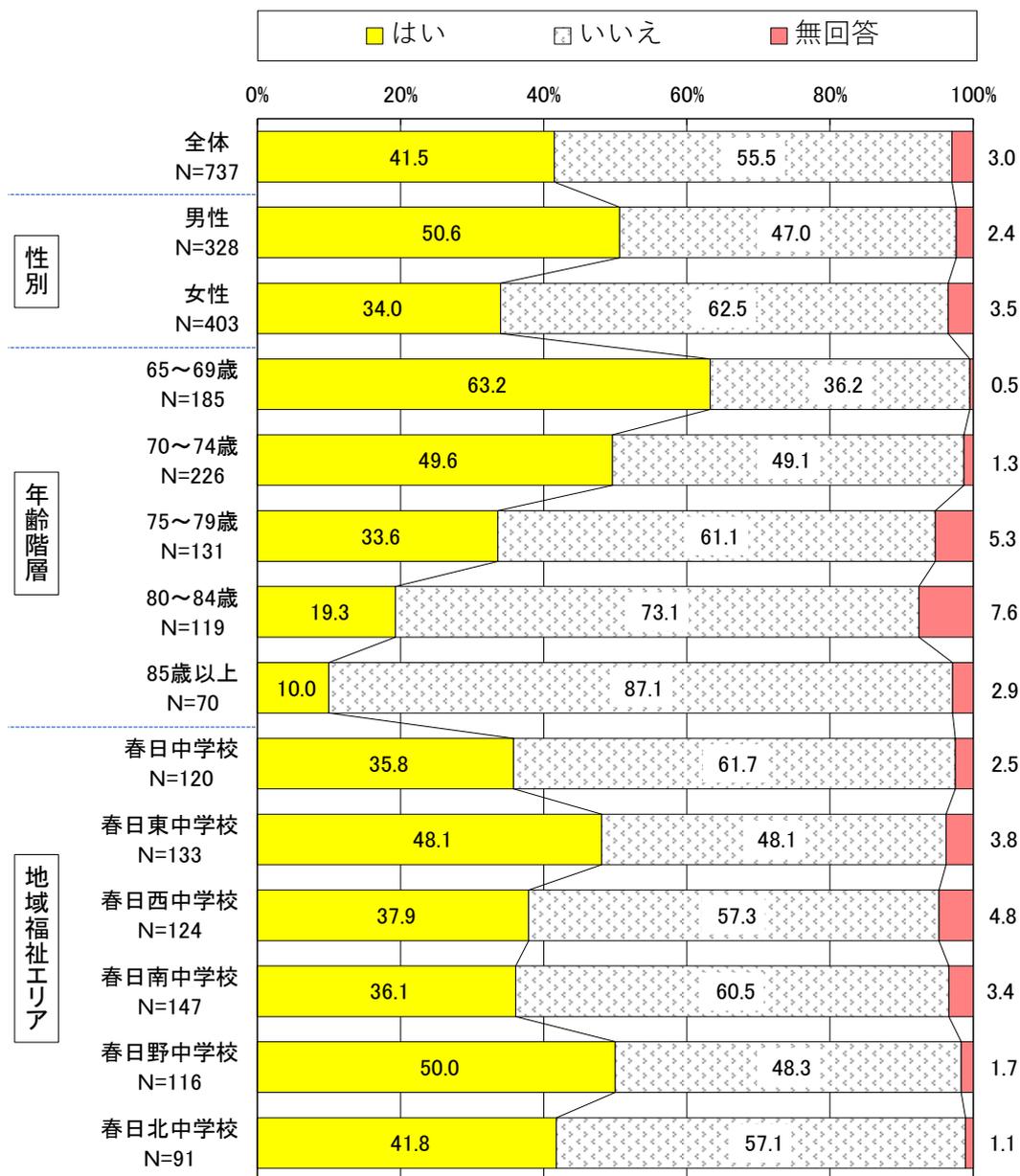
このような介護保険料のあり方について、あなたはどのように考えますか。(1つに○)

- サービスや事業が充実するのであれば、保険料がその分高くなってもやむを得ない
- サービスや事業が充実しなくても、保険料は低い方がよい
- どちらともいえない
- 無回答



● 介護保険料のあり方については、「サービスや事業が充実するのであれば、保険料がその分高くなってもやむを得ない」と回答した人(29.9%)が、「サービスや事業が充実しなくても、保険料は低い方がよい」と回答した人(16.3%)より多くなっていますが、「どちらともいえない」と回答した人が全体の50.5%と最も多くなっています。

(33) あなたは、インターネットから情報を得ていますか。(1つに〇)



- インターネットから情報を得ていると回答した人の割合は全体の 41.5%となっており、女性 (34.0%) より男性 (50.6%) の方が高い割合となっています。
- 年齢階層別にみると、年齢階層が低くなるにつれてインターネットから情報を得ていると回答した人の割合は高くなっており、「65～69歳」では63.2%となっています。

第 3 部

調査結果の分析

1 リスクの発生状況

1. からだを動かす

(1) 運動器の機能低下

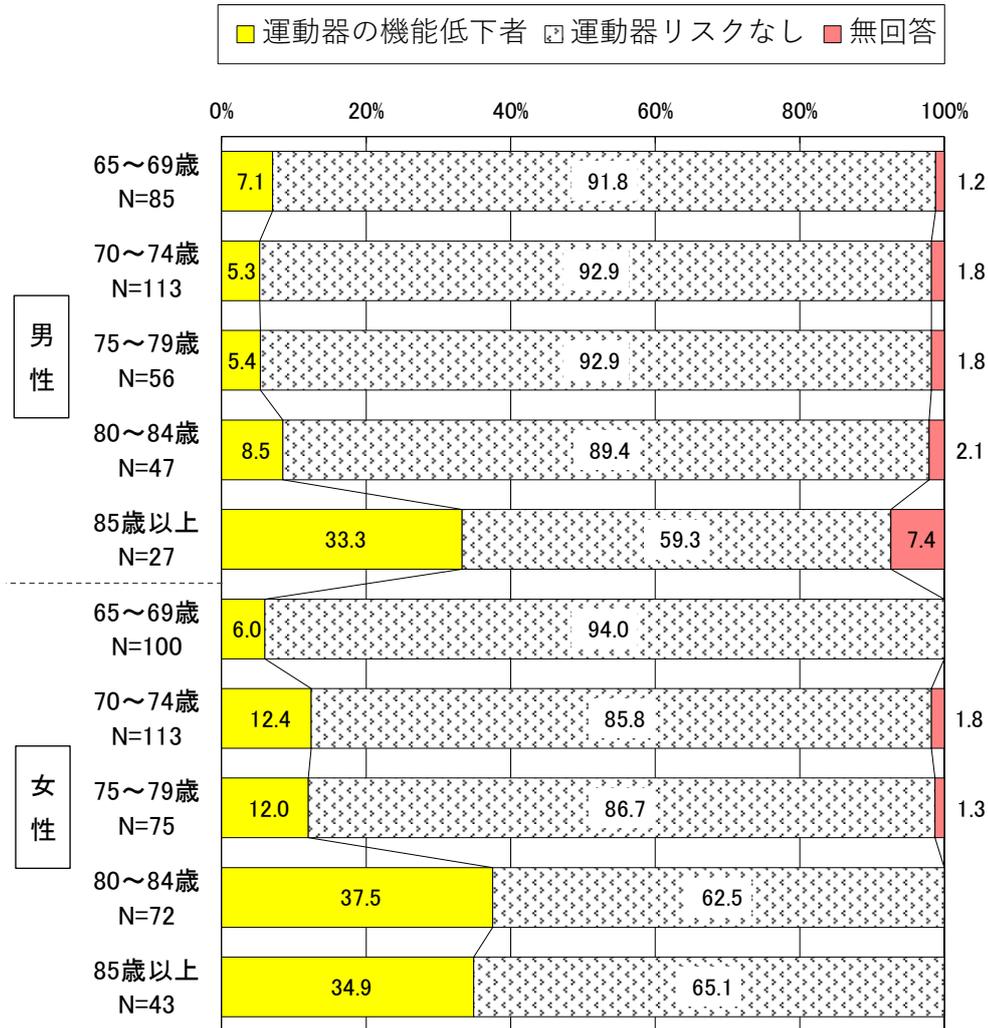
1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
①	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
②	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
③	15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
④	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
⑤	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

上記の設問のうち、3問以上該当する選択肢（上の表の網掛け箇所）が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者と判定されます。

男女別・年齢階層別のリスク判定の結果は次ページの図1のとおりで、男性は85歳以上、女性は80歳以上で運動器の機能低下者割合が高くなっていることがわかります。

図1 男女別・年齢階層別の運動器機能リスク判定結果



2) リスク者の地域分布

運動器機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になることから、リスク者の地域分布を見ることがとします（これは、運動器機能に限らず、以下の全てのリスクについても同様です）。

次ページの図2を見ると、居住地域福祉エリア別の機能低下者割合に極端な違いは見られませんが、最も機能低下者割合の高い春日東中学校エリア（16.5%）と最も低い春日野中学校エリア（10.3%）では、6.2ポイントの開きが見られます。

図1でも明らかなように、運動器の機能低下者割合は80歳以上になると高くなっていくことから、図2の居住地域福祉エリア別機能低下者割合の違いもエリアの年齢構成に影響を受けているのではないかと考えられます。図3の地域福祉エリア別年齢構成と比較すると、機能低下者割合の低い春日野中学校エリアは、80歳以上の割合が他の圏域よりも低いことから、この点については説明がつきそうです。しかし、例えば80歳以上の高齢者割合が最も高い春日北中学校エリアでは機能低下者割合が春日野中学校エリアに次いで低くなっており、年齢構成のみで機能低下者割合の違いを説明することは難しそうです。

図2 居住地域福祉エリア別の運動器機能リスク判定結果

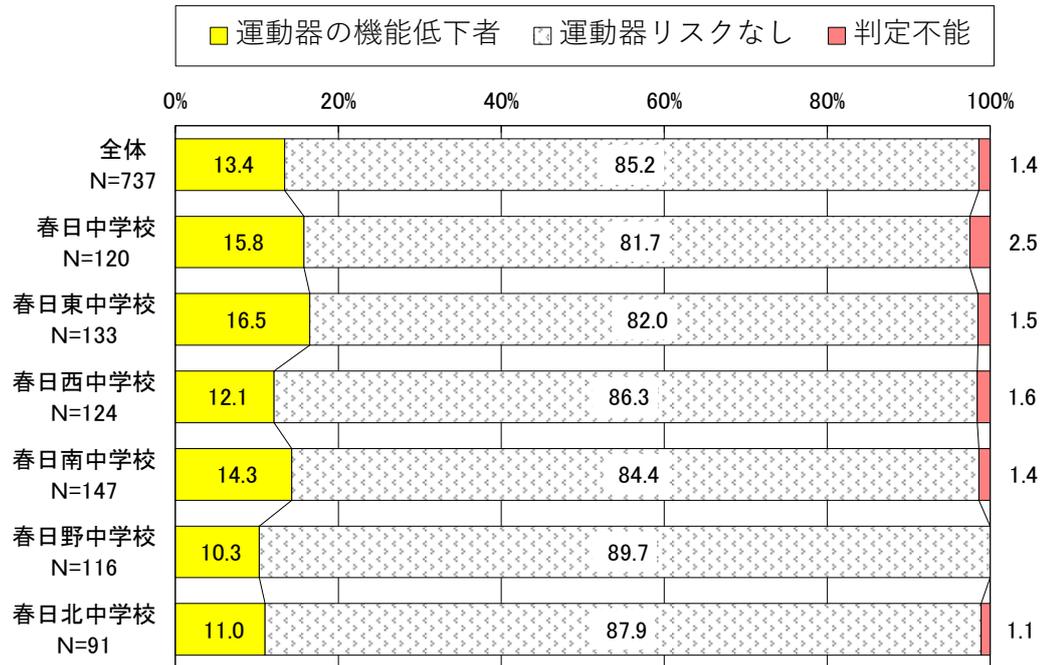
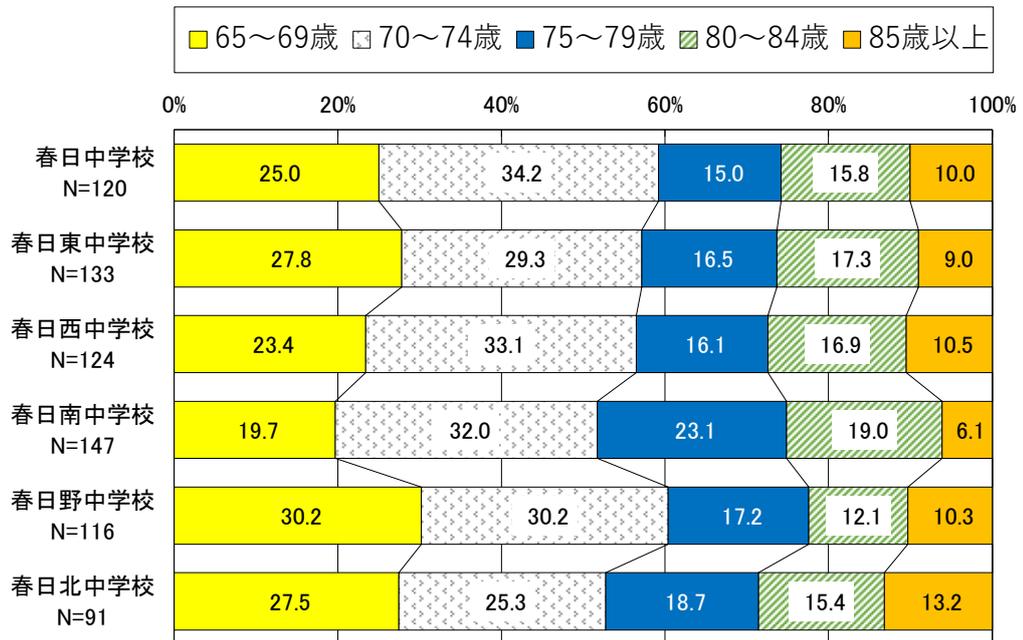


図3 地域福祉エリア別年齢構成



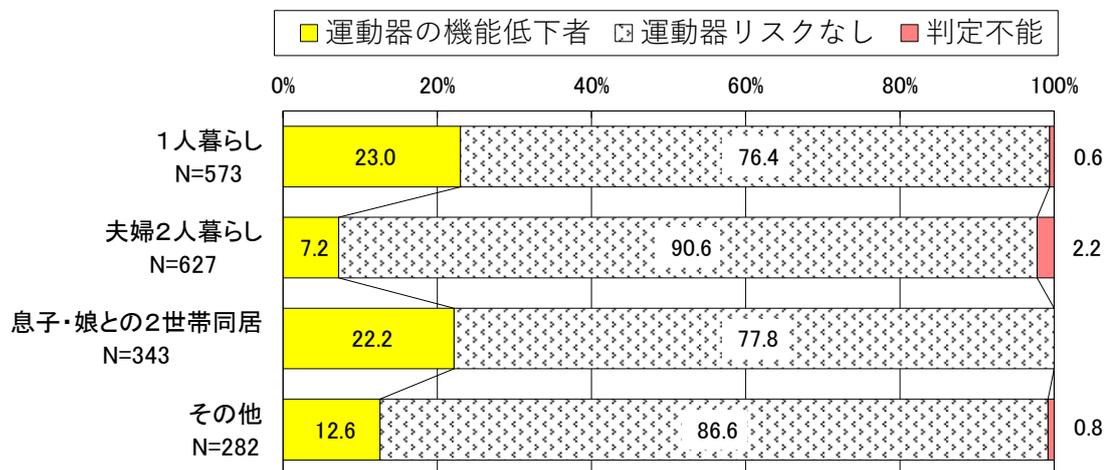
3) 家族構成別の状況

運動器機能が低下していると判定された高齢者の割合は、家族構成によってもやや傾向が異なります。

運動器の機能低下者割合が高いのは、「1人暮らし」(23.0%)と「息子・娘との2世帯同居世帯」(22.2%)となっており、「夫婦2人暮らし」の割合は7.2%と低くなっています(図4参照)。

「夫婦2人暮らし」よりも「息子・娘との2世帯同居」の方がリスク者割合が高い結果については、運動器機能が低下したことで1人暮らしや夫婦2人暮らしから同居に移行した、普段の生活の大部分、若しくは一部を息子や娘に手伝ってもらうことで運動器機能が衰えたなど、いくつかの要因が考えられます。

図4 家族構成別運動器機能リスク判定結果



(2) 転倒リスク

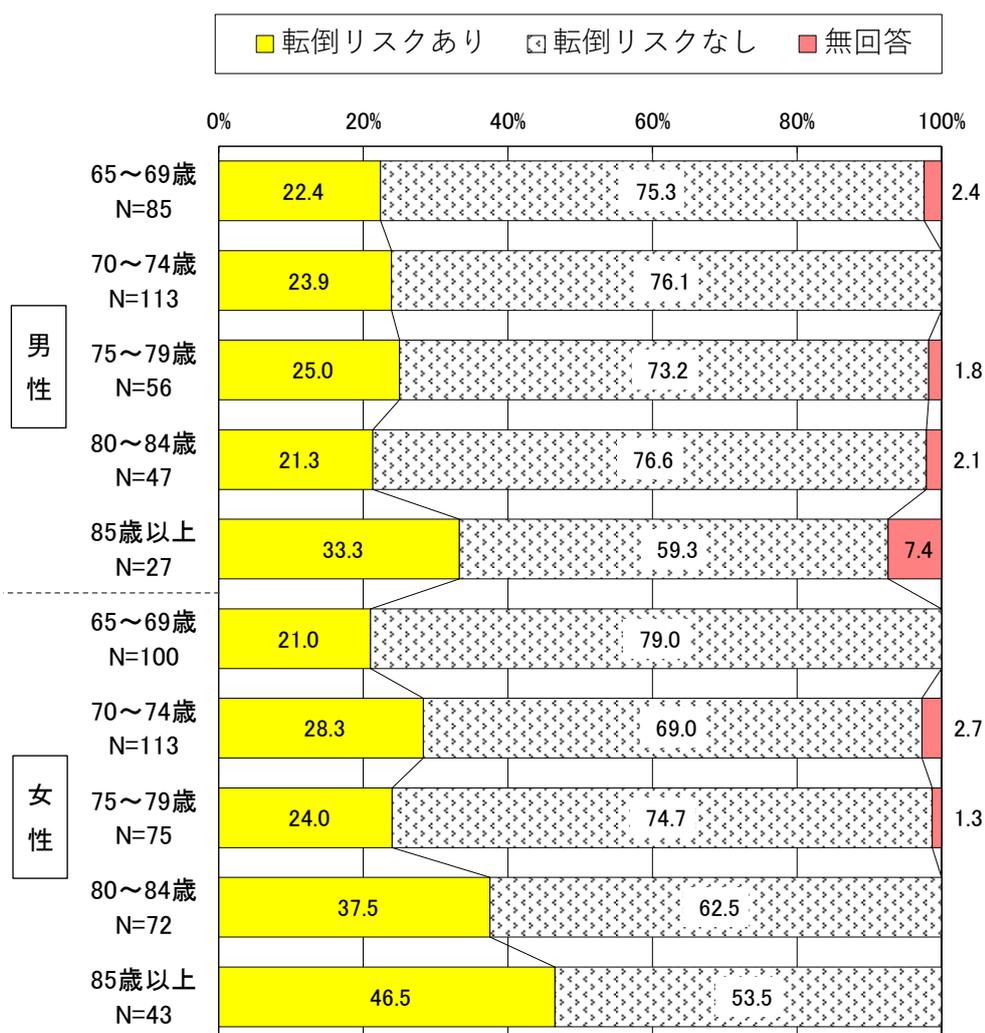
1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
④	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

④で「1. 何度もある」「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者と判定されます。

男女別・年齢階層別のリスク判定の結果は図5のとおりで、男女ともに概ね年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっていることがわかります。

図5 男女別・年齢階層別の転倒リスク判定結果

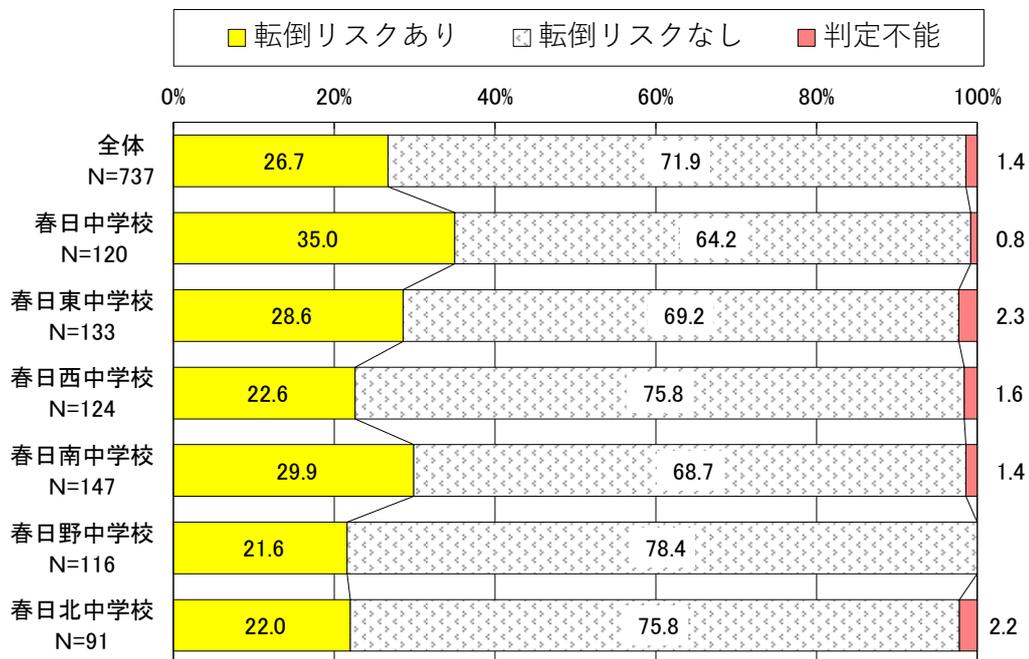


2) リスク者の地域分布

図6を見ると、最もリスク者割合の高い春日中学校エリア（35.0%）と最もリスクの低い春日野中学校エリア（21.6%）では、13.4ポイントの開きが見られます。春日野中学校エリアのリスク者割合の低さは80歳以上の高齢者割合の低さ（図3参照）が影響していると言えそうですが、春日中学校エリアの80歳以上の割合は他のエリアに比べ高いわけではなく、転倒リスクについても年齢構成のみでリスク者割合の違いを説明することは難しそうです。

なお、転倒リスクの有無は転んだ経験があるかどうかで判定されますので、道路の整備状況や段差の多さなどの要因が分析結果に影響することも考えられます。

図6 居住地域福祉エリア別の転倒リスク判定結果



(3) 閉じこもり傾向

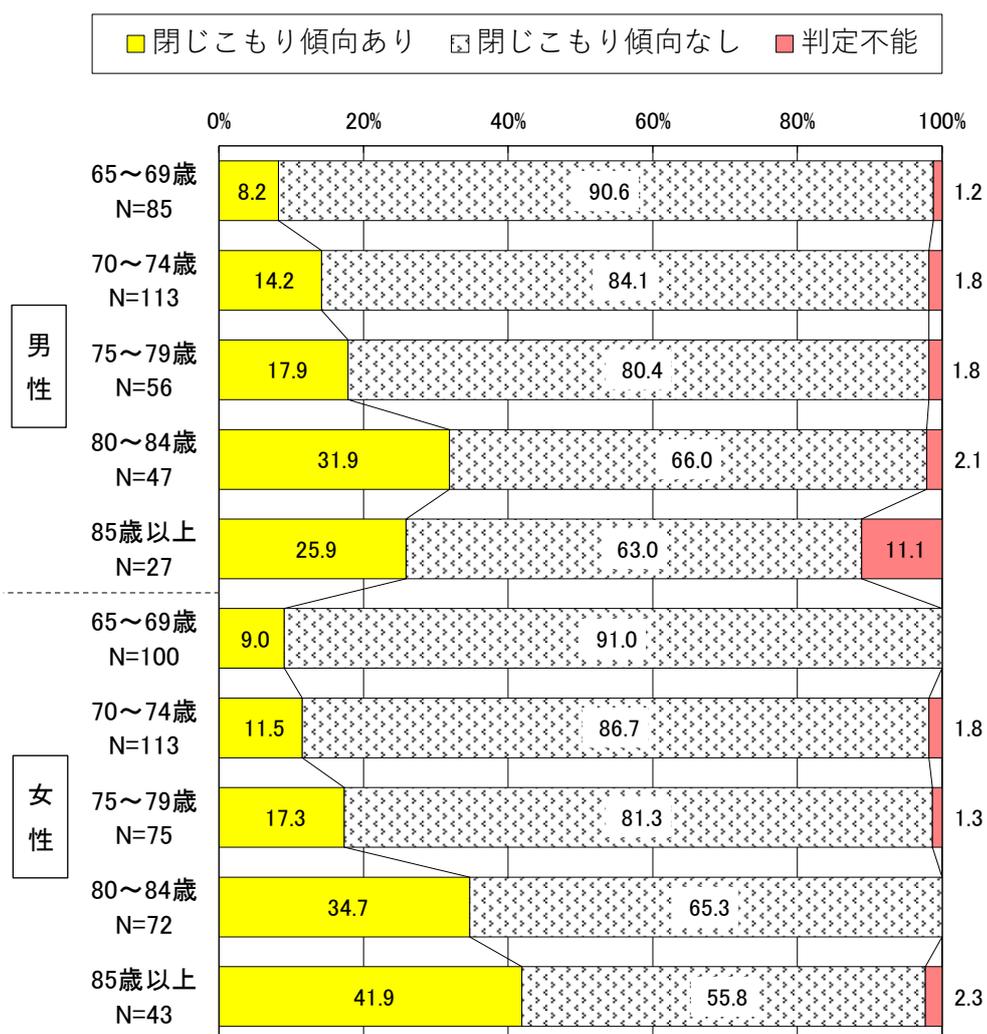
1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
⑥	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

⑥で「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と判定されます。

男女別・年齢階層別のリスク判定の結果は図7のとおりで、男女ともに概ね年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっていることがわかります。

図7 男女別・年齢階層別の閉じこもりリスク判定結果

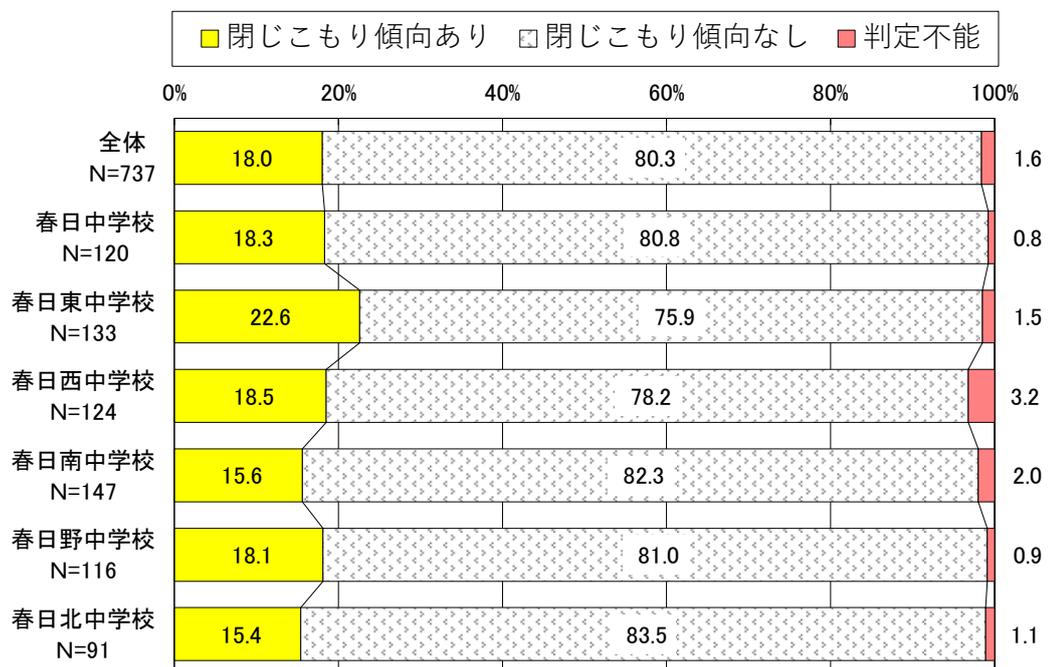


2) リスク者の地域分布

図8を見ると、最もリスク者割合の高い春日東中学校エリア（22.6%）と最もリスクの低い春日北中学校エリア（15.4%）では、7.2ポイントの開きが見られます。

春日東中学校エリアよりも春日北中学校エリアの方が80歳以上の高齢者割合も、後期高齢者割合も高くなっていますので、年齢構成からは説明がつかず、他に外出を躊躇するようなそのエリア特有の地理的、心理的、環境的な要因がないかなどについて、検討する必要があります。

図8 居住地域福祉エリア別の閉じこもりリスク判定結果

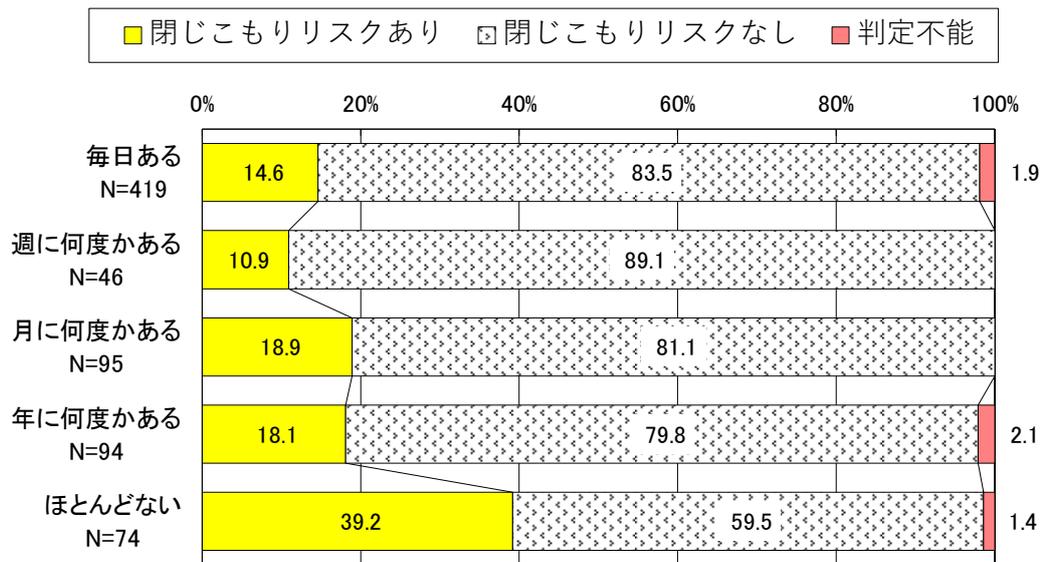


3) 閉じこもり傾向と孤食の関係

閉じこもりリスクは孤食とも関係があります。誰かと食事をともにする機会が「ほとんどない」と回答した人の閉じこもりリスク者割合は39.2%と高くなっています。

「毎日ある」「週に何度かある」と回答した人のリスク者割合が低いことから、少なくとも週に何度かは誰かと食事をともにすることが閉じこもりリスクの低減に一定の効果をもたらすことが期待できます。

図9 食事の状況別閉じこもりリスク判定結果



(4) 各リスクと外出回数減少との関係

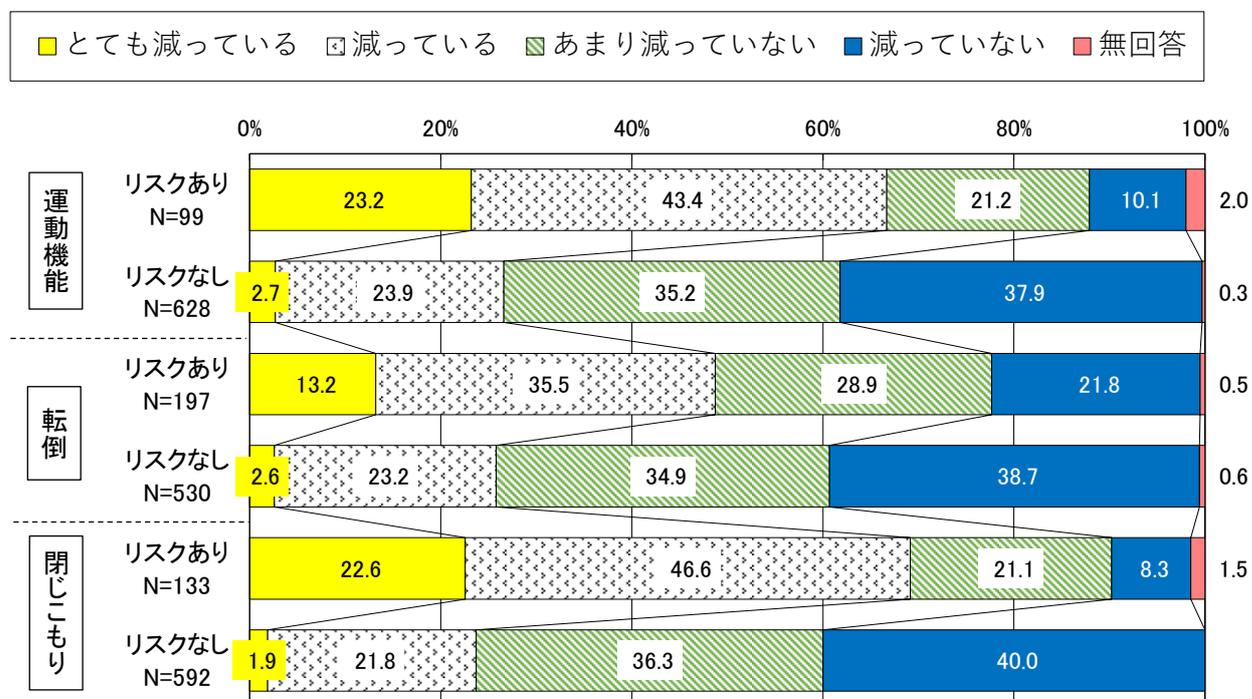
No.	設問内容	選択肢
⑦	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない

⑦は外出回数の減少を問う設問です。(1)で判定した運動器機能低下、(2)で判定した転倒リスク、(3)で判定した閉じこもり傾向とクロス集計することで、外出回数の減少とリスクの有無の関係を分析することが可能となります。

図10を見ると、外出回数が「とても減っている」「減っている」と回答した高齢者は、運動器機能低下のリスク者(66.6%)、閉じこもりリスク者(69.2%)でいずれも6割を超え、高い割合となっています。

運動器の機能低下が外出回数の減少につながっているのか、それとも、外出回数の減少が運動器機能低下の要因となっているのかは本調査結果のみでは検証できませんが、追跡調査によって因果関係が明らかになれば、地域で外出を促すなどの試みが、各種リスクの予防につながる可能性もあり得ます。

図10 リスクの有無と外出回数減少の関係



2. 食べる

(1) 咀嚼機能の低下

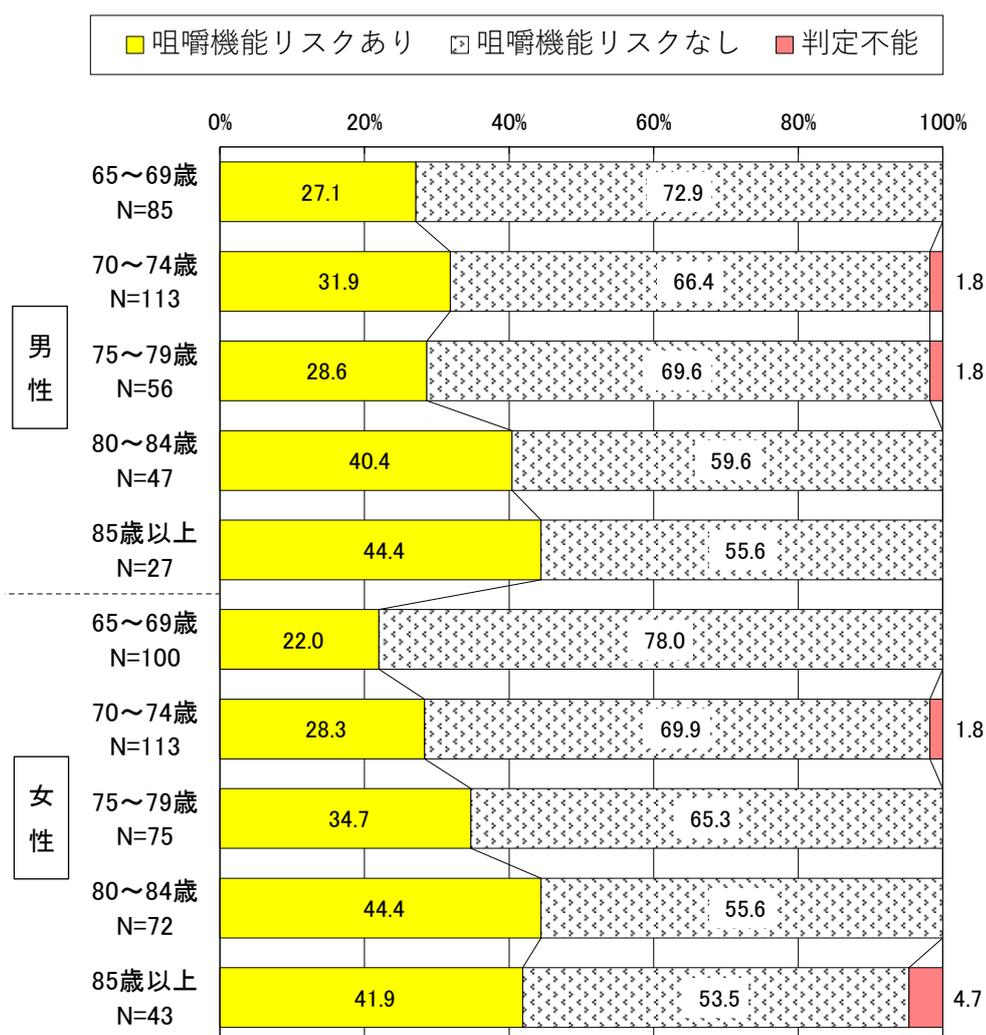
1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
①	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ

①で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。

男女別・年齢階層別のリスク判定の結果は図 11 のとおりで、男女ともに概ね年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっていることがわかります。

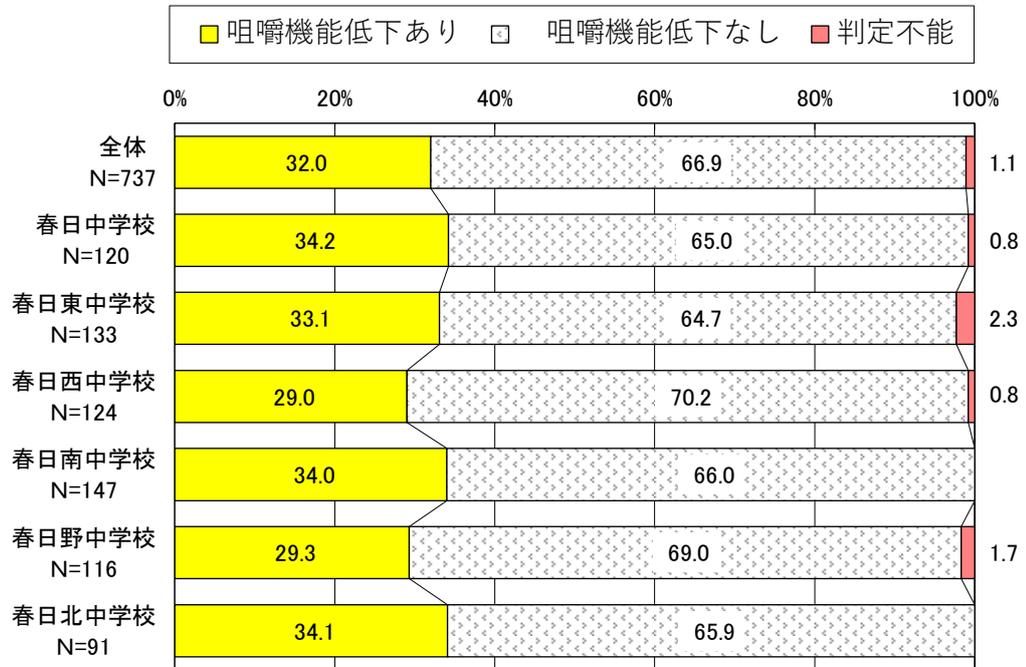
図 11 男女別・年齢階層別の咀嚼機能リスク判定結果



2) リスク者の地域分布

咀嚼機能低下のリスク者割合は全体平均で 32.0%となっており、居住地域福祉エリア別にも大きな差異はありません。

図 12 居住地域福祉エリア別の咀嚼機能リスク判定結果

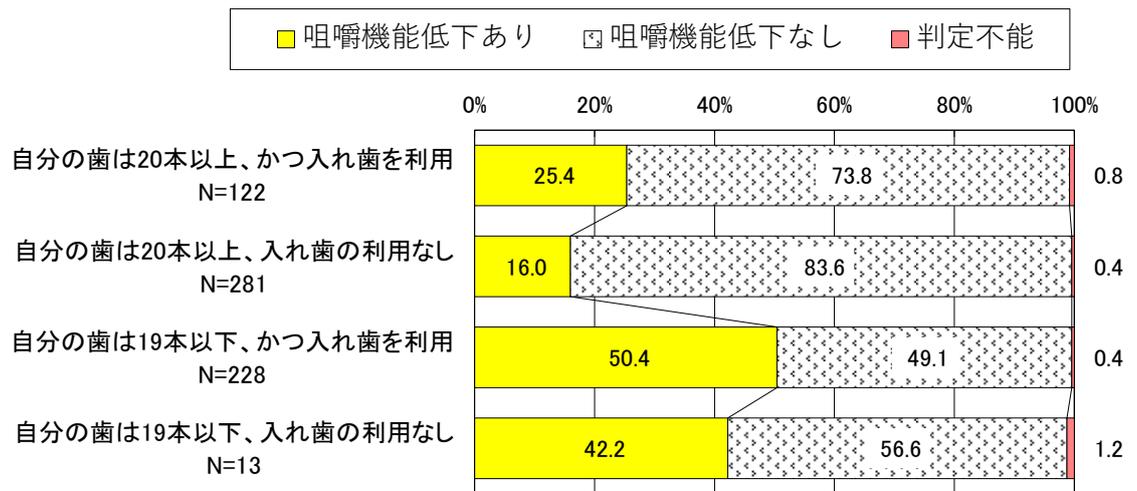


3) 咀嚼機能と歯の状況の関係

咀嚼機能と歯の状況の関係をみると、入れ歯の利用によってもリスク者の割合は増加していますが、入れ歯よりも自分の歯の本数の方が、よりリスク者の割合に対して強い要因であることが分かります。

「自分の歯は19本以下」と回答した人では、入れ歯の利用がなくても42.2%に咀嚼機能の低下が見られる結果となっています。

図 13 歯の状況別咀嚼機能リスク判定結果



3. 毎日の生活

(1) 認知機能の低下

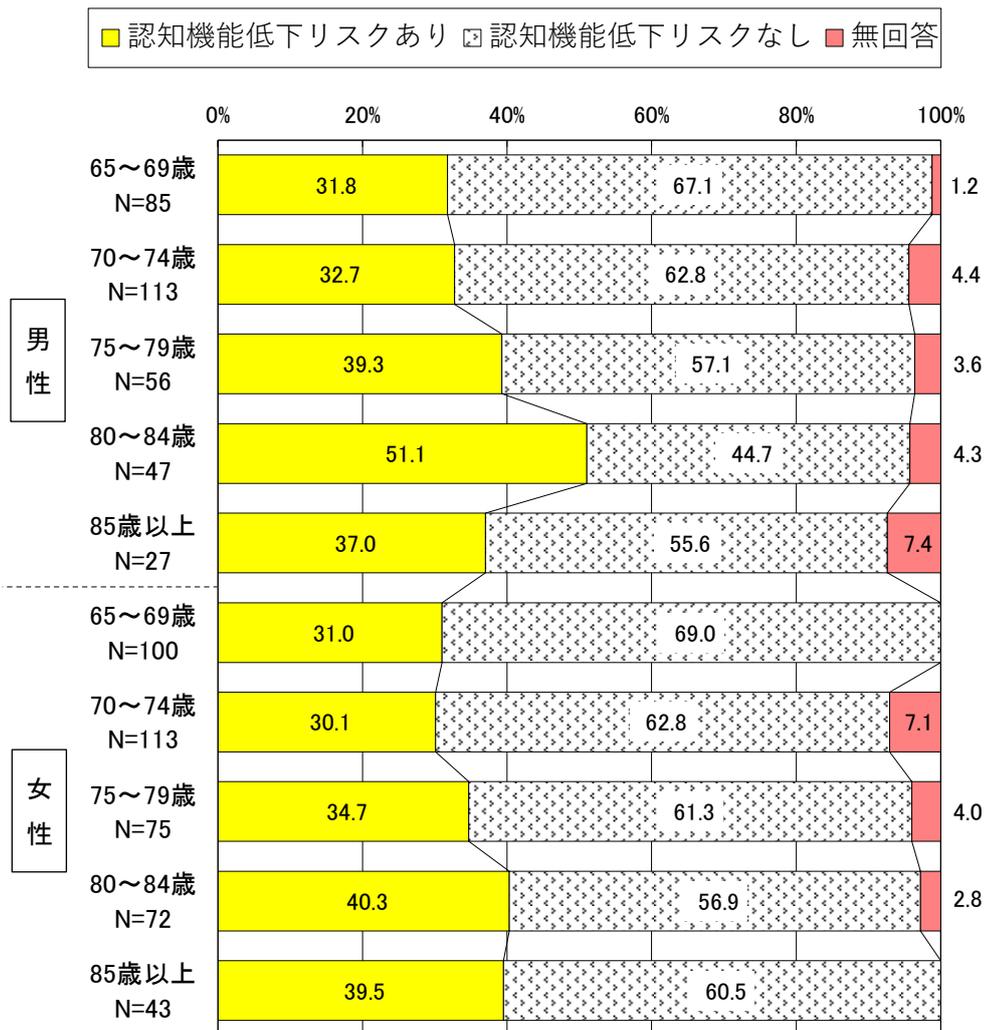
1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
①	物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

①で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者と判定されます。

男女別・年齢階層別のリスク判定の結果は図14のとおりで、一部ばらつきはありますが、男女とも75歳以上でリスク者割合が高くなっていることがわかります。

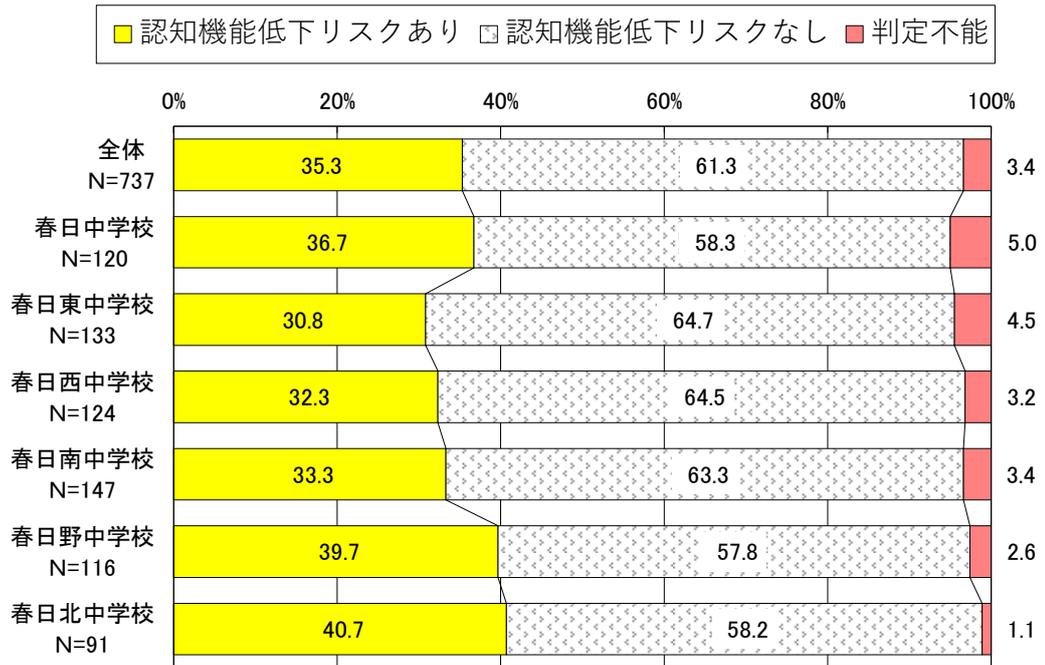
図14 男女別・年齢階層別の認知機能低下リスク判定結果



2) リスク者の地域分布

認知機能低下のリスク者割合は全体平均 35.3%となっており、居住地域福祉エリア別にみると、リスク者割合の最も低い春日東中学校エリア（30.8%）と最も高い春日北中学校エリア（40.7%）との間には 9.9 ポイントの差がみられます。

図 15 居住地域福祉エリア別の認知機能低下リスク判定結果



(2) IADLの低下

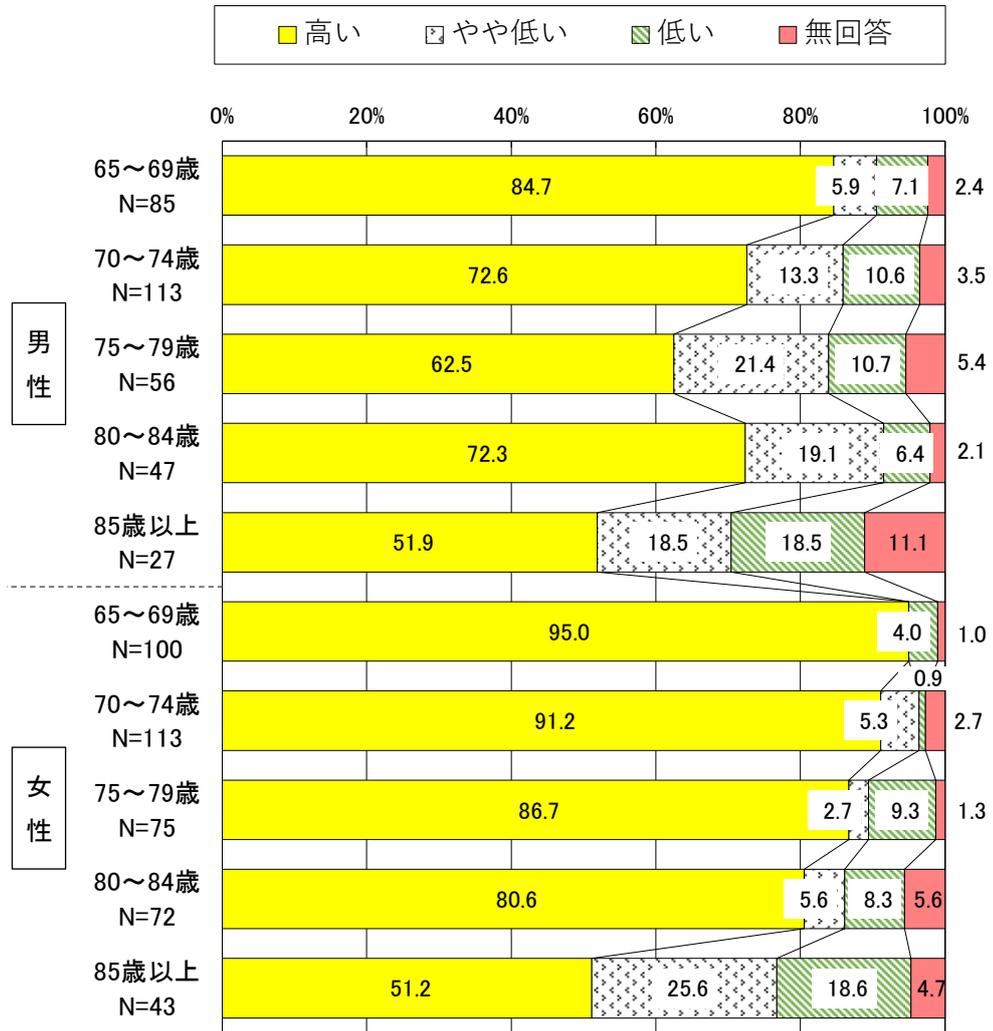
1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
②	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
③	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
④	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
⑤	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
⑥	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

上記設問で、「1. できるし、している」「2. できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点でIADLを評価します（5点を「1. 高い」、4点を「2. やや低い」、3点以下を「3. 低い」とします）。

男女別・年齢階層別のリスク判定の結果は次ページの図16のとおりで、男性は一部ばらつきはありますが、概ね年齢階層が高くなるにつれてリスク者割合が高くなっているのに対し、女性は85歳以上になると急激にリスク者割合が高くなっていることがわかります。

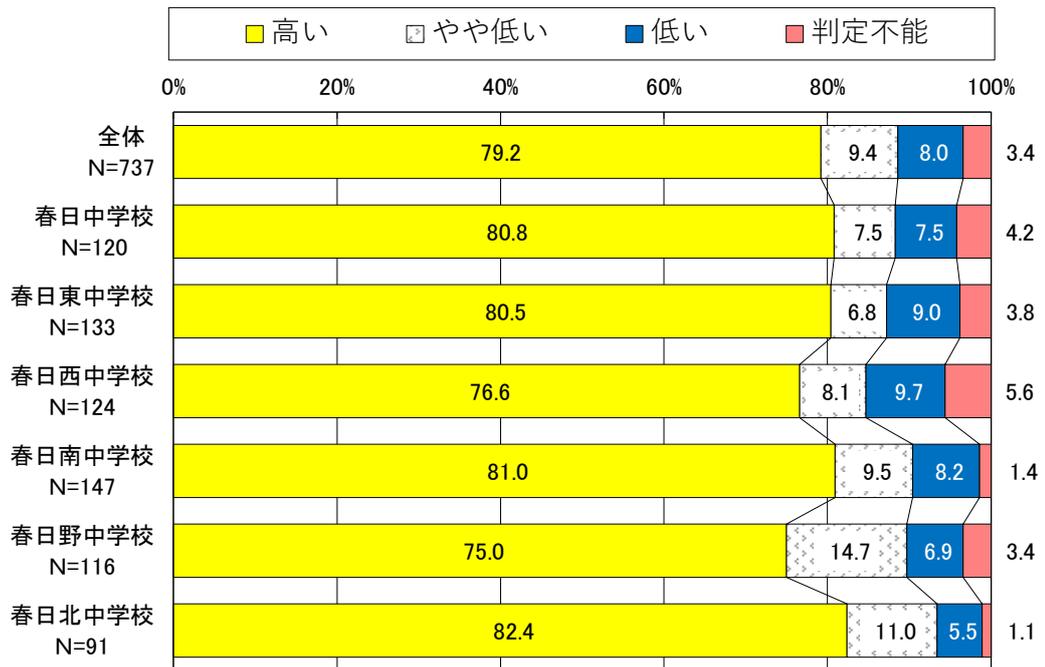
図 16 男女別・年齢階層別 I A D L 判定結果



2) リスク者の地域分布

IADLが「やや低い」「低い」人の割合は、全体平均で 17.4%となっていますが、春日野中学校エリアを除き、いずれの地域福祉エリアも平均から±2ポイントの間に収まっており、居住地域福祉エリア別の分布特性はほとんど見られません（次ページの図 17 参照）。

図 17 居住地域福祉エリア別の I A D L 判定結果



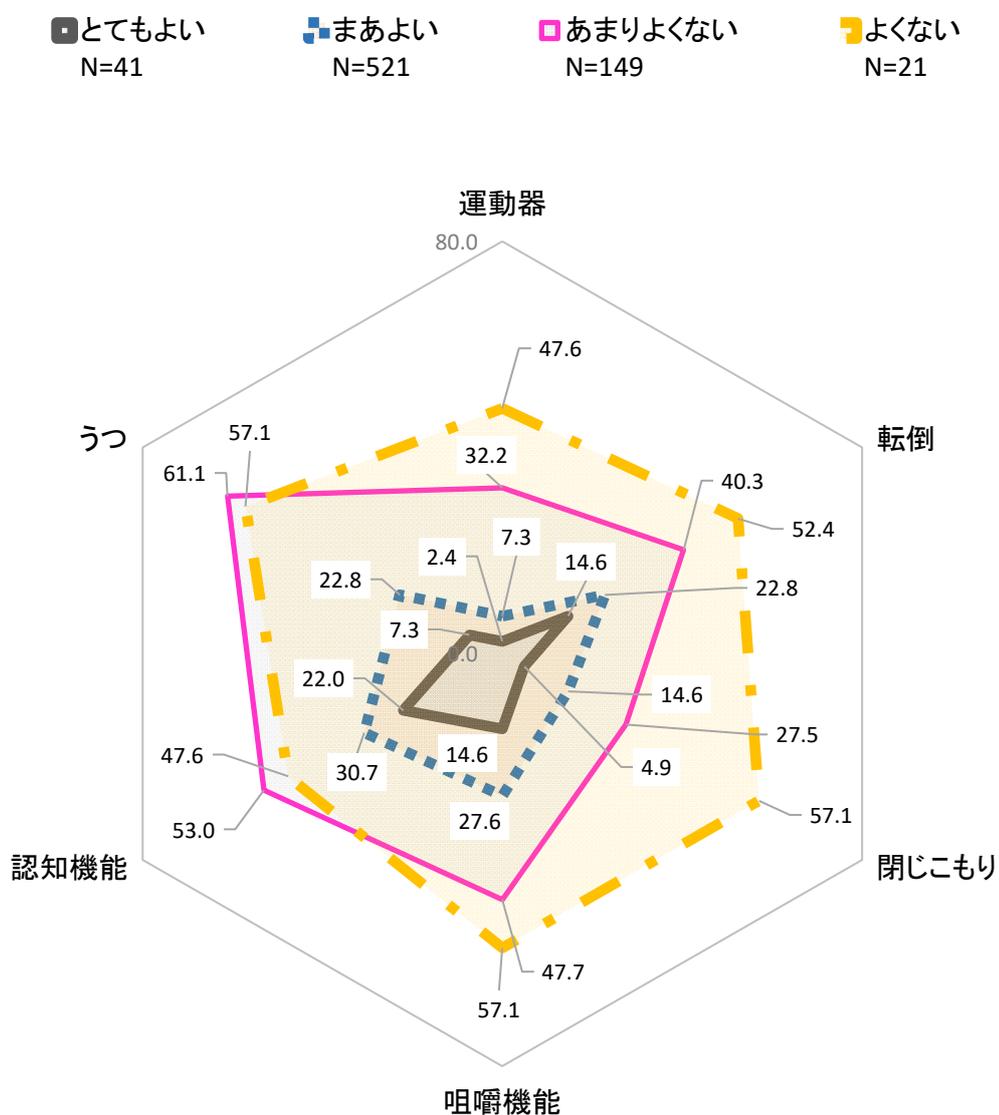
4. 健康と幸せ

(1) 主観的健康感

主観的健康感と各リスク者割合との関係を見ると、主観的健康感がよい人ほど、リスク者の割合が低くなる傾向にあることが分かります。

たとえば、「運動器の機能低下」のリスク者の割合は、主観的健康感が「よくない」人では47.6%になりますが、「とてもよい」人では2.4%であり、実に20倍近い差があります。

図 18 主観的健康感と各リスク者割合との関係



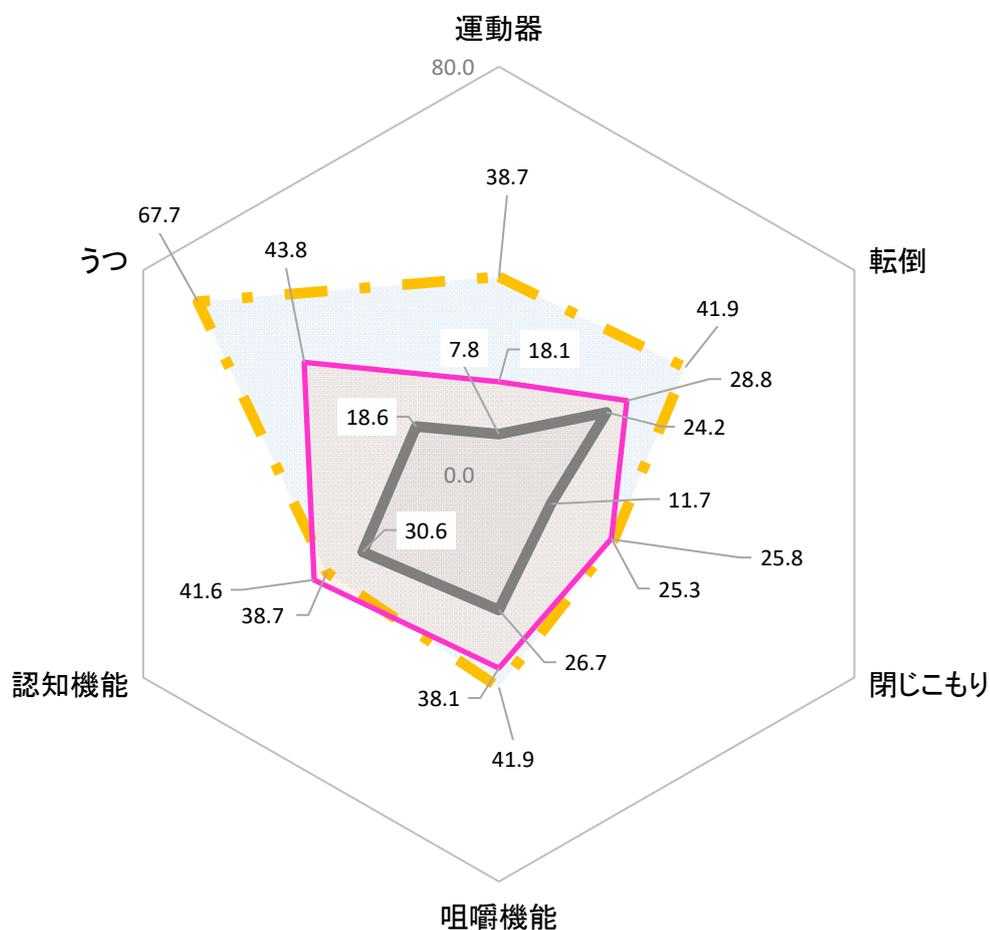
(2) 主観的幸福感

主観的幸福感と各リスク者割合との関係を見ると、主観的幸福感が高い人ほど、リスク者の割合が低くなる傾向にあることが分かります。

「うつ」と主観的幸福感の相関が高いことは当然のことながら、認知機能や咀嚼機能、運動器、転倒、閉じこもりなど、ほとんどの分野で主観的幸福感がリスク者の低減要因にあることが分かります。

図 19 主観的幸福感と各リスク者割合との関係

■ 幸福度が低い(0~3点) N=31
 ■ 幸福度は普通(4~6点) N=281
 ■ 幸福度が高い(7~10点) N=409



(3) うつ傾向

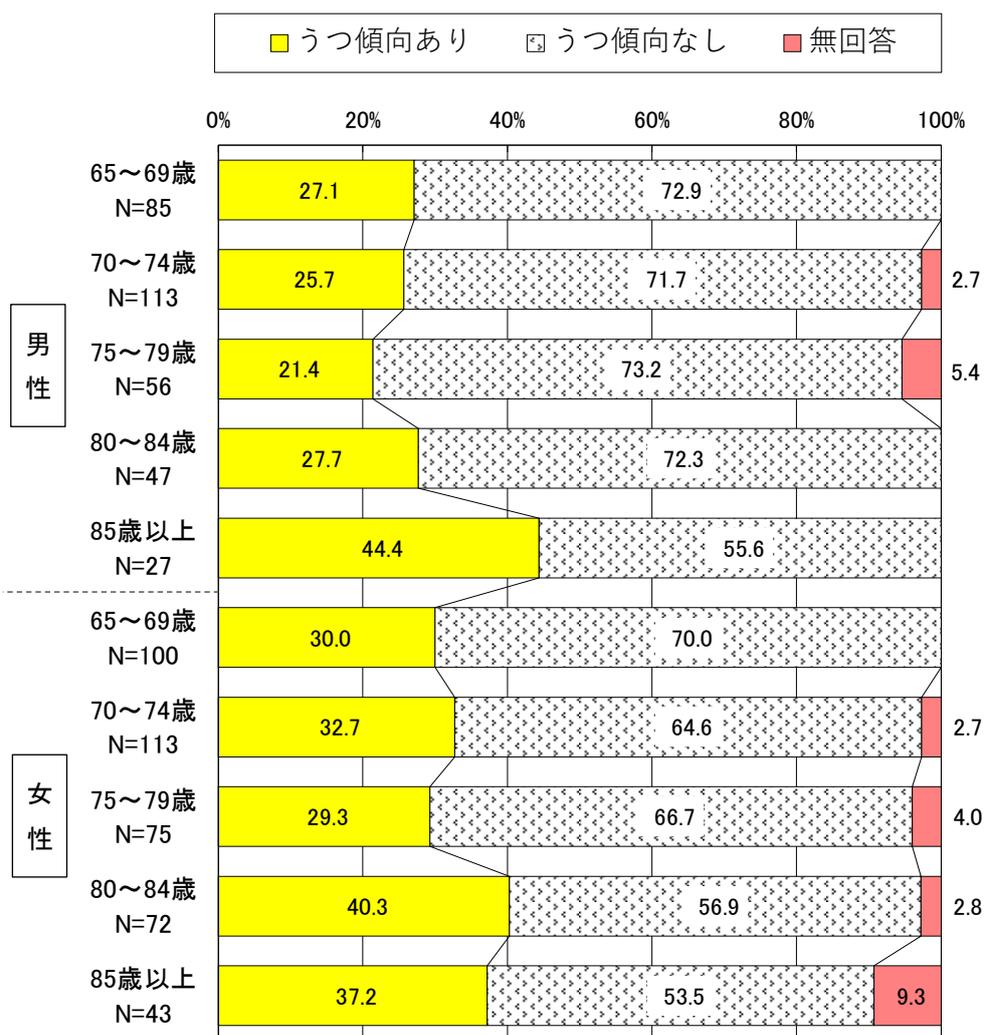
1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
①	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
②	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

①、②でいずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者と判定されます。

男女別・年齢階層別のリスク判定の結果は図 20 のとおりで、男性は 85 歳以上、女性は 80 歳以上でうつ傾向ありと判定される割合が高くなっています。

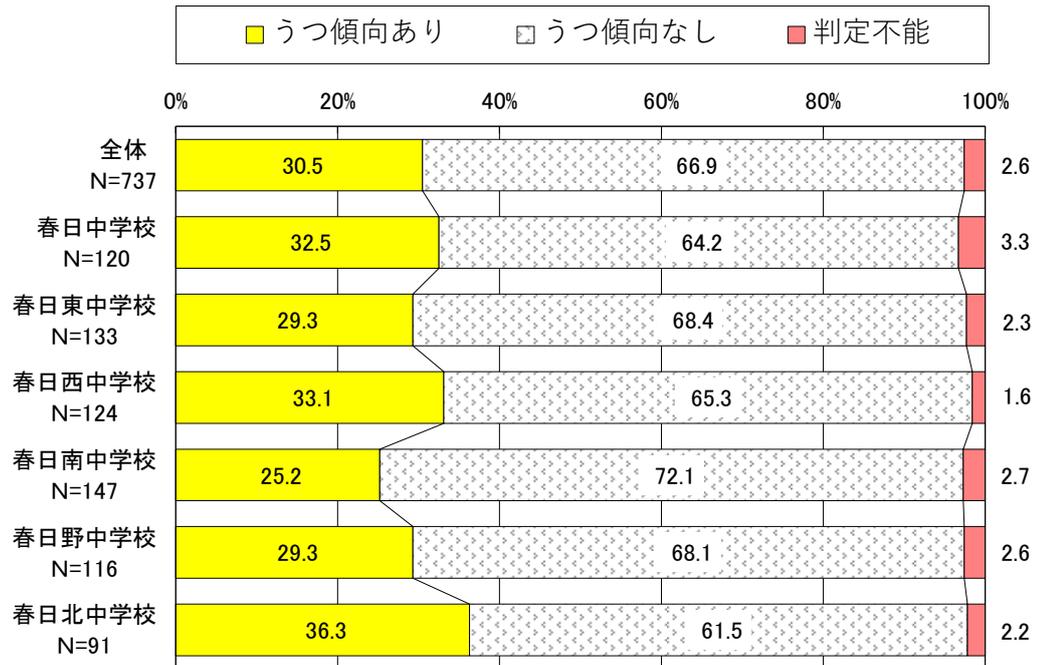
図 20 男女別・年齢階層別のうつリスク判定結果



2) リスク者の地域分布

うつ傾向にある人の割合は全体で 30.5% となっており、最も割合の低い春日南中学校エリア (25.2%) と最も割合の高い春日北中学校エリア (36.3%) との間には、11.1 ポイントの差がみられます。

図 21 居住地福祉エリア別のうつリスク判定結果



春日市介護予防・日常生活圏域二一才調査結果報告書

令和5年4月

発行 福岡県春日市
企画・編集 春日市地域共生部高齢課

〒816-8501 福岡県春日市原町 3-1-5
TEL (092) 584-1111 (代)
FAX (092) 584-1142 (代)
